

「健康ながはま 21」に関する アンケート調査結果報告書

平成 25 年度

長 浜 市

目次

1.	調査の概要	
	(1) 調査目的	2
	(2) 調査対象	2
	(3) 調査期間・方法	2
	(4) 回収状況	2
2.	調査結果	
	1 あなたの家族や生活状況について	3
	2 食事について	12
	3 運動について	22
	4 喫煙について	26
	5 飲酒について	28
	6 歯科について	32
	7 健康管理について	35
	8 心と休養について	39
	9 地域医療に関することについて	51
付.	調査票	84

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、健康ながはま 21（健康増進計画）の評価および改定をするにあたって、市民の意識などを把握し、効果的な保健事業の実施をめざすため、アンケート調査を行い、その調査結果の分析を総合的に行いました。

(2) 調査対象

住民基本台帳により、16 歳以上の市民から 3,000 人を無作為に抽出しました。

(3) 調査期間・方法

住平成 25 年 10 月 2 日から平成 25 年 10 月 16 日まで郵便による配布・回収を行いました。

(4) 回収状況

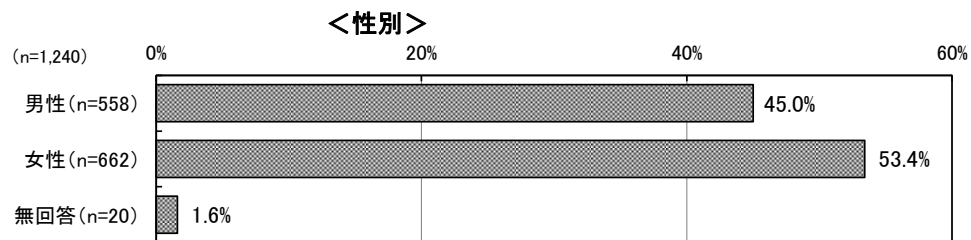
- ・配布数 : 3,000 件
- ・回収数 : 有効回答数 1,240 件
- ・回収率 : 41.3%

2. 調査結果

1. あなたの家族や生活状況について

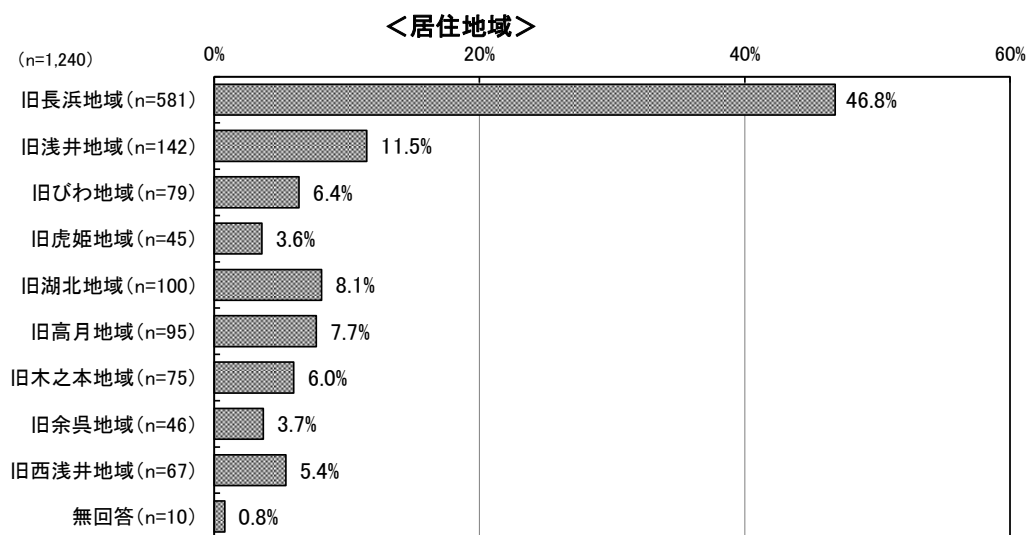
(1) 性別 【問 1】

回答者の性別は、「女性」が53.4%、「男性」が45.0%となっています。



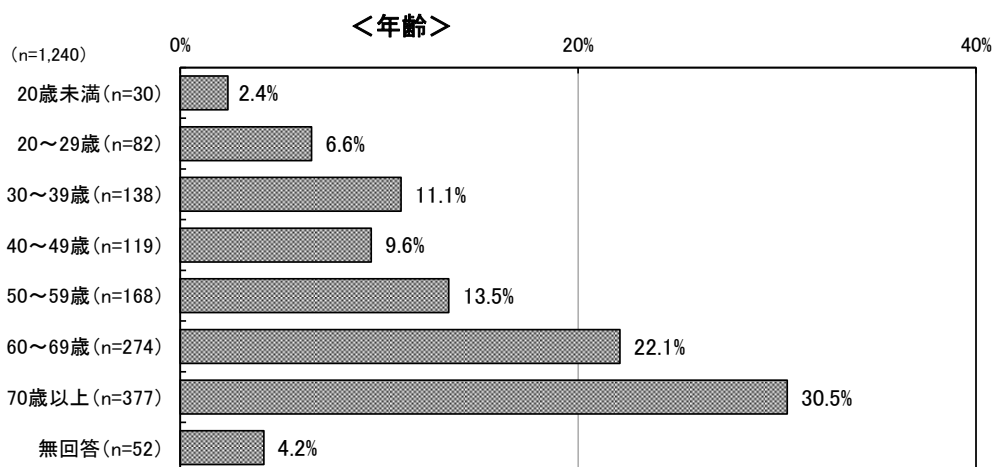
(2) 居住地域 【問 2】

居住地域については、「旧長浜地域」が46.8%で、以下「旧浅井地域」11.5%、「旧湖北地域」8.1%と続いています。



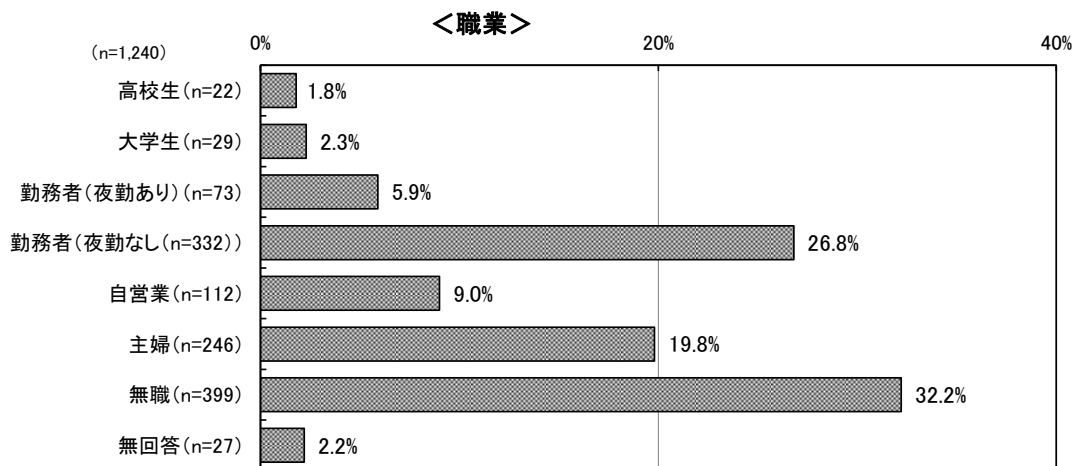
(3) 年齢 【問 3】

年齢については、「70 歳以上」が 30.5%で、以下「60～69 歳」22.1%、「50～59 歳」13.5%と続いています。



(4) 職業 【問 4】

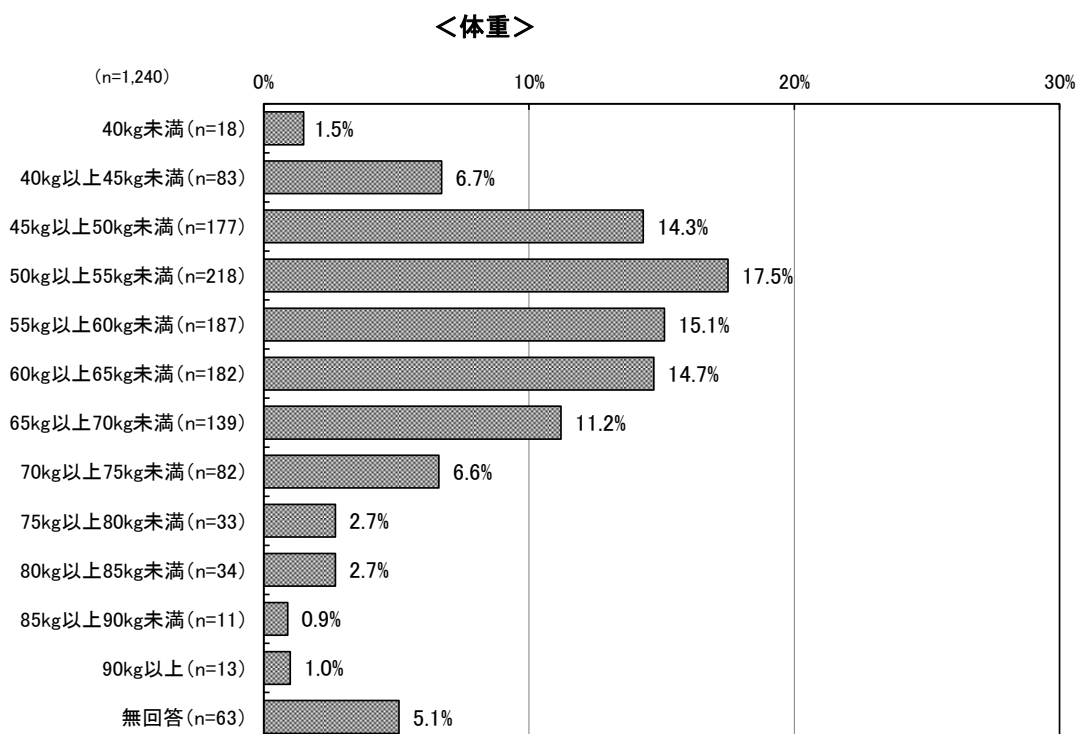
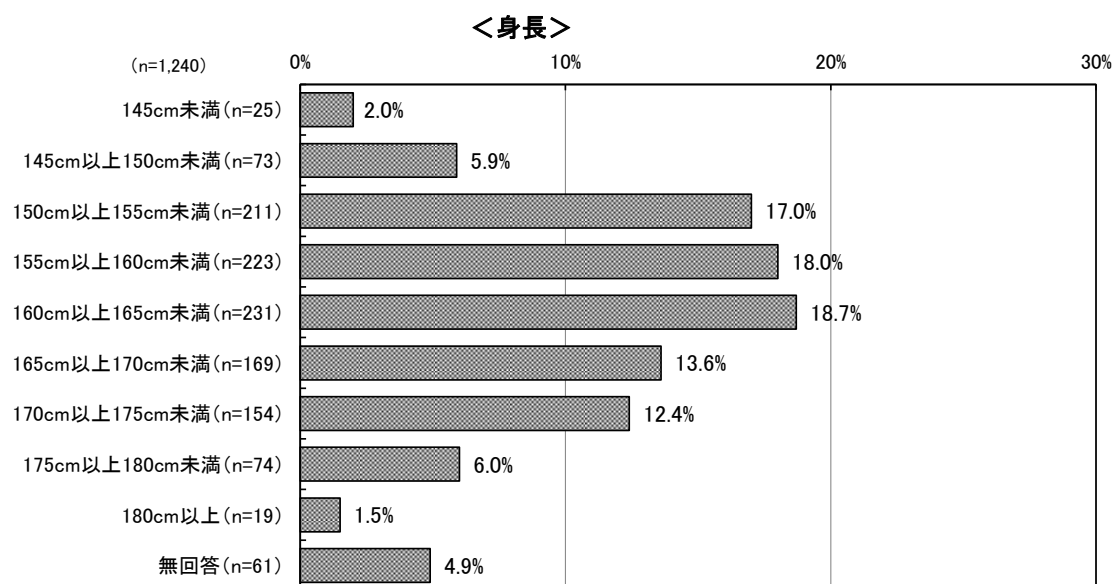
職業については、「無職」が 32.2%で、以下「勤務者（夜勤なし）」26.8%、「主婦」19.8%と続いています。



(5) 身長・体重 【問5】

身長については、「160～165cm 未満」が 18.7%で最も多く、以下「155～160 未満」18.0%、「150～155 未満」17.0%と続いています。

体重については、「50～55kg 未満」が 17.5%で最も多く、以下「55～60kg 未満」15.1%、「60～65kg 未満」14.7%と続いています。

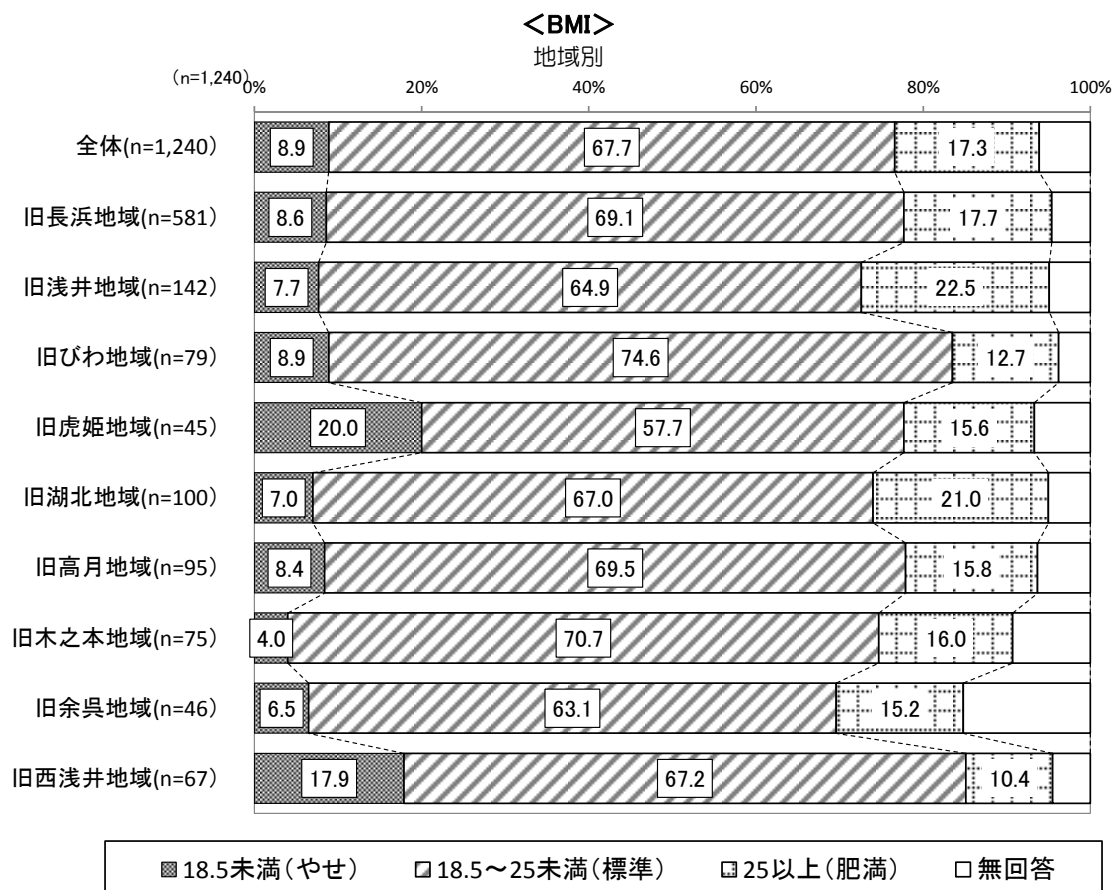
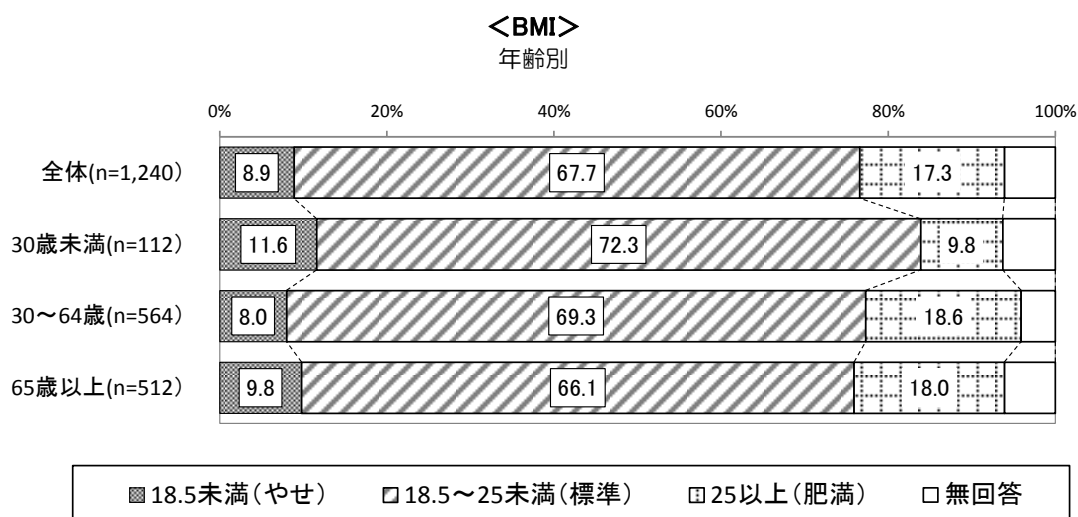


O B M I

BMI については、「18.5～25 未満（標準）」が 67.7%で最も多くなっています。

年齢別でみると、「30 歳未満」で「18.5 未満（やせ）」がやや多く、一方「25 以上（肥満）」が全体より 7.5 ポイント低くなっています。

地域別でみると、「旧虎姫地域」、「旧西浅井地域」で「18.5 未満（やせ）」がやや多く、全体よりそれぞれ 11.1 ポイント、9.0 ポイント高くなっています。

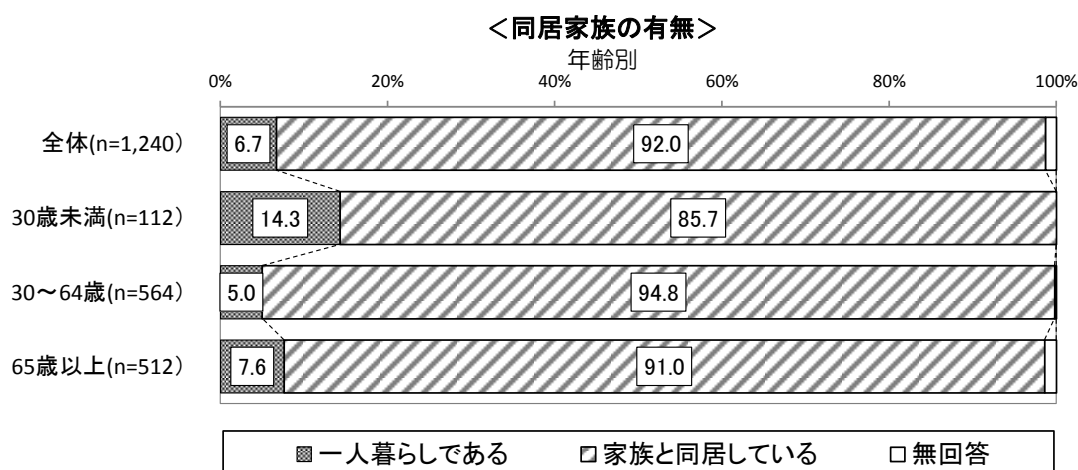
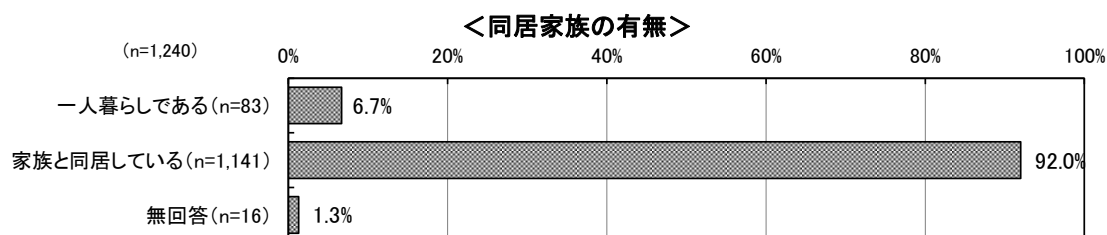


（６）同居家族の有無 【問 6】

同居家族については、「家族と同居している」が92.0%、「一人暮らしである」6.7%となっています。

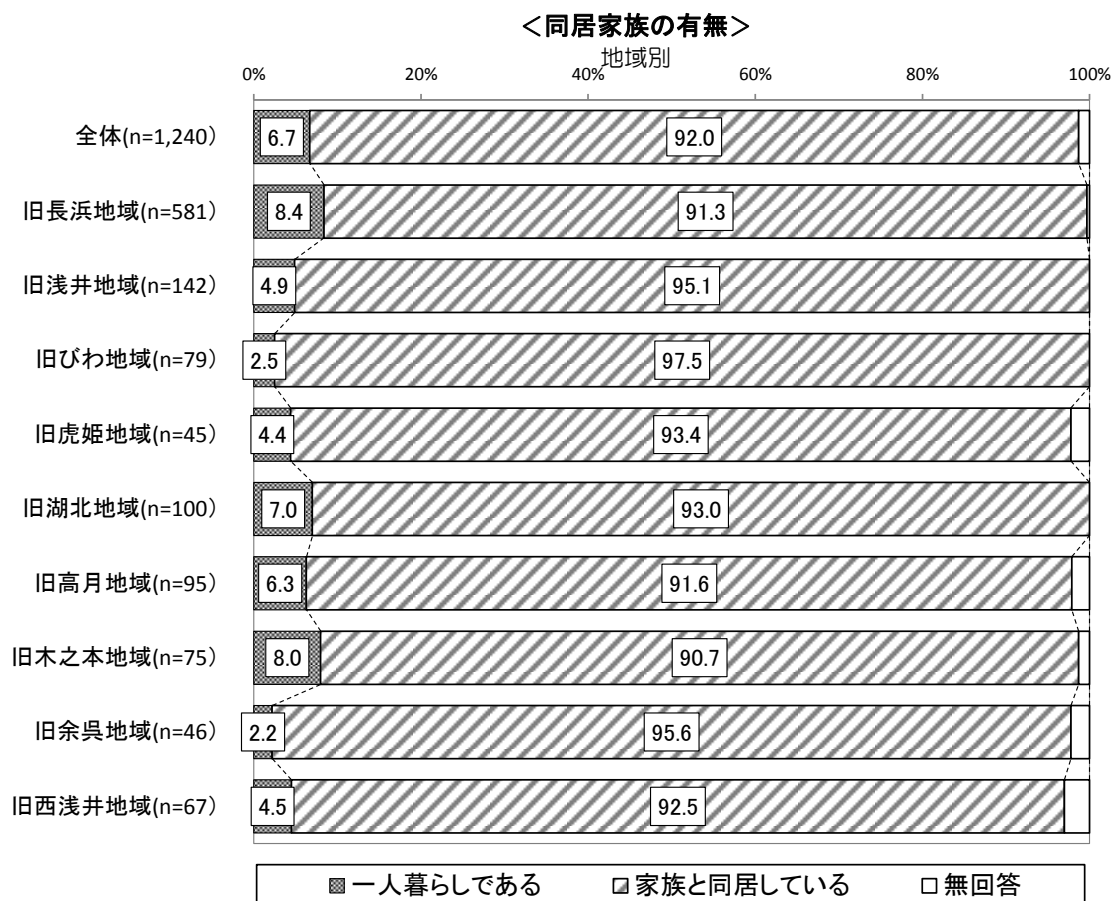
年齢別でみると、「30歳未満」で「一人暮らしである」が全体より7.6ポイント高くなっています。

地域別でみると、大きな違いはみられませんが、「旧びわ地域」で「家族と同居している」がやや多く、全体より5.5ポイント高くなっています。



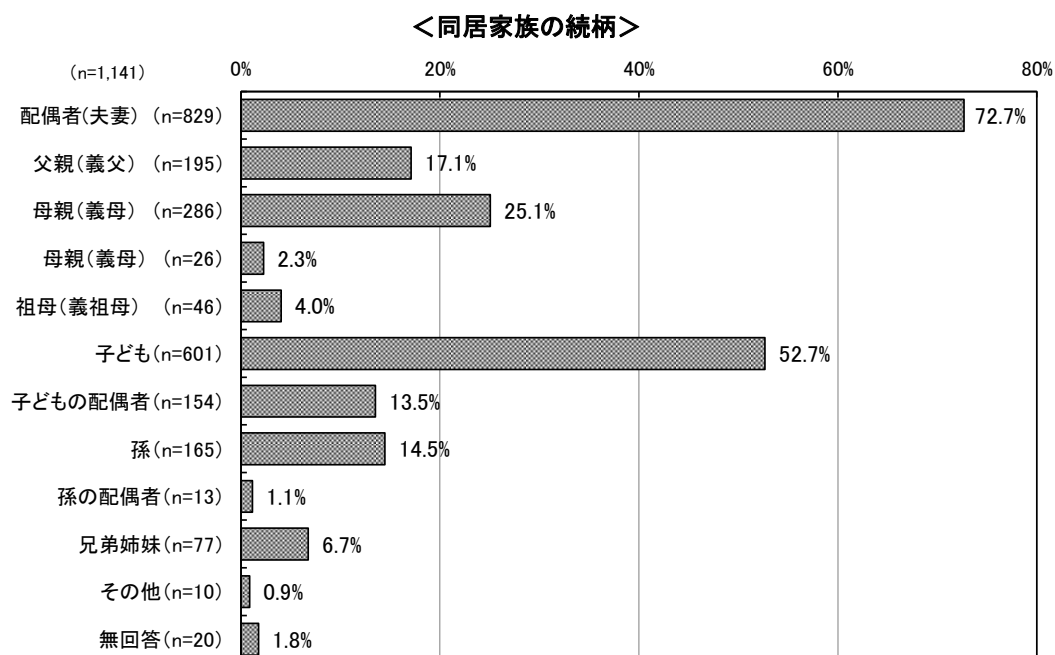
◆その他の記述回答 <同居家族の有無>

- ・甥、姪
- ・叔父
- ・ひ孫
- ・曾孫
- ・ひ孫 4



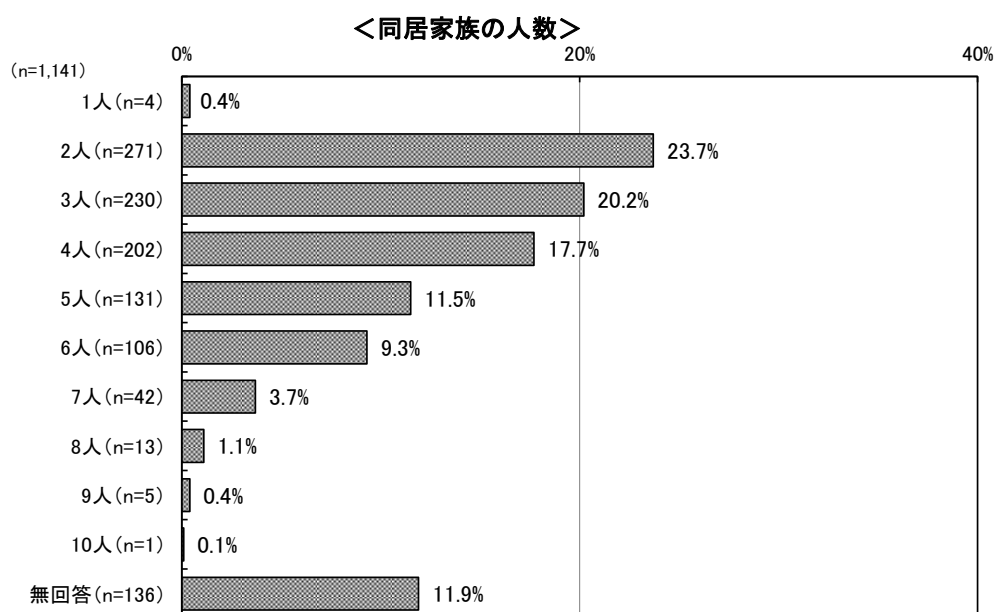
(6-1) 同居家族の続柄 【問 6-1】

家族と同居している人に同居者をたずねたところ、「配偶者」が72.7%で最も多く、次いで「子ども」52.7%、「母親」25.1%の順となっています。



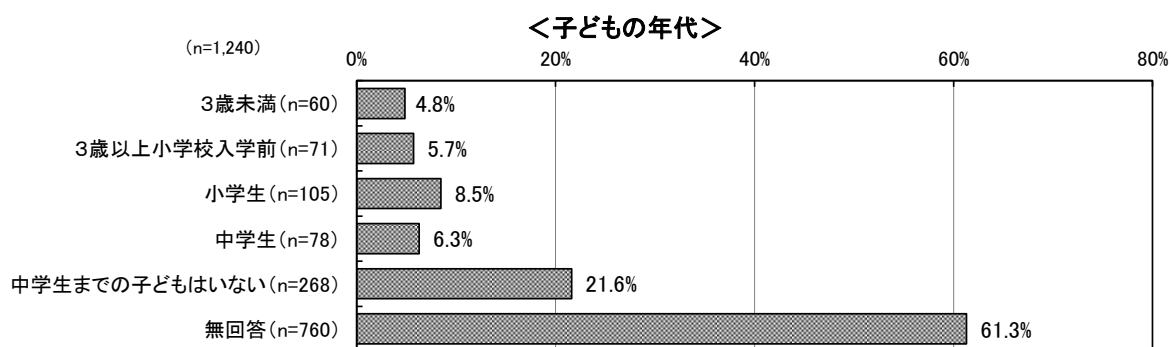
○同居家族の人数

家族と同居している人に同居者の人数をたずねたところ、「2人」が23.7%、「3人」20.2%「4人」17.7%の順となっています。



(7) 子どもの年代 【問 7】

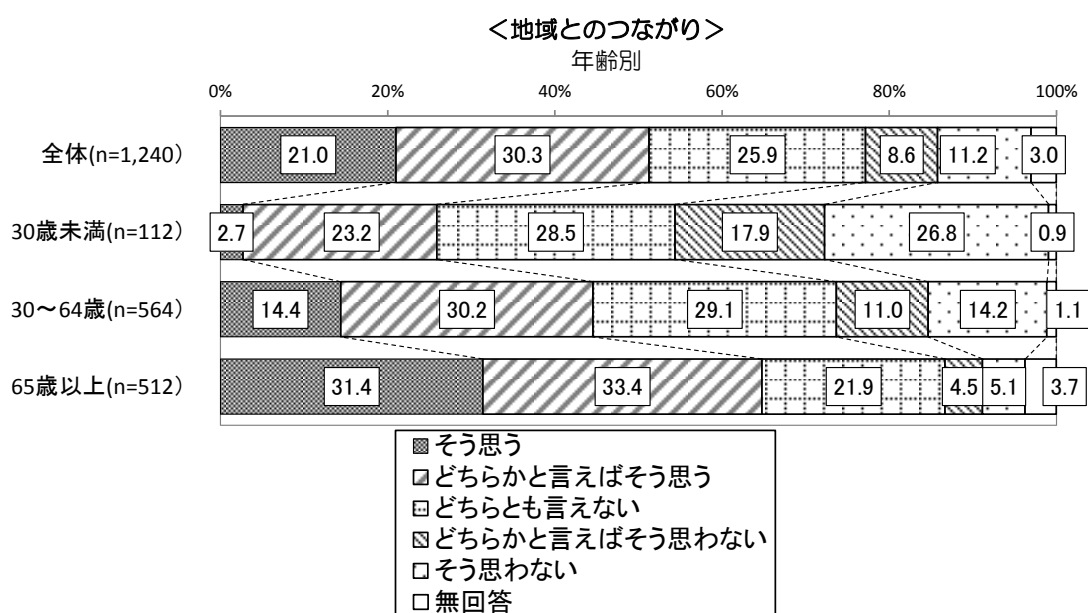
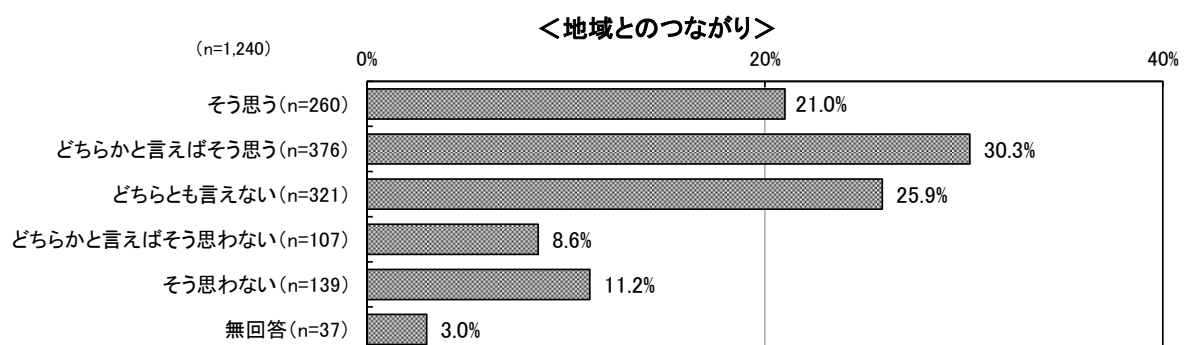
子どもの年代については、「小学生」が8.5%、「中学生」6.3%となっています。
また、「中学生までの子どもはいない」は21.6%となっています。



(8) 地域とのつながり 【問 8】

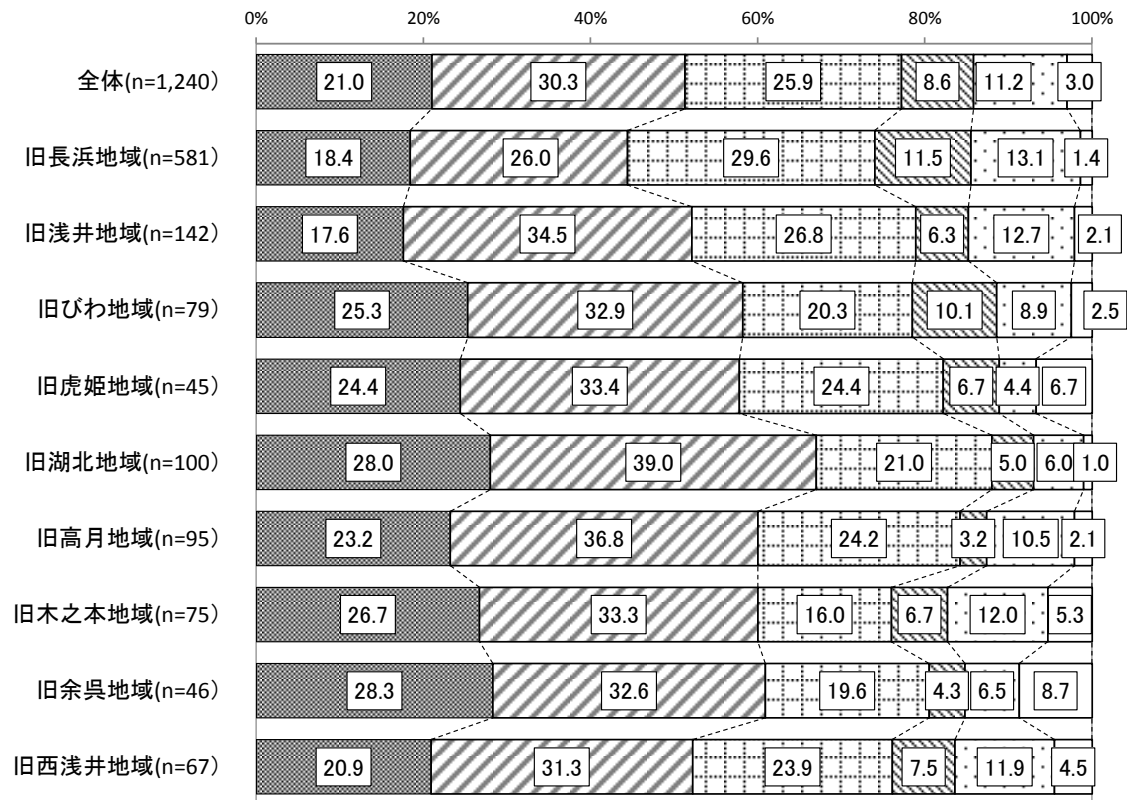
地域とのつながりは強いほうだと思うかどうかたずねたところ、「どちらかといえばそう思う」が30.3%でもっとも多く、「そう思う」21.0%と合わせると約半数の51.3%の人がつながりは強いほうだと思っていることがわかります。一方「どちらかといえばそう思わない」は8.6%、「そう思わない」は11.2%で、合わせると19.8%となっています。

年齢別でみると、年齢が高いほど強いほうだと思っている人が多く、「65歳以上」は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が64.8%となっているのに対し、「30歳未満」では25.9%にとどまっています。



＜地域とのつながり＞

地域別



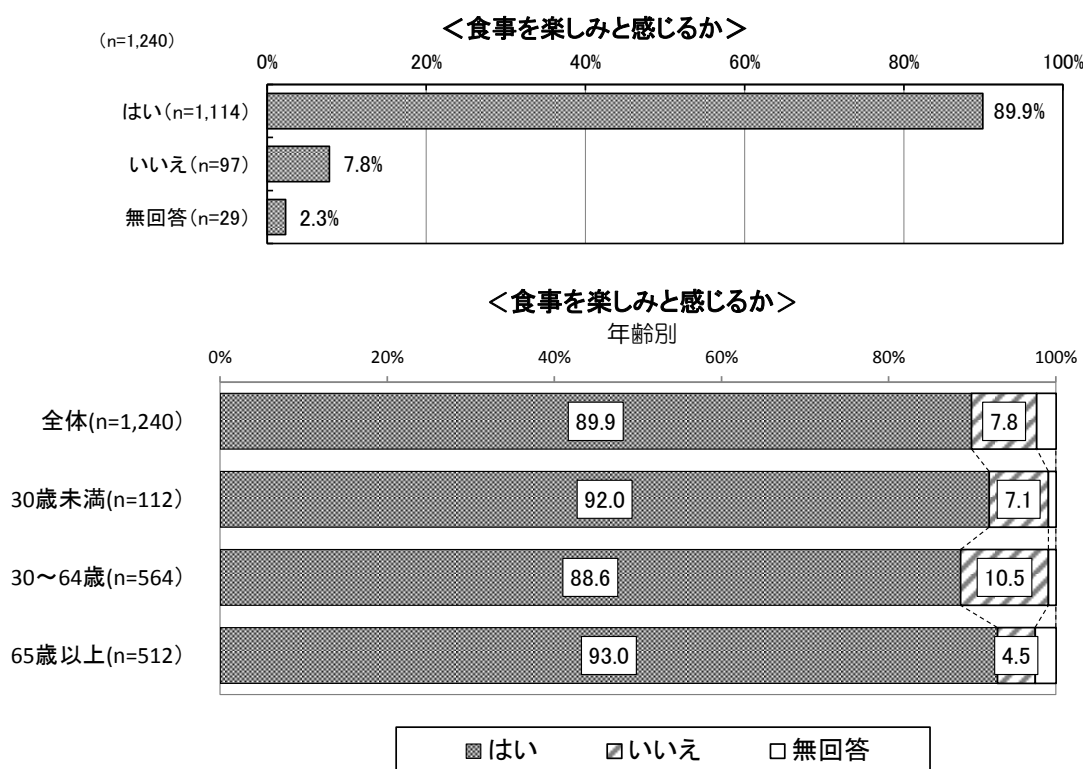
- そう思う
- ▨ どちらかと言えばそう思う
- どちらとも言えない
- ▩ どちらかと言えばそう思わない
- そう思わない
- 無回答

2. 食事について

(1) 食事を楽しみとを感じるか 【問 9】

食事を楽しみとを感じるかについては、「はい」が89.9%、「いいえ」7.8%でほとんどの人が食事を楽しみと感じています。

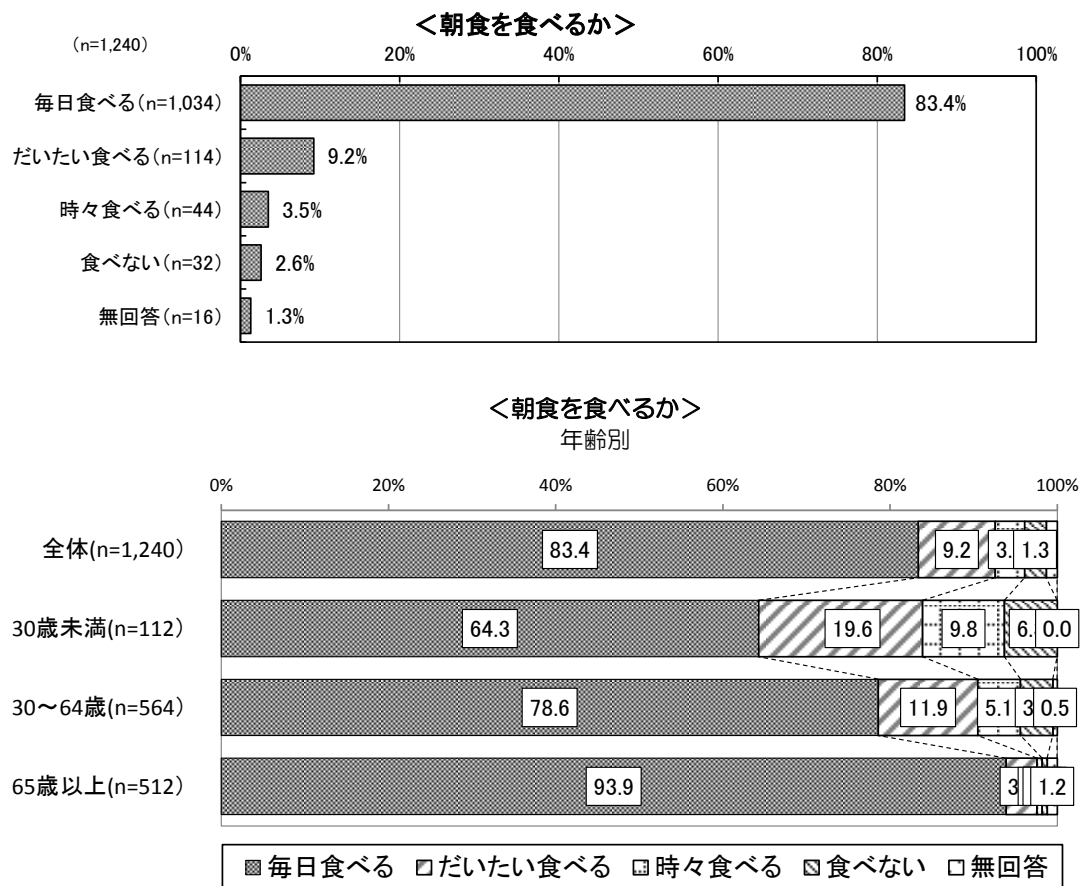
年齢別でも、大きな違いはみられませんが、「30～64 歳」は「いいえ」が他の世代よりやや多く 10.5%となっています。



（２）朝食を食べるか 【問 10】

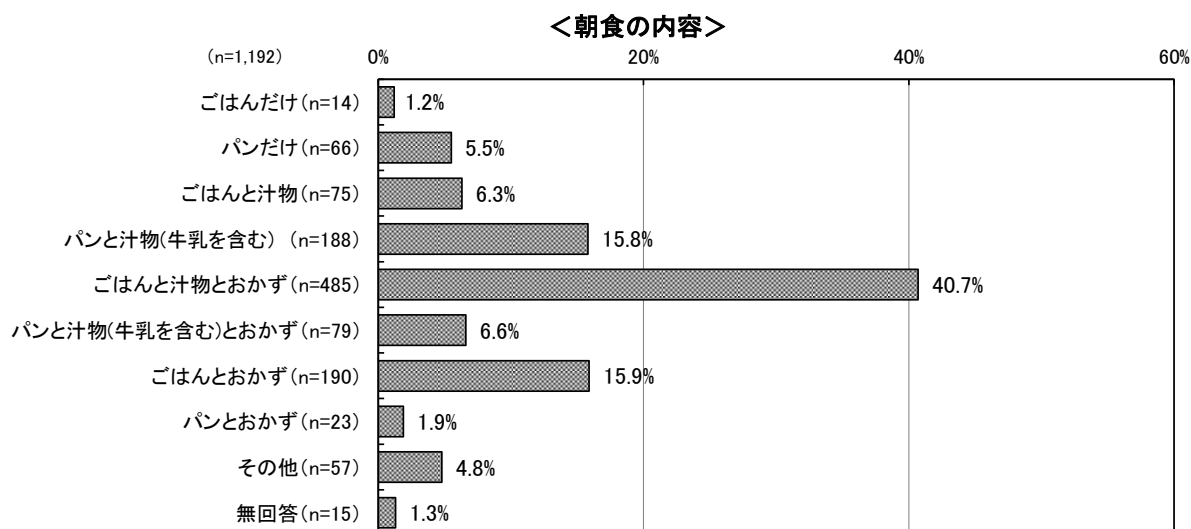
朝食を食べるかについては、「毎日食べる」が83.4%で最も多く、ほとんどの人が毎日食べていることがわかります。一方「食べない」は2.6%となっています。

年齢別でみると、年齢が若いほど「毎日食べる」が少なくなる傾向がみられ、「30歳未満」では「毎日食べる」が64.3%となっています。



(2-1) 朝食の内容 【問 10-1】

朝食を食べる人にその内容をたずねたところ、「ごはんと汁物とおかず」が40.7%で最も多く、次いで「ごはんとおかず」15.9%、「パンと汁物」15.8%の順となっています。

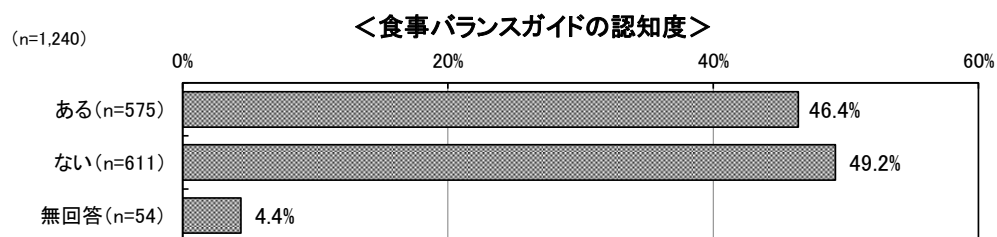


◆その他の記述回答 <朝食の内容>

- ・ヨーグルト、ヨーグルトと果物等（8）
- ・シリアル、シリアルとヨーグルト等（7）
- ・バナナ、バナナと牛乳等（7）
- ・日によって色々（5）
- ・パンと果物等（4）
- ・パンと汁物と果物等（3）
- ・ごはんと果物等（2）
- ・野菜ジュース（3）
- ・汁物は時々
- ・汁物とおかず
- ・おかずだけ
- ・くだ物、ヤサイ
- ・野菜サラダだけ
- ・納豆とサラダ
- ・野菜、汁物、おかず、ヨーグルト、果物
- ・牛乳、大豆、カボチャ、ジャガイモ、サツマイモ、大根、キャベツ、コンブ、鳥肉、魚、三食
- ・ごはん＋みそ汁＋ぬか床＋ヨーグルト、サラダ、やき魚、つくだに、なっとう
- ・パン 目玉焼き コーヒー又は牛乳くだもの
- ・パンとコーヒーと野菜とヨーグルトとバナナ
- ・とうふ・牛乳・にぼし・しょうが
- ・野菜スープ・プロティン
- ・豆腐バナナジュース
- ・ゼリー飲料

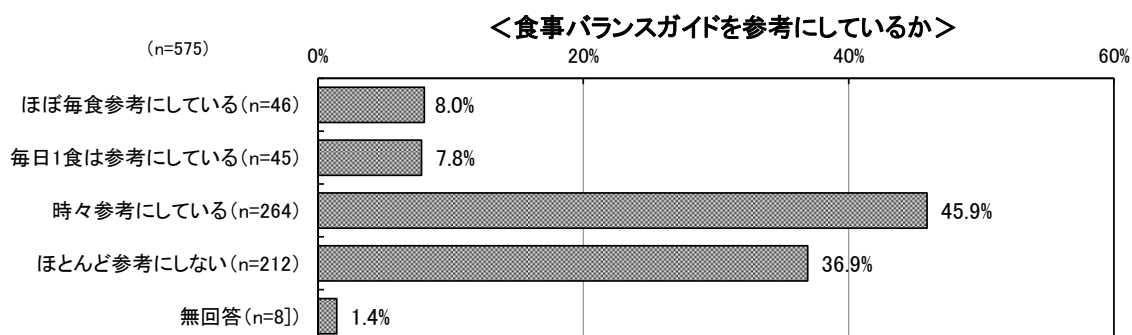
（３）食事バランスガイドの認知度 【問 11】

食事バランスガイドを見たことがあるかについては、「ない」が49.2%、「ある」46.4%で、見たことがないという人がわずかに多くなっています。



（３-１）食事バランスガイドを参考にしているか 【問 11-1】

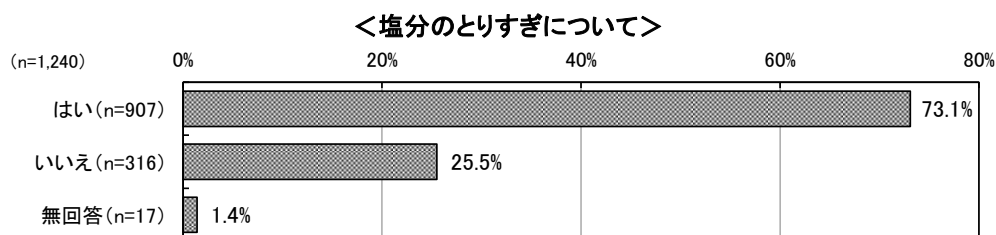
食事バランスガイドを見たことがある人がガイドを参考にしているかについては、「時々参考にしている」が45.9%で最も多くなっていますが、一方で「ほとんど参考にしていない」36.9%も多くなっています。

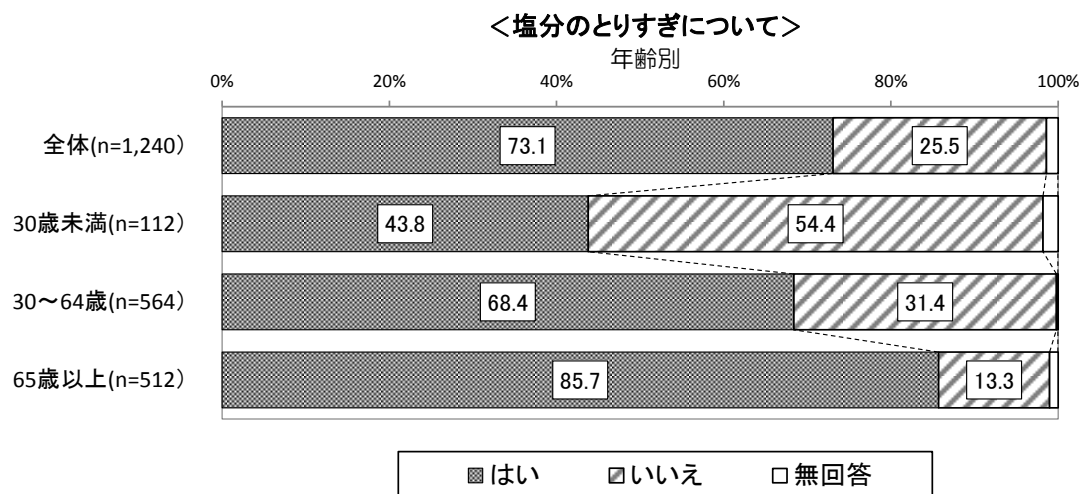


（４）塩分のとりすぎについて 【問 12】

塩分のとりすぎに気をつけているかについては、「はい」が73.1%で、「いいえ」25.5%となっており、気をつけていない人が4割いることがわかります。

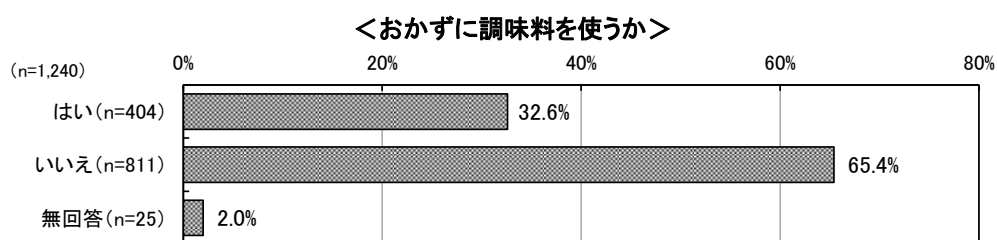
年齢別でみると、若い世代で気をつけていない傾向が顕著で、「30歳未満」では「いいえ」が過半数となっています。





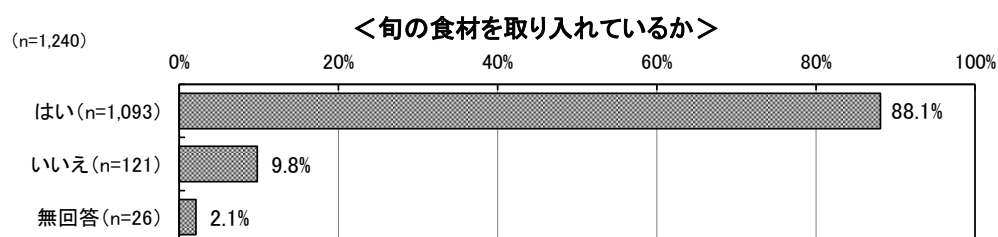
(5) おかずに調味料を使うか 【問 13】

出来上がったおかずや漬け物に調味料をかけるかどうかについては、「いいえ」が65.4%で過半数を占め、「はい」は32.6%となっています。



(6) 旬の食材を取り入れているか 【問 14】

家庭で旬の食材を取り入れるようにしているかについては、「はい」が88.1%で、ほとんどの人が取り入れるようにしていると回答しています。「いいえ」は9.8%となっています。

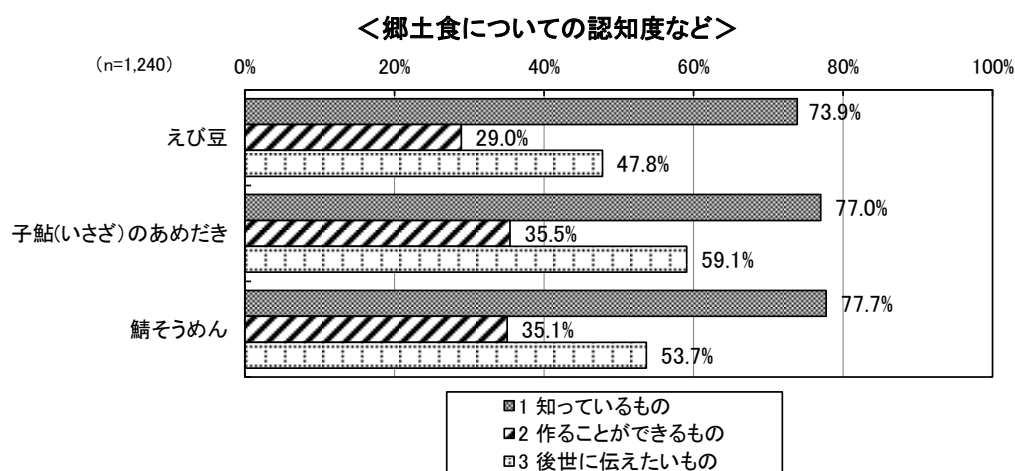


（７）郷土食についての認知度など 【問 15】

３種類の郷土食について認知度等をたずねたところ、「知っているもの」については、「えび豆」「子鮎（いさざ）のあめだき」「鯖そうめん」のいずれも７割以上の回答がみられ、認知度が高いことがわかります。

「作ることができるもの」については、「子鮎（いさざ）のあめだき」が 35.5%で最も多く、次いで「鯖そうめん」 35.1%「えび豆」 29.0%の順となっています。

「後世に伝えたいもの」については、「子鮎（いさざ）のあめだき」が 59.1%で最も多くなっています。

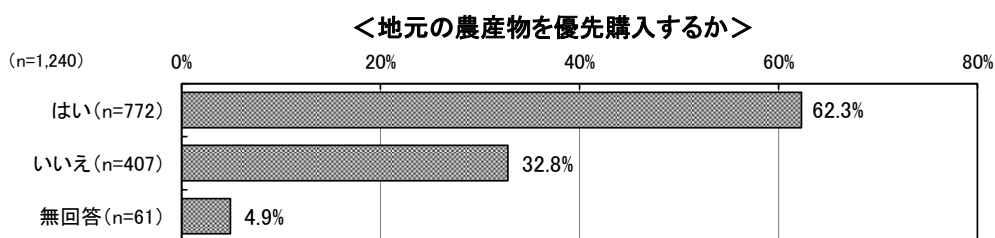


（８）地元の農産物を優先購入するか 【問 16】

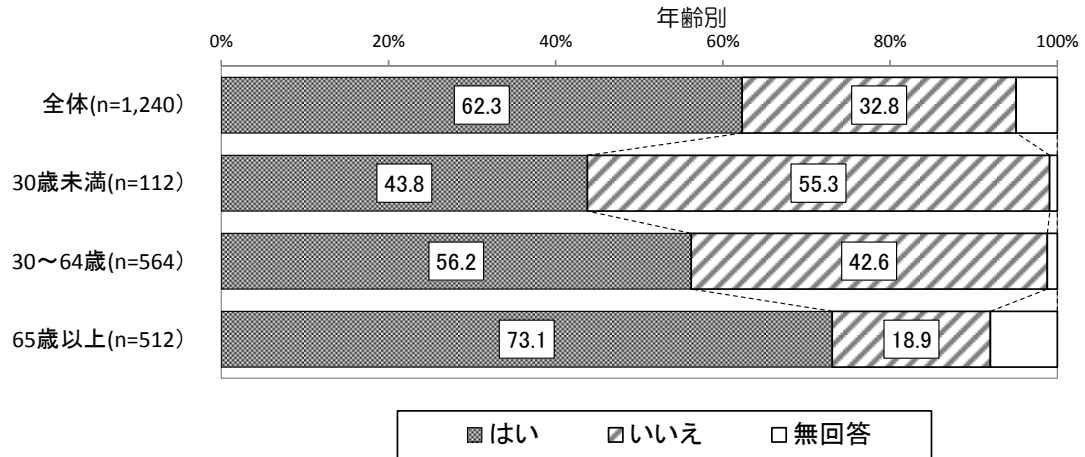
地元で生産した農産物を優先的に買うようにしているかについては、「はい」が 62.3%で過半数を占め、「いいえ」が 32.8%となっています。

年齢別でみると、年齢が高いほど優先購入する人が多く、「65 歳以上」では「はい」が 73.1%となっています。逆に「30 歳未満」では「いいえ」が半数以上となっています。

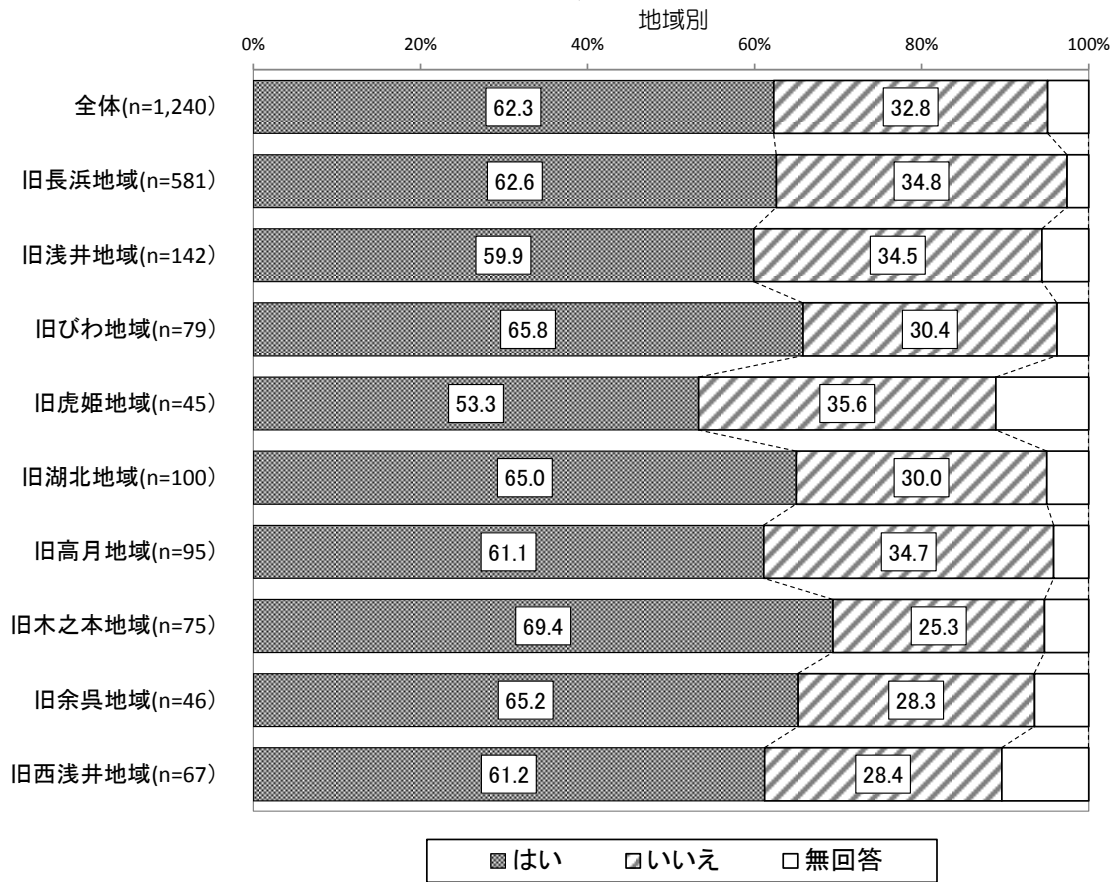
地域別でみると、「旧木之本地域」で「はい」が全体より 7.1 ポイント高く、逆に、「旧虎姫地域」では 9 ポイント低くなっています。



＜地元の農産物を優先購入するか＞



＜地元の農産物を優先購入するか＞

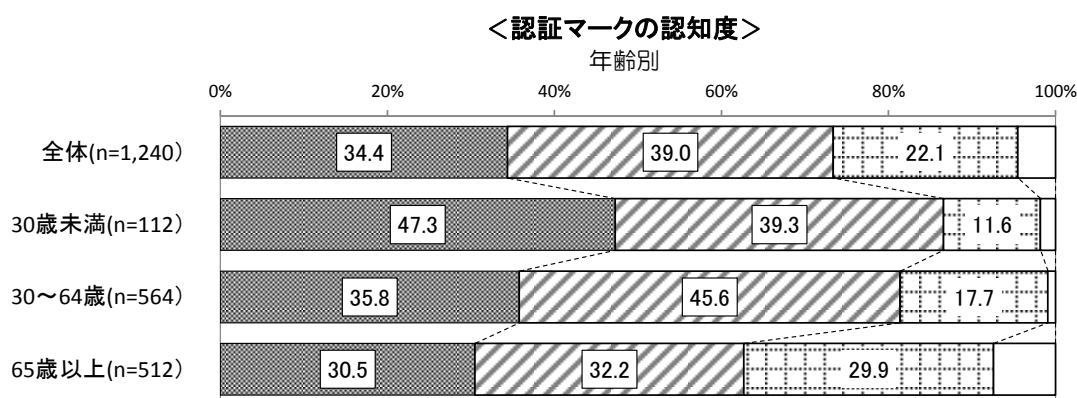
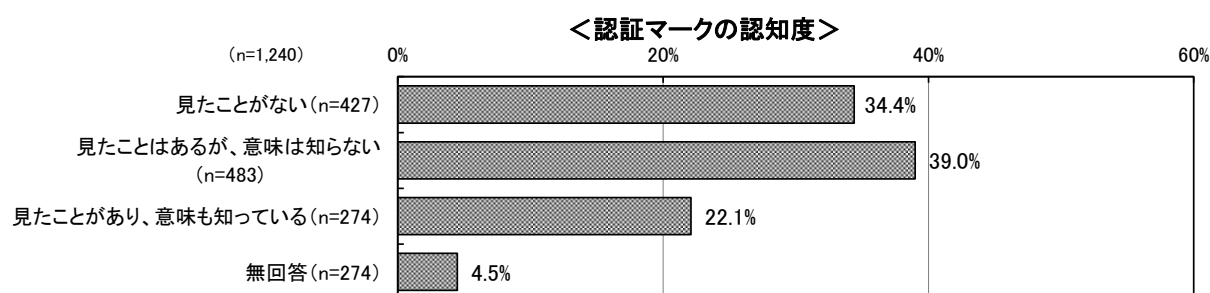


(9) 認証マークの認知度 【問 17】

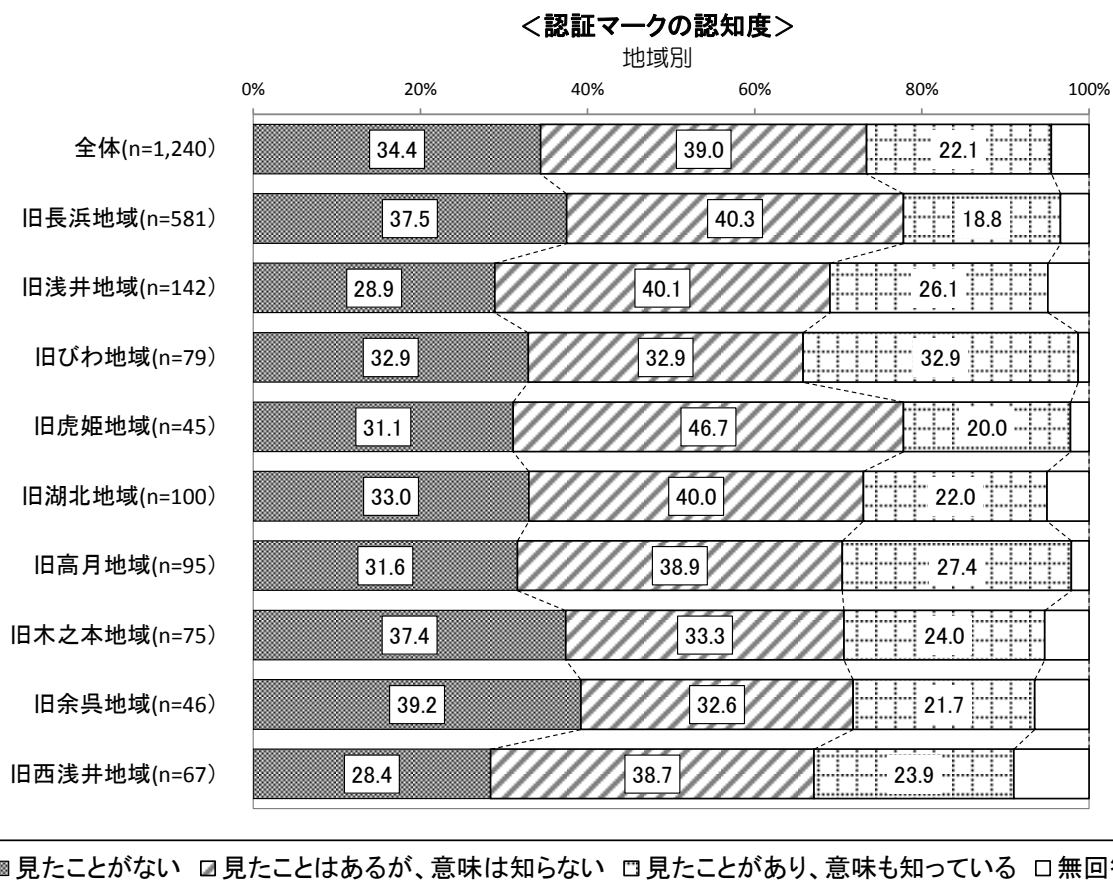
環境こだわり農産物認証マークの認知度については、「見たことはあるが、意味は知らない」が39.0%で最も多く、次いで「見たことがない」34.4%となっています。「見たことがあり、意味も知っている」は22.1%にとどまっています。

年齢別でみると、若い世代の認知度が低く、「30歳未満」では「見たことがない」が47.3%で半数近くを占めています。逆に「65歳以上」では「見たことがあり、意味も知っている」が約3割と認知度が比較的高くなっています。

地域別でみると、認知度が比較的高いのは「旧びわ地域」で、「見たことがあり、意味も知っている」が3割以上となっています。



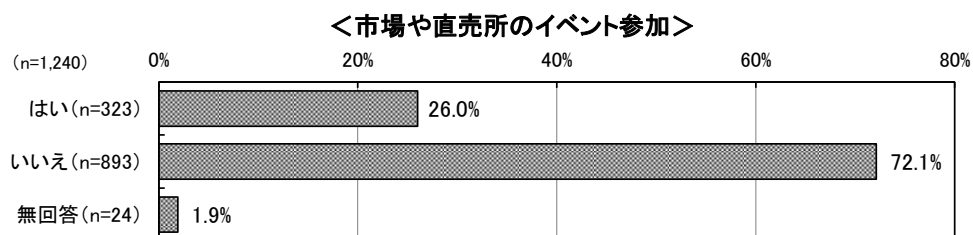
■ 見たことがない ▨ 見たことはあるが、意味は知らない ▤ 見たことがあり、意味も知っている □ 無回答

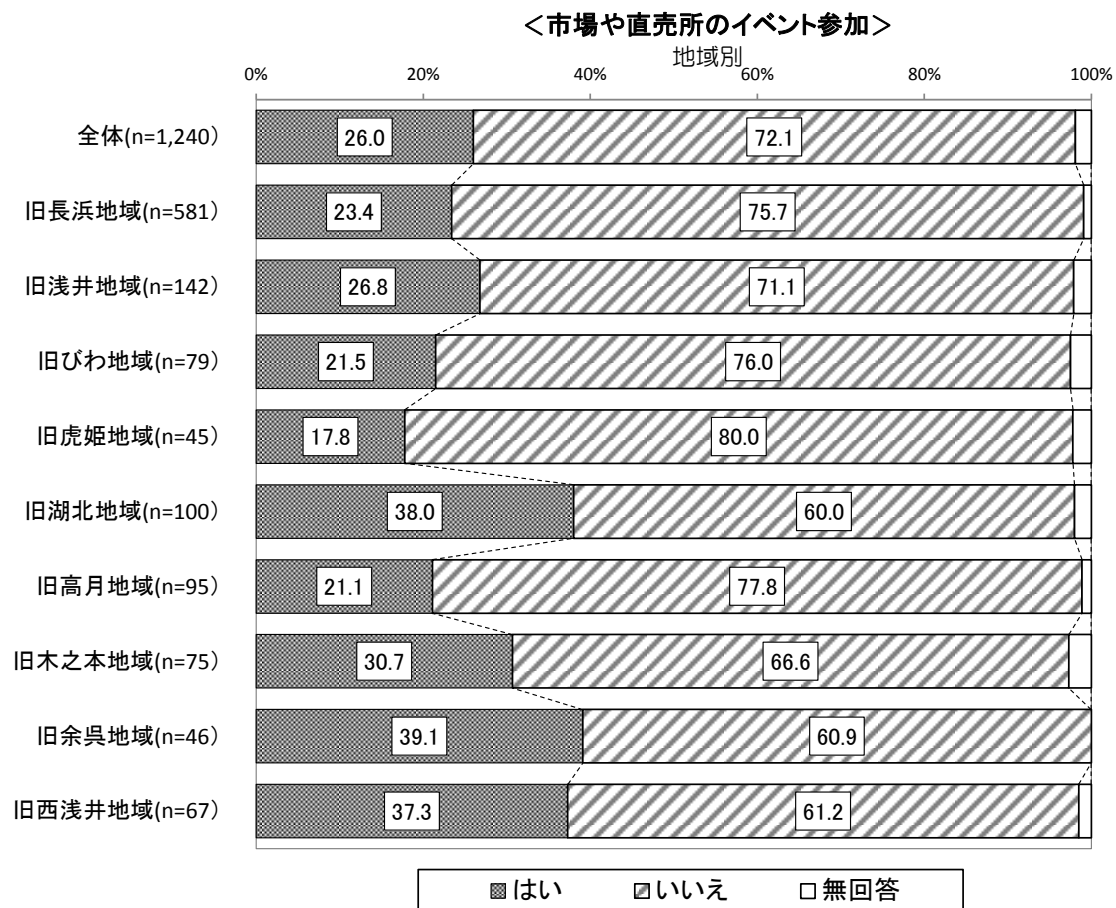


(10) 市場や直売所のイベント参加（過去1年間） 【問 18】

この1年間に市場や直売所で開催されているイベントに参加したかについては、「いいえ」が72.1%と多数を占め、「はい」は26.0%にとどまっています。

地域別でみると、参加者が多いのは「旧余呉地域」「旧湖北地域」「旧西浅井地域」「旧木之本地域」で、それぞれ3割以上が「はい」と回答しています。

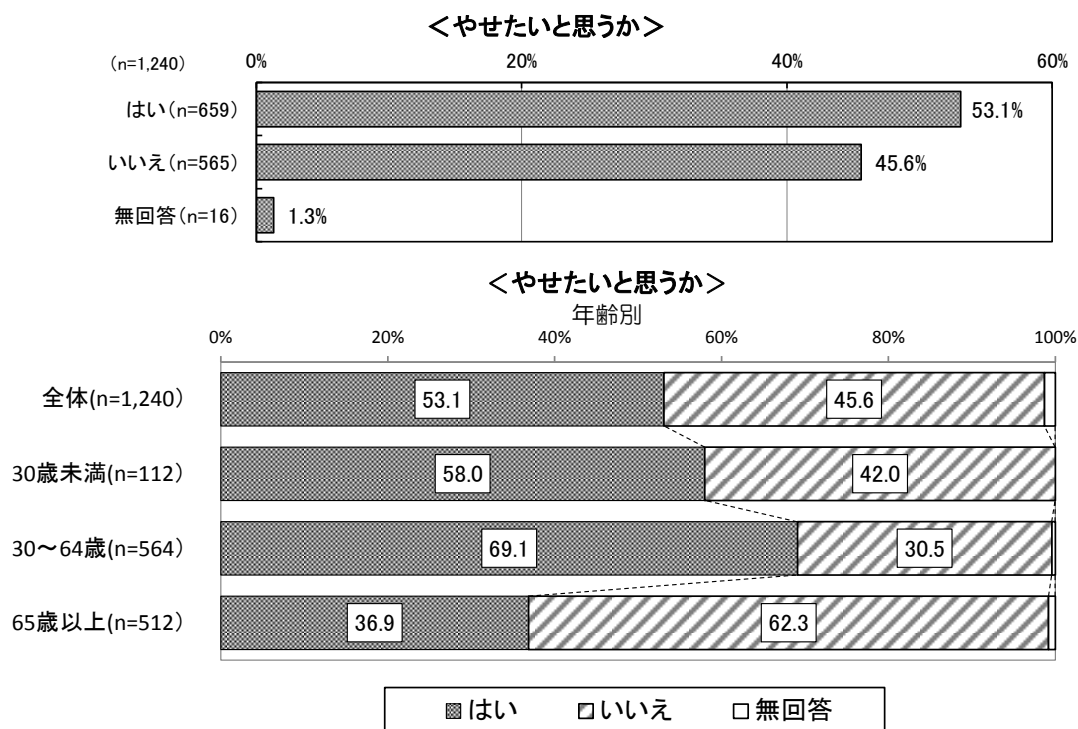




(11) やせたいと思うか 【問19】

今よりやせたいと思うかでは、「はい」が53.1%で、「いいえ」が45.6%となっています。

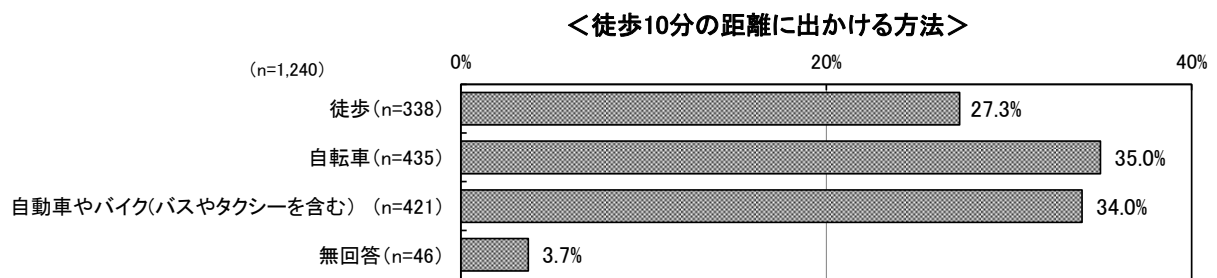
年齢別でみると、「30～64歳」でやせたいと思う人が多く「はい」が69.1%と7割近くに達しています。逆に、「65歳以上」では「いいえ」が62.3%となっています。



3. 運動について

(1) 徒歩 10 分の距離に出かける方法 【問 20】

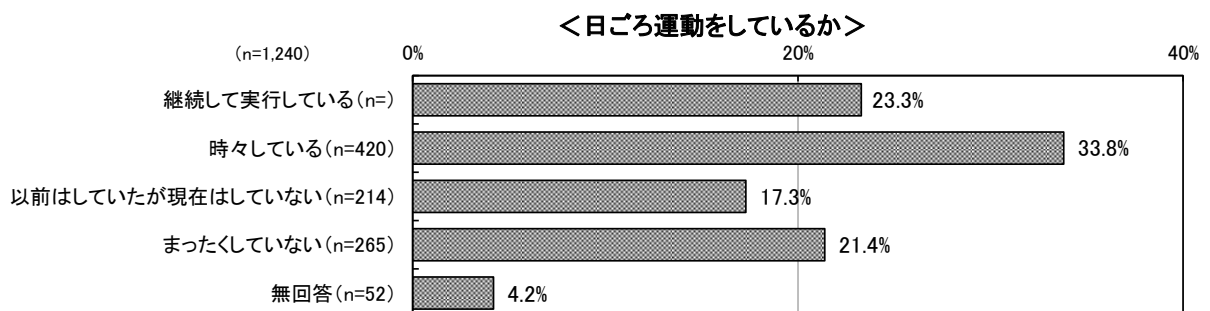
徒歩 10 分で行けるところへ出かける主な方法については、「自転車」が 35.0%で最も多く、次いで「自動車やバイク」34.0%となっています。

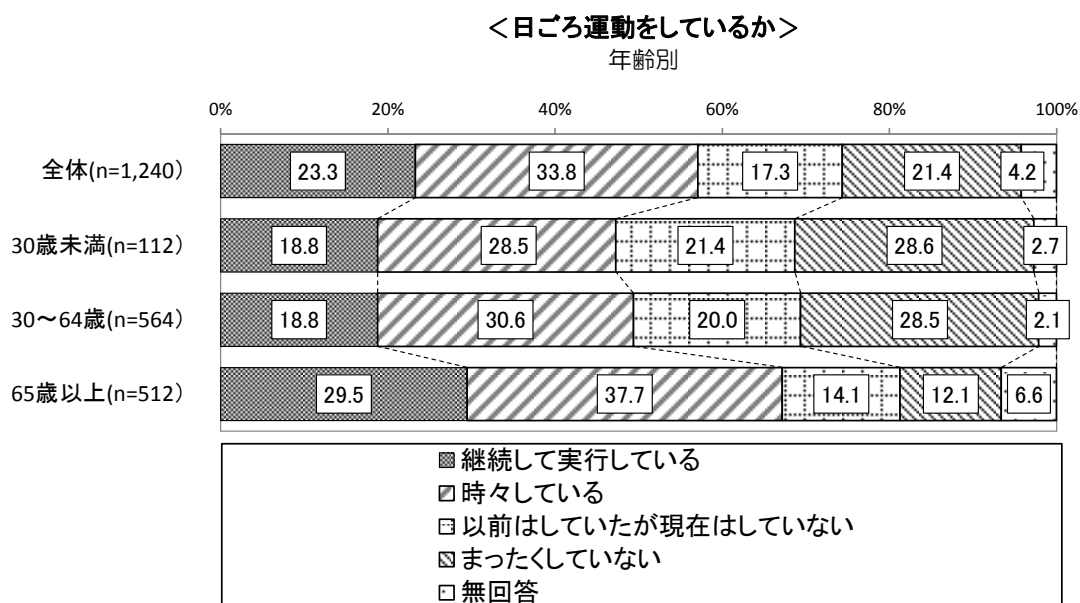


(2) 日ごろ運動をしているか 【問 21】

日ごろ運動を実行しているかについては、「時々している」が 33.8%で最も多く、次いで「継続して実行している」23.3%で、合わせると 57.1%が運動をしていると回答しています。一方で「まったくしていない」は 21.4%となっています。

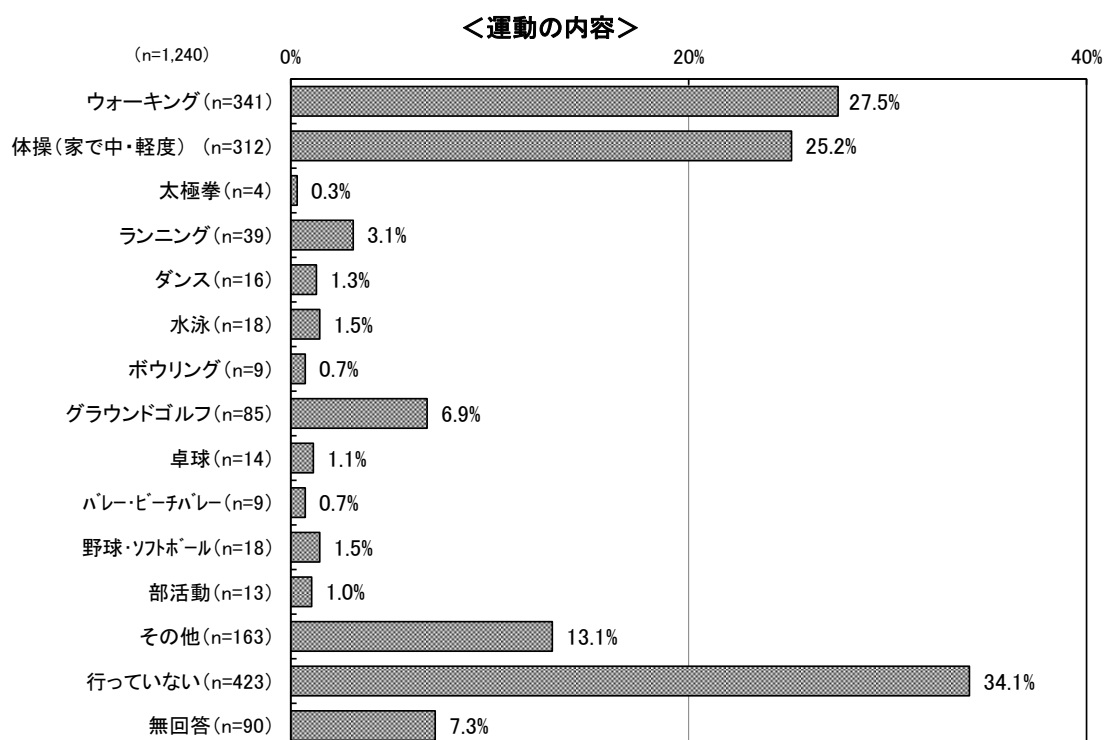
年齢別でみると、「65 歳以上」で運動している人が多く、「継続して実行している」「時々している」の合計が 7 割近くに達しています。他の世代では、運動している人としていない人がほぼ同数となっています。





(3) 運動の内容 【問 22】

運動の内容については、「ウォーキング」が27.5%で最も多く、次いで「体操」25.2%となっています。

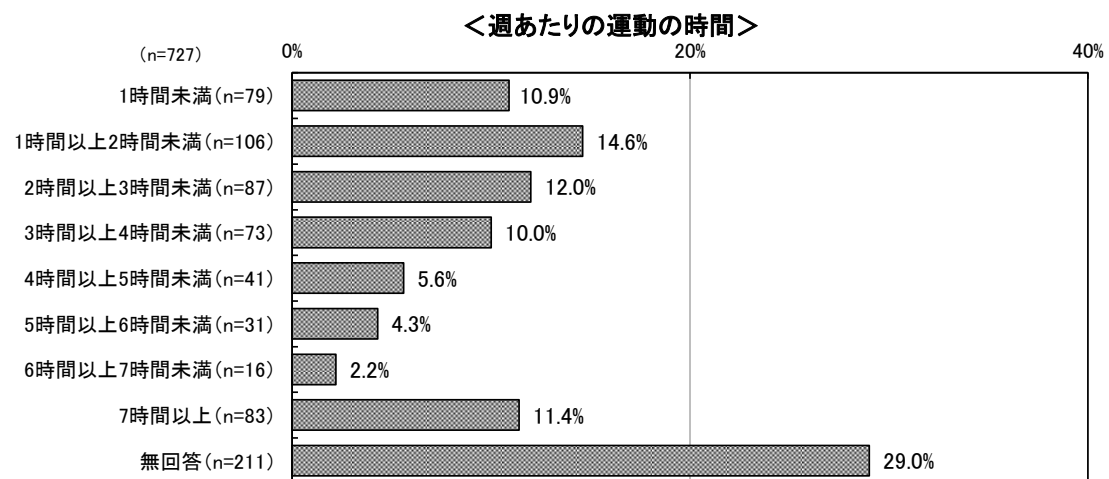


◆その他の記述回答 <運動の内容>

- エアロビクス（3）
- カーブス（6）
- 筋トレ（7）
- ゲートボール（11）
- ゴルフ（20）
- 自転車、サイクリング（21）
- ストレッチ（4）
- 体操教室（3）
- テニス（7）
- バスケットボール（3）
- バトミントン（2）
- フットサル（2）
- ヨガ（18）
- ジム等（5）
- 転倒予防教室（3）
- 登山、山歩き（6）
- 農作業等（6）
- 犬の散歩（3）
- ピラティス
- 3B 体操
- アスナロ3B
- アメリカンフットボール
- 家で時々してる
- 以前はしていたが、今は足が悪くて出来ない
- 今は体調がよくないので自分の体力に合わせて行っています
- 家事のできる範囲を動き回っている
- サロン
- 散歩
- シーマックス
- 自営業なので歩くのが多い
- 仕事 1 万歩以上/同
- 仕事で動き回るので・・・
- 少年野球指導
- ソフトテニス
- ダンベル
- デーサービスで
- 転倒、ストレッチ
- 特定疾患のため体調による
- フォークダンス
- ボート
- ボクシング
- マグネットバイクに 1 日 15 分間毎日している
- レッグマジック X
- 運動
- 家でランニングマシーンを使っている
- 家の中で歩き廻る
- 機械を作って
- 逆立ち
- 身体を動かすようにしている
- 足が悪いから
- 畑まで歩く
- 歩行練習←腰の手術をうけた
- 民ヨウ
- 民謡（踊り）
- 瞑想

（3-1）週あたりの運動の時間 【問 22-1】

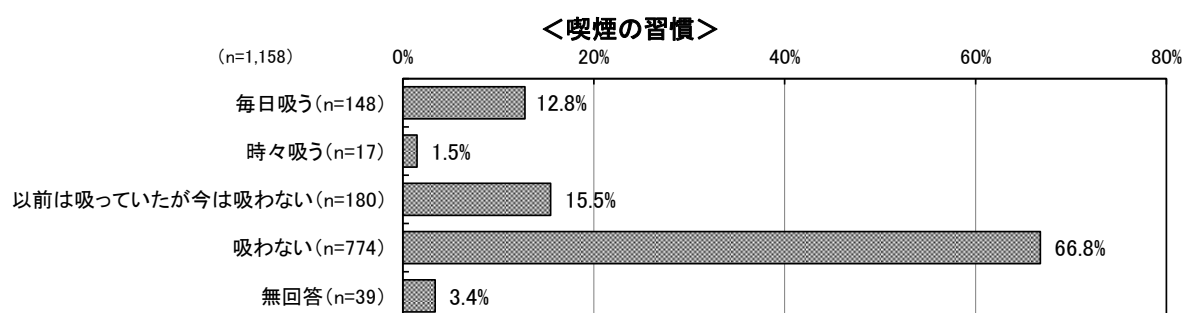
何らかの運動をしている人に、週何時間程度行っているかたずねたところ、「1～2 時間未満」が 14.6%で最も多く、次いで「2～3 時間未満」12.0%、「7 時間以上」11.4%の順となっています。



4. 喫煙について

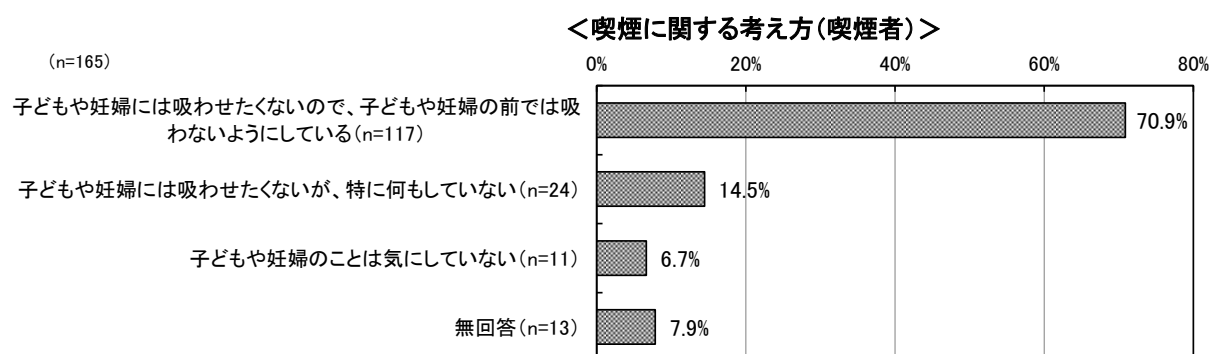
(1) 喫煙の習慣 【問 23】

たばこを吸うかどうかについては、「吸わない」が 66.8%、「以前は吸っていたが今は吸わない」15.5%で、合わせると 82.3%が非喫煙者となっています。一方、「時々吸う」は 1.5%、「毎日吸う」12.8%で、合計 14.3%が喫煙者となっています。



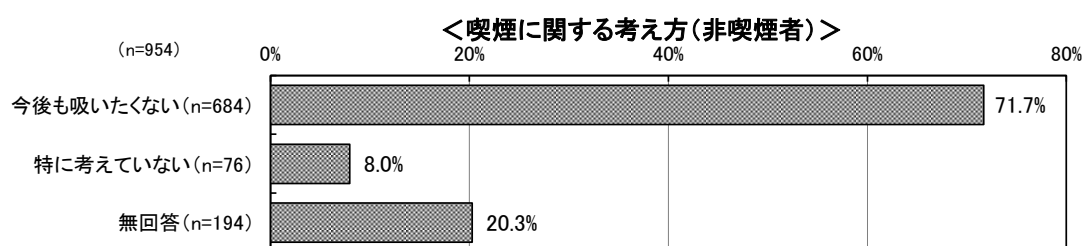
(1-1) 喫煙に関する考え方 (喫煙者) 【問 23-1】

たばこを吸う人に、喫煙に対する気持ちや行動についてたずねたところ、「子どもや妊婦には吸わせたくないので、子どもや妊婦の前では吸わないようにしている」が 70.9%で最も多くなっています。一方で「子どもや妊婦には吸わせたくないが、特に何もしていない」14.5%、「子どもや妊婦のことは気にしていない」6.7%という人もみられます。



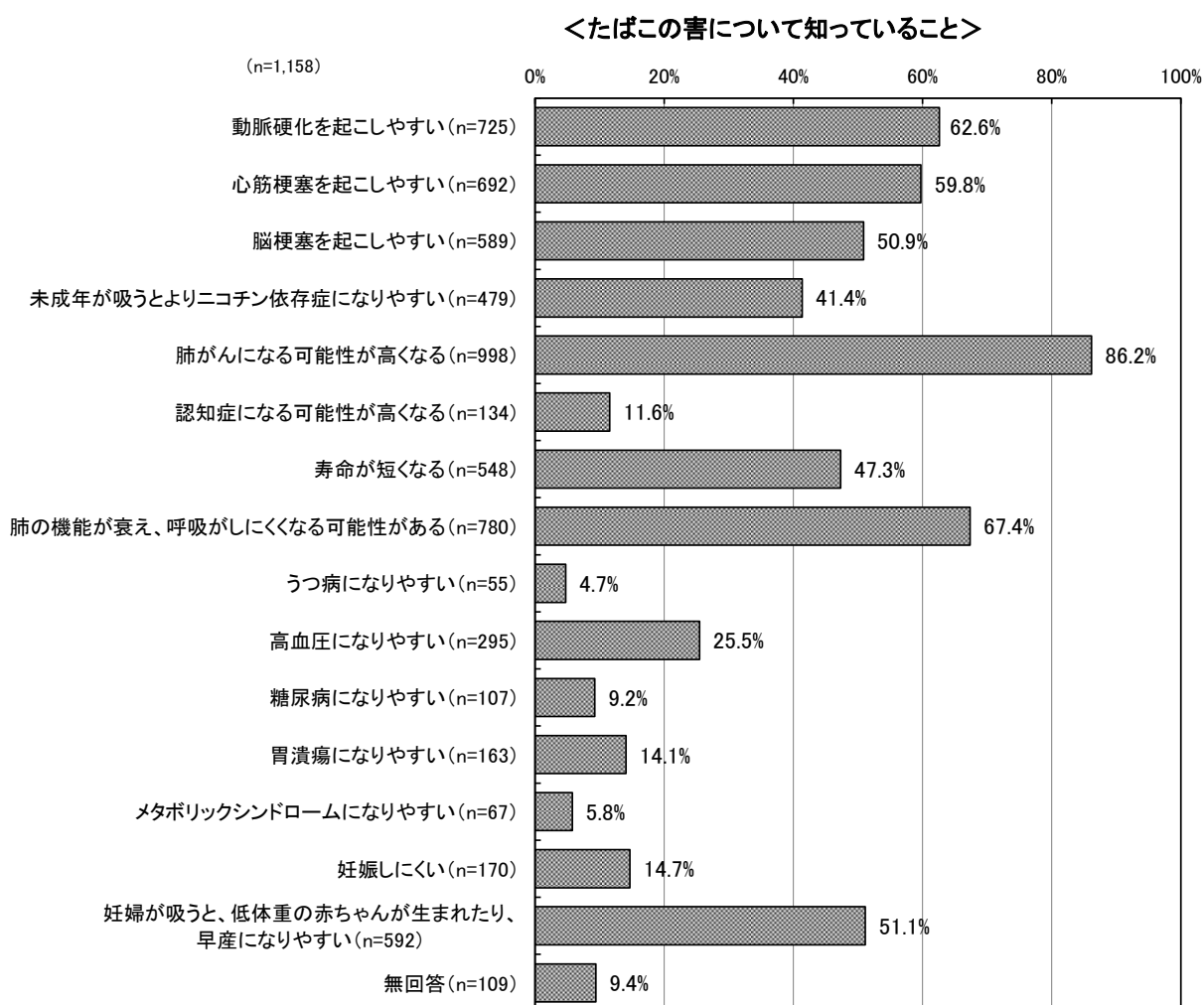
（１－２）喫煙に関する考え方（非喫煙者） 【問 23-2】

たばこを吸わない人に、今後どのようにしたいと思っているかたずねたところ、「今後も吸いたくない」が71.7%、「特に考えていない」8.0%となっています。



（２）たばこの害について知っていること 【問 24】

たばこの害で知っていることについては、「肺がんになる可能性が高くなる」が86.2%で最も多く、次いで「肺の機能が衰え、呼吸がしにくくなる可能性がある」67.4%、「動脈硬化を起こしやすい」62.6%、「心筋梗塞を起こしやすい」59.8%の順に多くなっています。

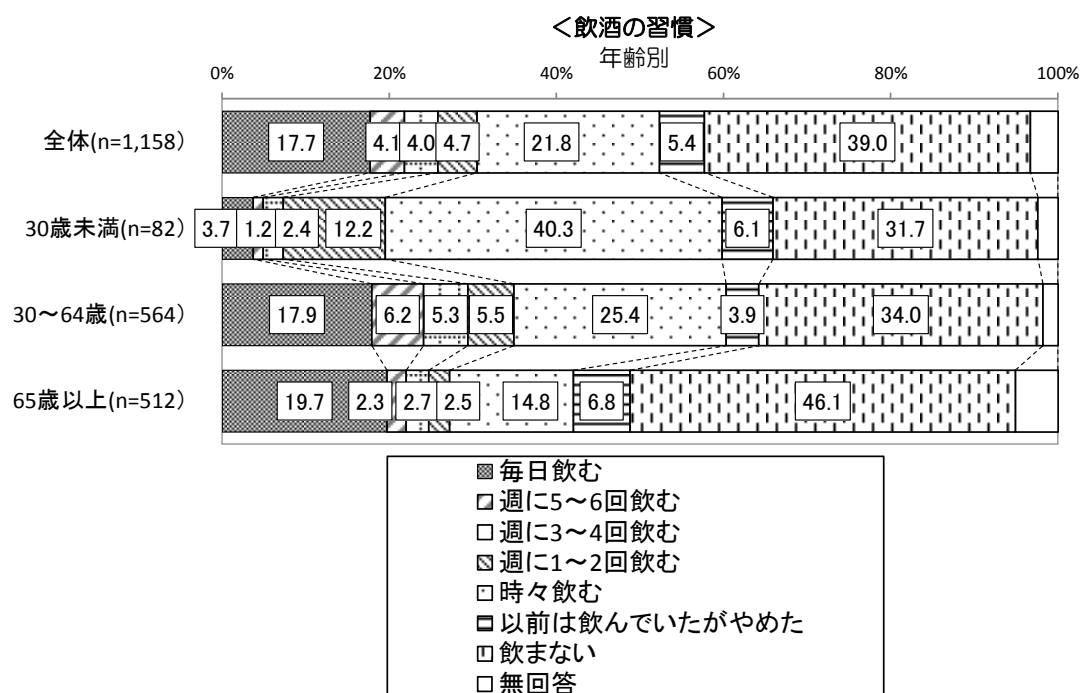
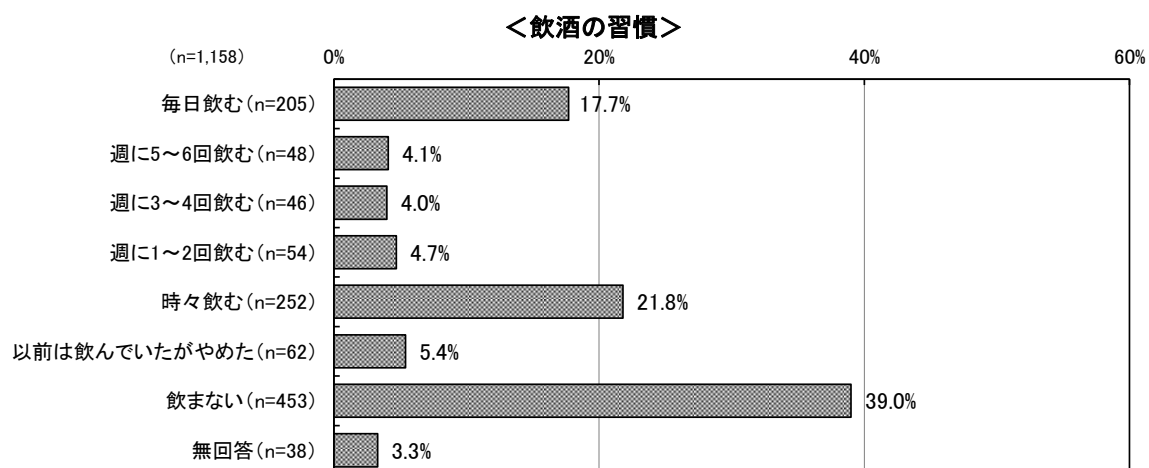


5. 飲酒について

(1) 飲酒の習慣 【問 25】

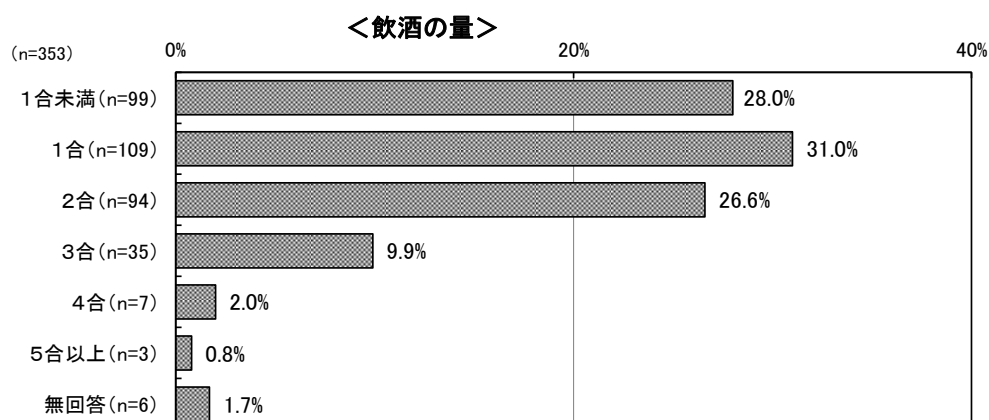
飲酒の習慣については、「飲まない」が39.0%で最も多く、「時々飲む」21.8%、「毎日飲む」17.7%の順となっています。また、週に1回以上飲む人の合計は30.5%、現在飲まない人の合計は44.4%となっています。

年齢別でみると、「30歳未満」では「時々飲む」が40.3%で最も多く、週に1回以上飲む人の合計も19.5%で、全体と比較しても頻度が低くなっています。



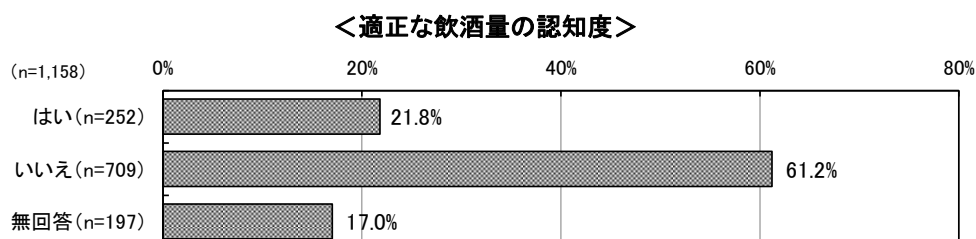
（１－１）飲酒の量 【問 25-1】

週に１回以上飲酒をする人に一日の平均飲酒量をたずねたところ、「１合」が３１.０%で最も多く、次いで「１合未満」２８.０%、「２合」２６.６%の順となっています。



（２）適正な飲酒量の認知度 【問 26】

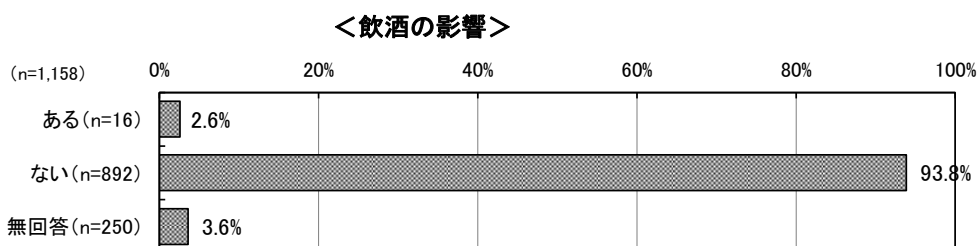
適正な飲酒量の認知度については、「いいえ」が６１.２%、「はい」が２１.８%となっており、適正な飲酒量を知っていると回答している人は２割にとどまっています。

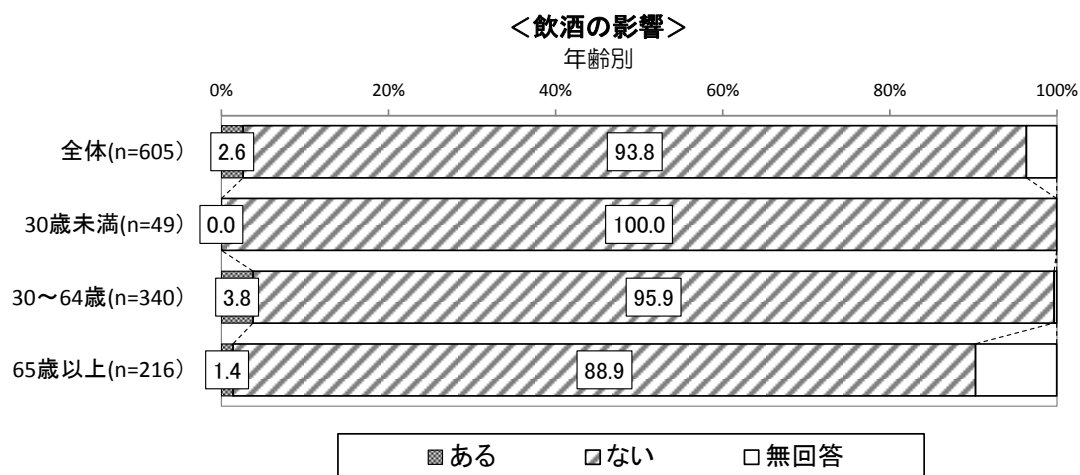


（３）飲酒の影響 【問 27】

お酒を飲み過ぎて翌日に影響したことがあるか（最近１ヵ月のうち２回以上）については、「ない」が９３.８%、「ある」が２.６%となっています。

年齢別でみると、「３０歳未満」では「ない」が１００%となっています。

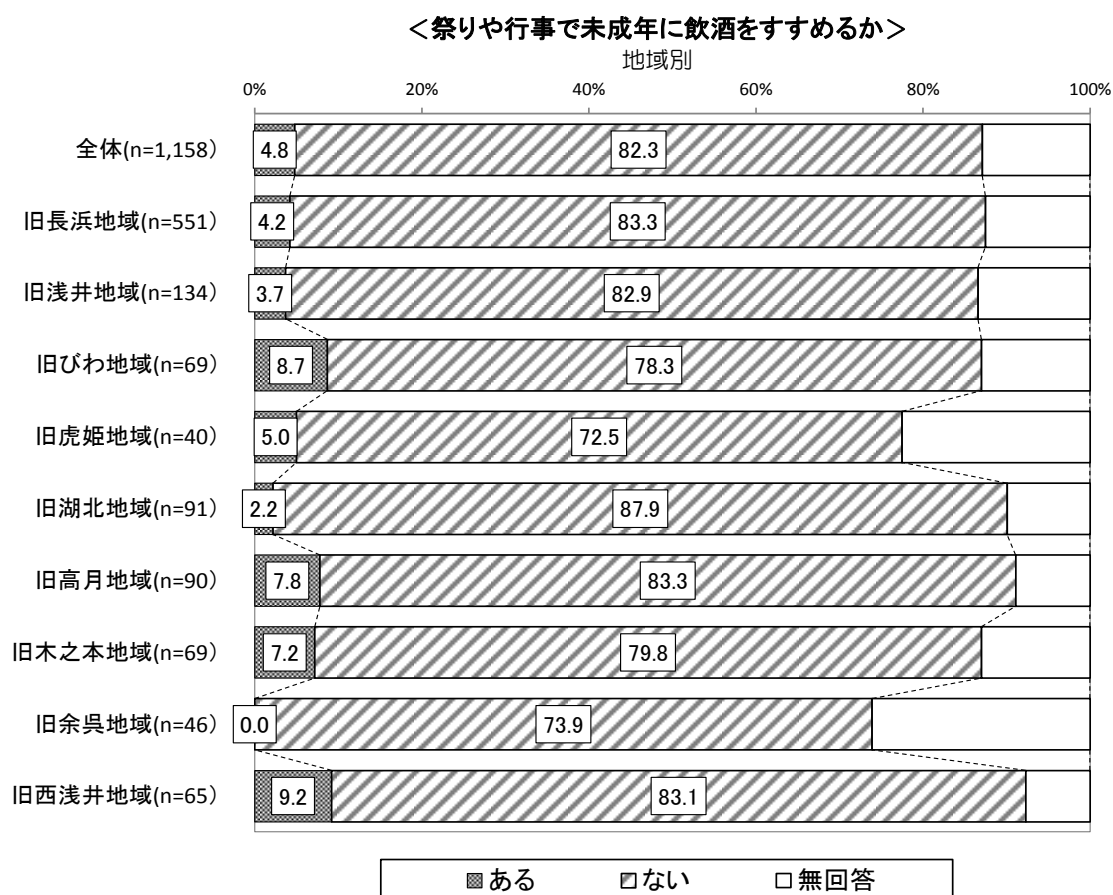
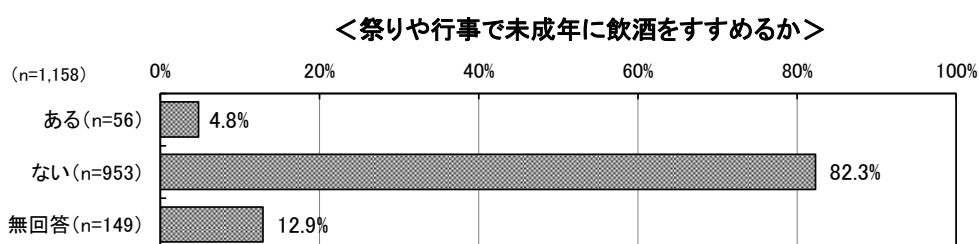




(4) 祭りや行事で未成年に飲酒をすすめるか 【問28】

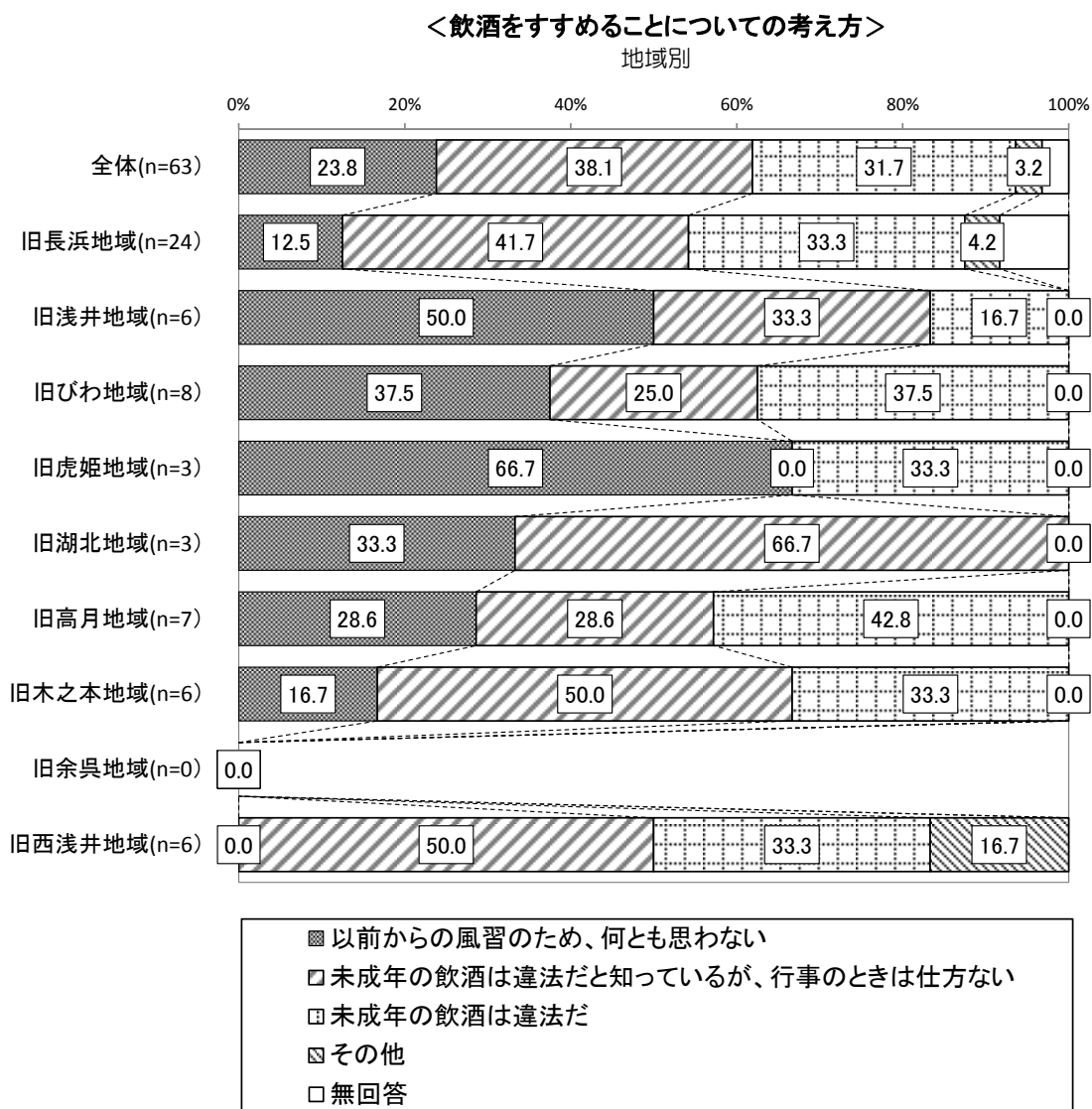
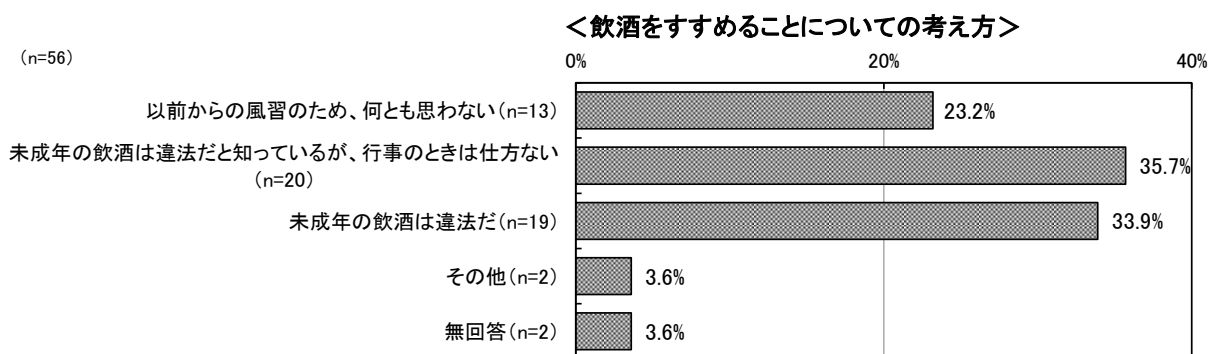
地域のおこないや祭りなどの行事のときに未成年に飲酒を勧める習慣があるかについては、「ない」が82.3%、「ある」4.8%となっています。

地域別でみると、「ある」が全体より少し多いのは、「旧びわ地域」「旧虎姫地域」「旧高月地域」「旧木之本地域」「旧西浅井地域」となっています。



(4-1) 飲酒をすすめることについての考え方 【問 28-1】

地域に行事などのとき未成年に飲酒を勧める習慣があると回答した人に、そのことについての考えをたずねたところ、「未成年の飲酒は違法だと知っているが、行事のときは仕方ない」が35.7%、「以前からの風習のため、何とも思わない」23.2%で、合計58.9%の人が容認していることがわかります。一方、「未成年の飲酒は違法だ」は33.9%となっています。

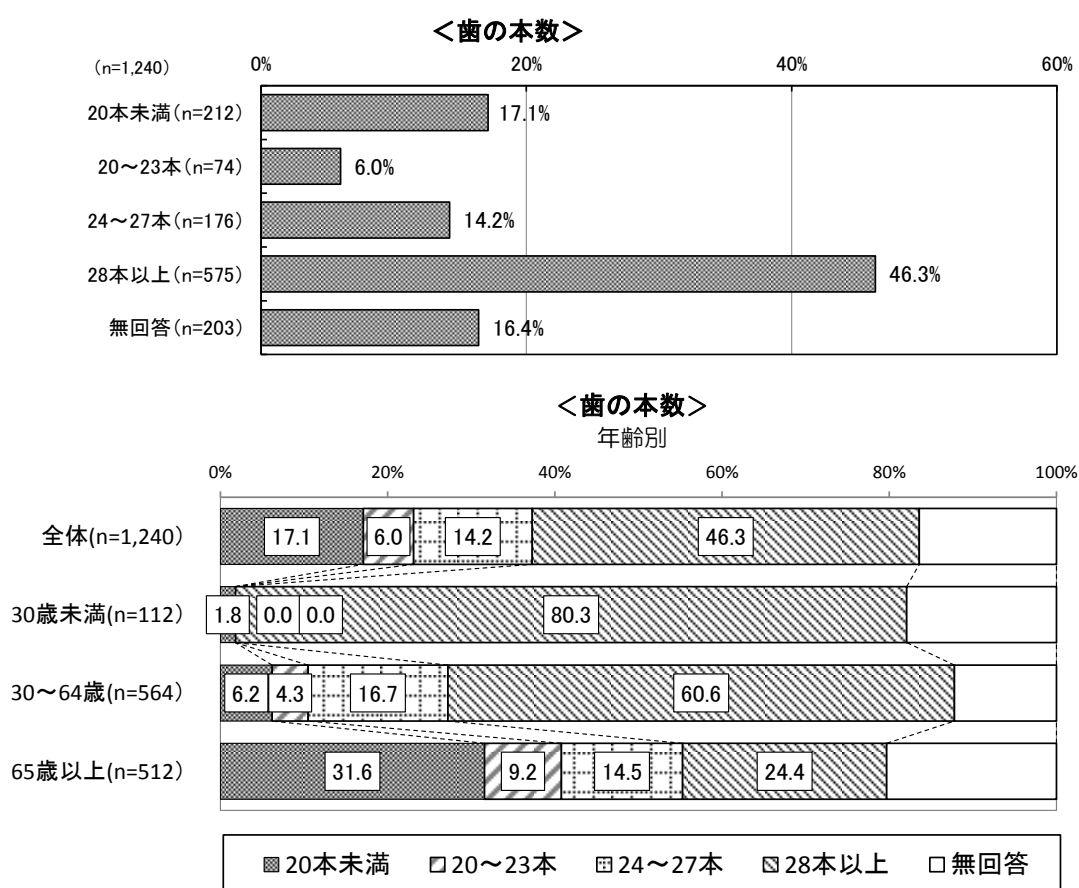


6. 歯科について

(1) 歯の本数 【問 29】

現在の歯の本数については、「28 本以上」が 46.3%、「20 本未満」17.1%、「24～27 本」14.2%の順となっています。

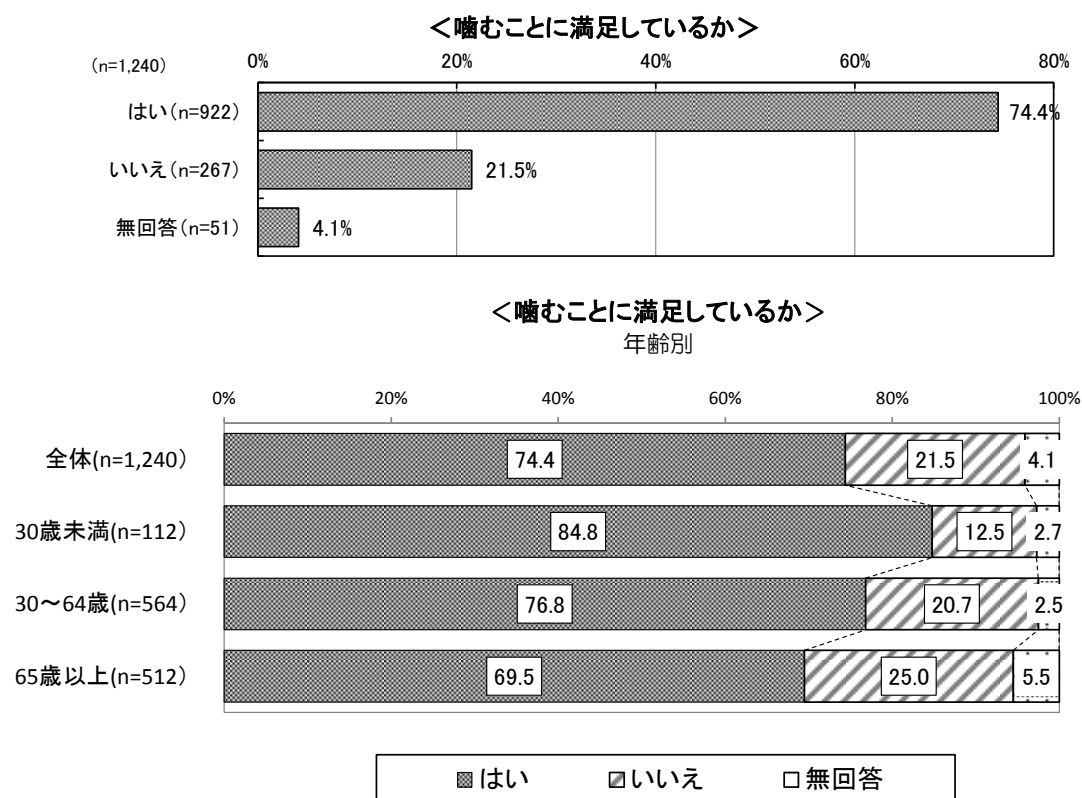
年齢別でみると、「30 歳未満」「30～64 歳未満」では「28 本以上」の人がそれぞれ 80.3%、60.6%ですが、「65 歳以上」では 24.4%となっています。また、「65 歳以上」では「20 本未満」が 31.6%を占めています。



（２）噛むことに満足しているか 【問 30】

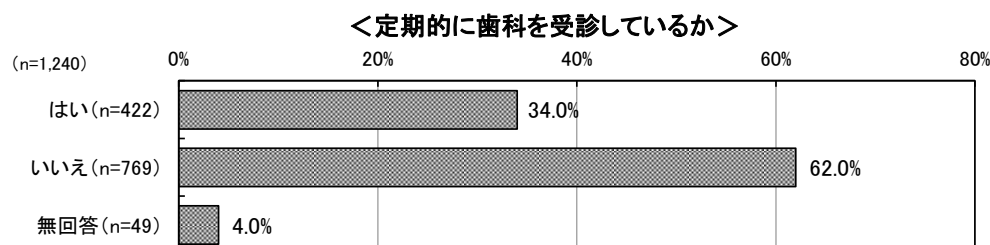
食生活上、噛むことの満足度については、「はい」が74.4%、「いいえ」21.5%となっています。

年齢別でみると、「30 歳未満」では「はい」が84.9%で8割以上が満足と回答していますが、「65 歳以上」では「はい」69.5%、「いいえ」25.0%で、4 分の 1 の人が満足ではないと回答していることがわかります。



（３）定期的に歯科を受診しているか 【問 31】

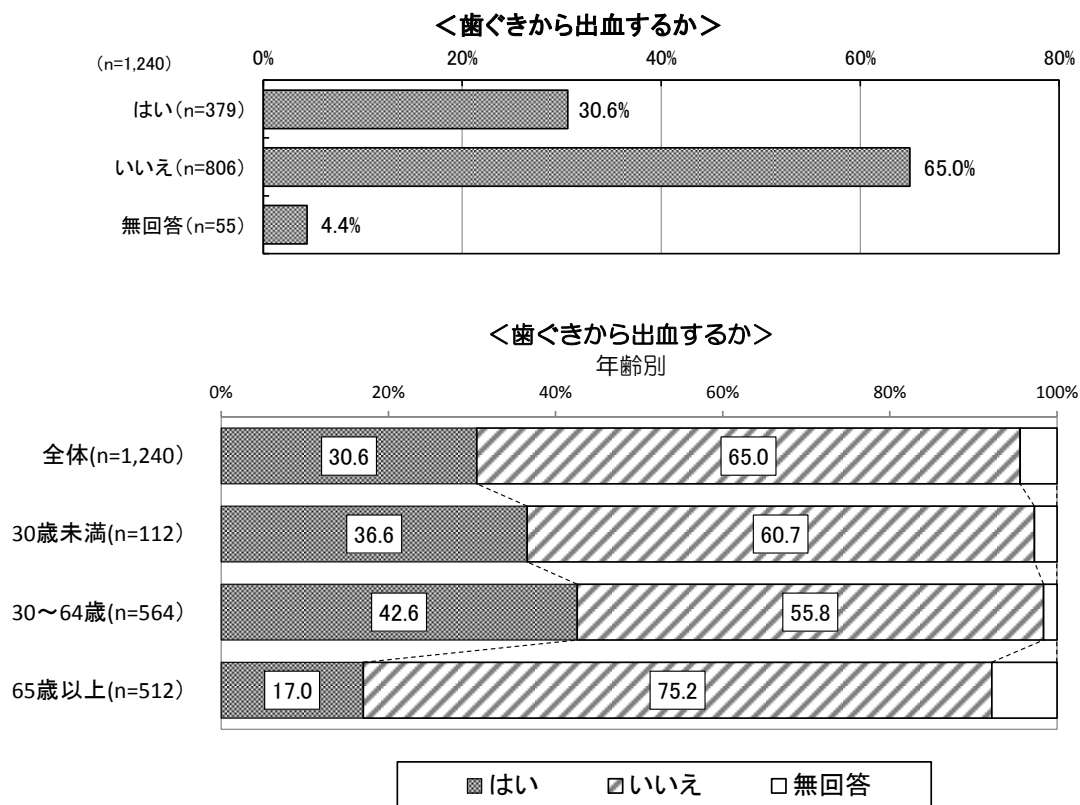
定期的に歯科医院を受診しているかについては、「いいえ」が62.0%、「はい」が34.0%で、定期的に受診している人は3割にとどまっていることがわかります。



（４）歯ぐきから出血するか 【問 32】

歯磨きの時に歯ぐきから血がでるかについては、「いいえ」65.0%、「はい」30.6%で、3割の人が出血すると回答しています。

年齢別でみると、「30～64 歳」では「はい」が42.6%とやや多く、逆に「65 歳以上」では「いいえ」が75.2%と出血しないという人が多数を占めています。

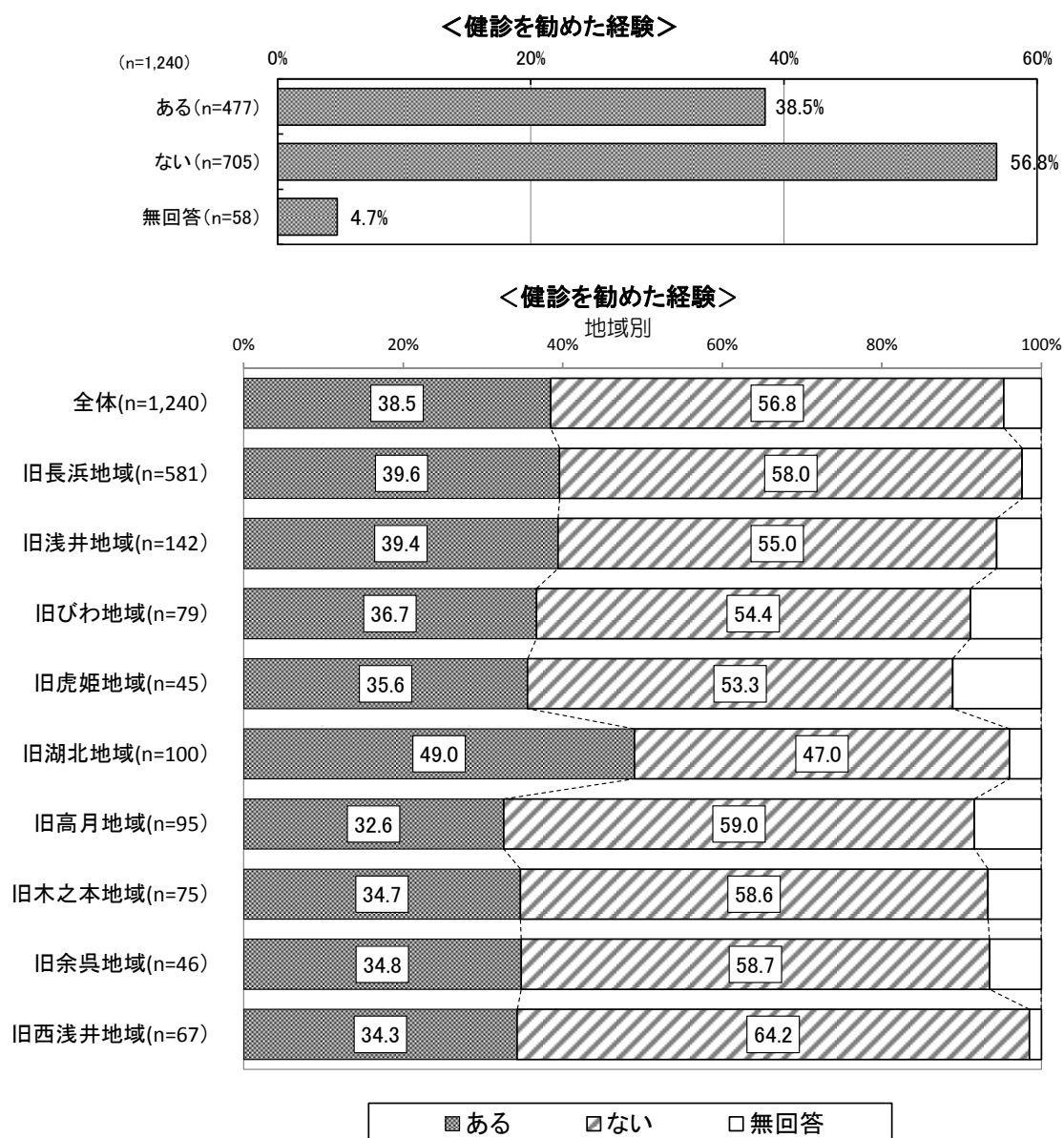


7. 健康管理について

(1) 健診を勧めた経験 【問 33】

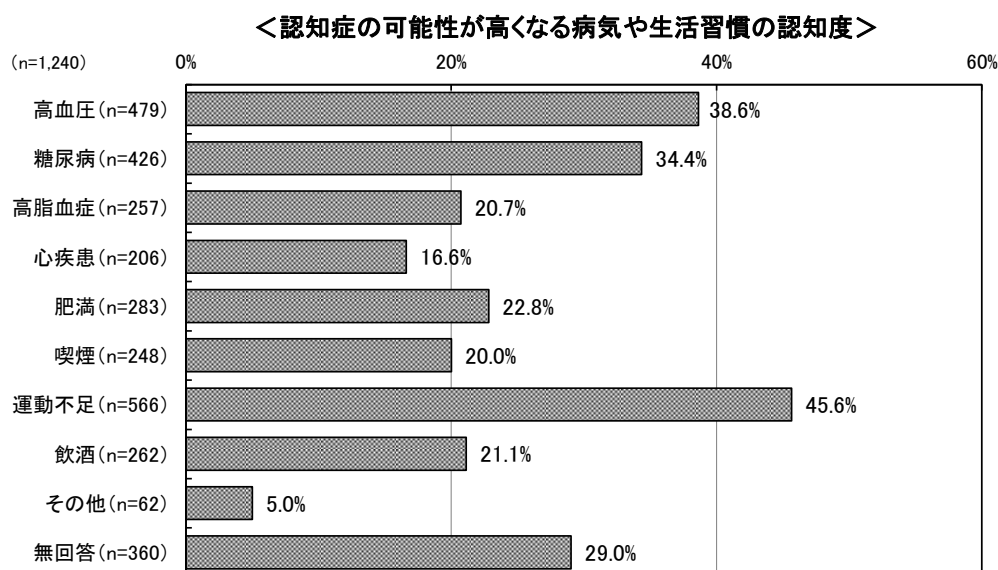
人に健診を勧めたことがあるか（過去3年間）については、「ない」56.8%、「ある」38.5%となっています。

地域別でみると、「旧湖北地域」では「ある」が49.0%と全体より10.5ポイント高くなっています。



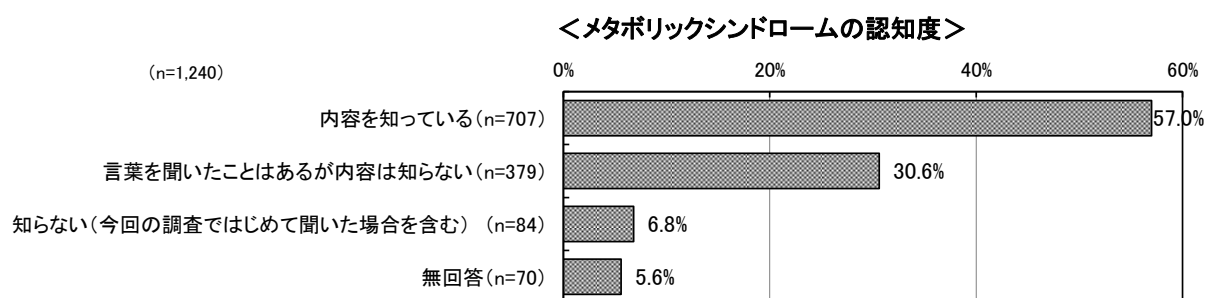
（２）認知症の可能性が高くなる病気や生活習慣の認知度 【問 34】

認知症になる可能性が高くなる病気や生活習慣の認知度については、「運動不足」が 45.6%、「高血圧」38.6%、「糖尿病」34.4%、「肥満」22.8%、「飲酒」21.1%の順に高くなっています。



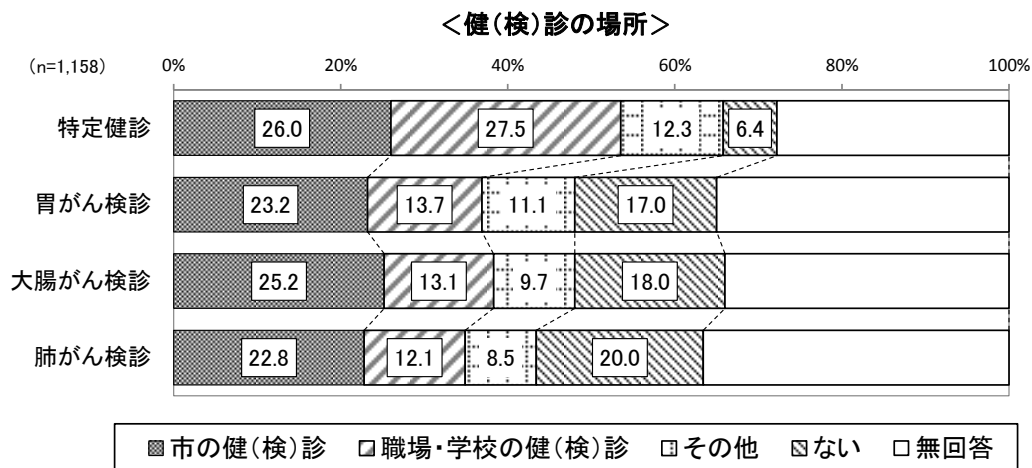
（３）メタボリックシンドロームの認知度 【問 35】

内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の内容を知っているかについては、「内容を知っている」が 57.0%で過半数を占め、次いで「言葉を聞いたことはあるが内容は知らない」30.6%、「知らない」5.6%となっています。



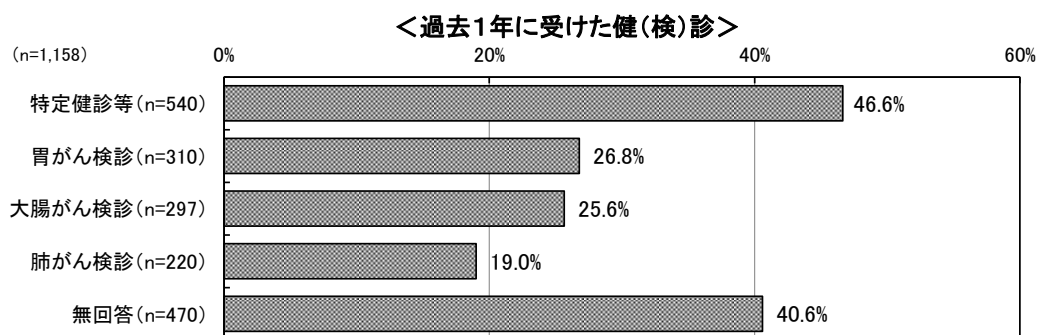
（４）健（検）診の場所 【問 36】

20 歳以上の人に健診をどこで受ける機会があるかたずねたところ、「特定健診」については、「職場・学校の健（検）診」が 27.5%、「市の健（検）診」26.0%となっています。がん検診については、いずれも「市の健（検）診」が 2 割以上で最も多く、「胃がん検診」で 23.2%、「大腸がん」で 25.3%、「肺がん」で 22.8%となっています。また、これらのがん検診については、受ける機会が「ない」という人それぞれ 2 割いることがわかります。



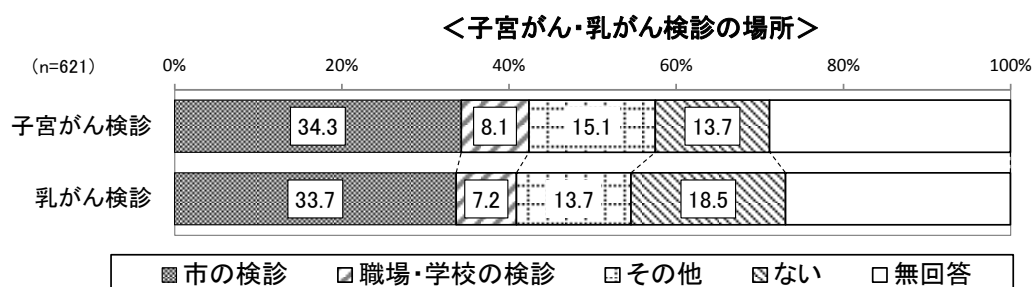
（４-１）過去 1 年に受けた健（検）診 【問 36-1】

20 歳以上の人に過去 1 年間に受けた健（検）診の内容をたずねたところ、「特定健診」が 46.6%で最も多く、次いで「胃がん検診」26.8%、「大腸がん検診」25.6%、「肺がん検診」19.0%の順となっています。



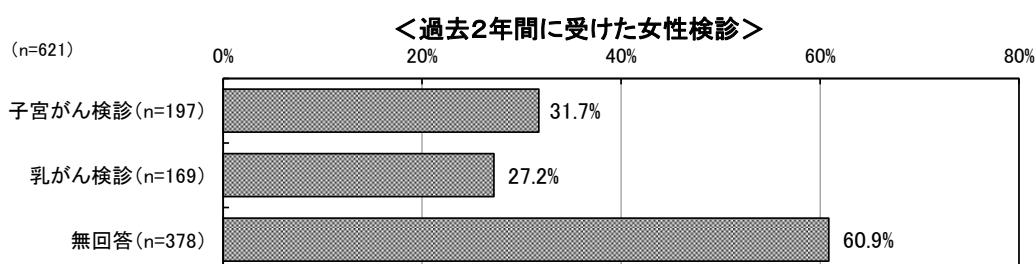
（５）乳がん・子宮がん検診の場所 【問 37】

20 歳以上の女性に、乳がん・子宮がん検診を受ける機会があるかたずねたところ、「子宮がん検診」「乳がん検診」ともに３割が「市の検診」と回答しており、「子宮がん検診」で 34.3%、「乳がん検診」で 33.7%となっています。一方、検診を受けたことが「ない」という人は「子宮がん検診」で 13.7%、「乳がん検診」で 18.5%となっています。



（５-１）過去２年間に受けた女性検診 【問 37-1】

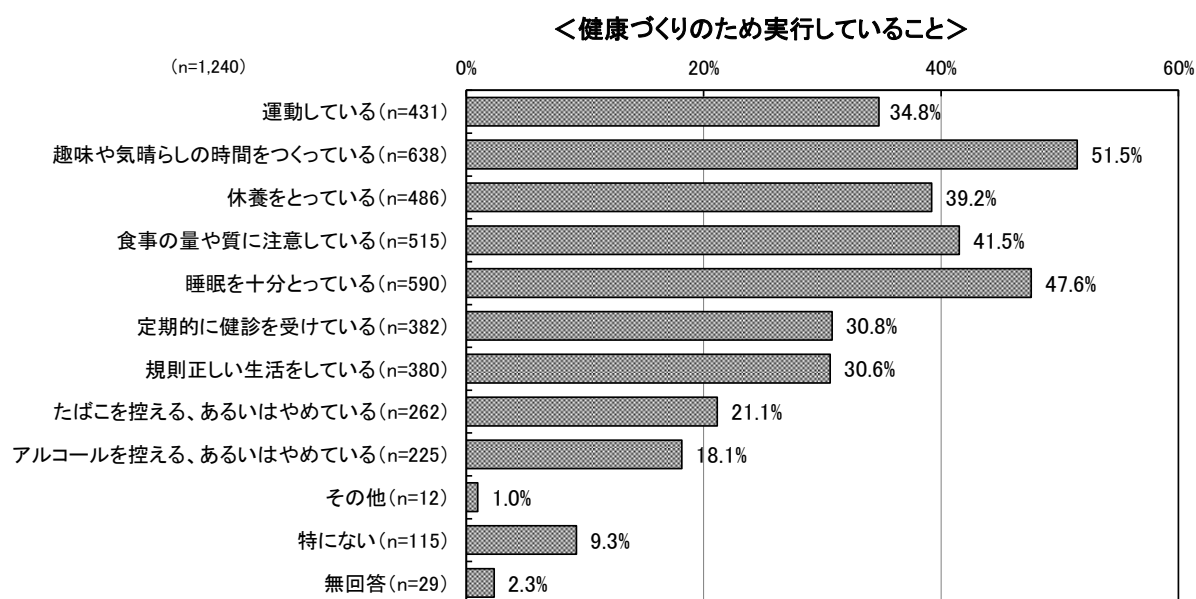
20 歳以上の女性に、過去２年間に受けたがん検診の内容をたずねたところ、「子宮がん検診」は 31.7%、「乳がん検診」は 27.2%となっています。



8. 心と休養について

(1) 健康づくりのため実行していること 【問 38】

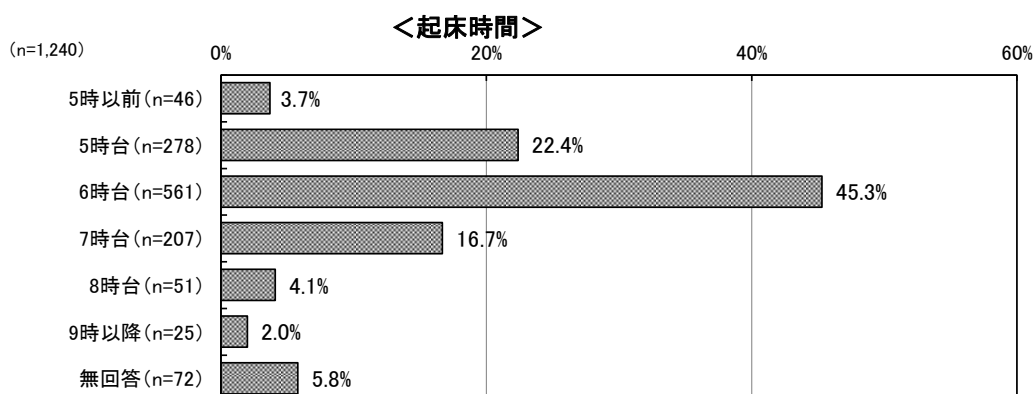
健康づくりのために実行していることについては、「趣味や気晴らしの時間をつくっている」が最も多く 51.5%と半数を占めています。次いで「睡眠を十分とっている」47.6%、「食事の量や質に注意している」41.5%、「休養をとっている」39.2%、「運動している」34.8%の順に多くなっています。

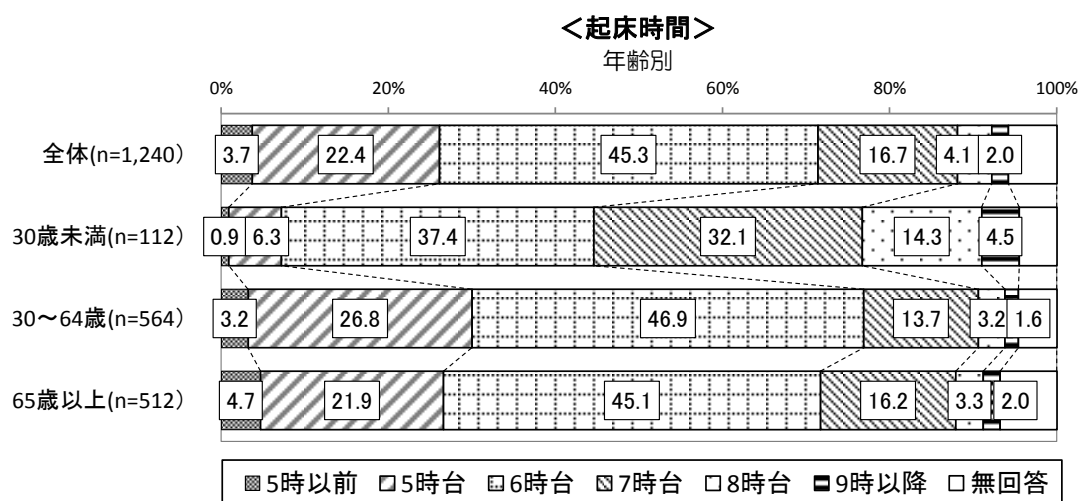


(2) 起床時間・就寝時間 【問 39】

起床時間については、「6 時台」が 45.3%で最も多く、次いで「5 時台」22.4%、「7 時台」16.7%の順に多くなっています。

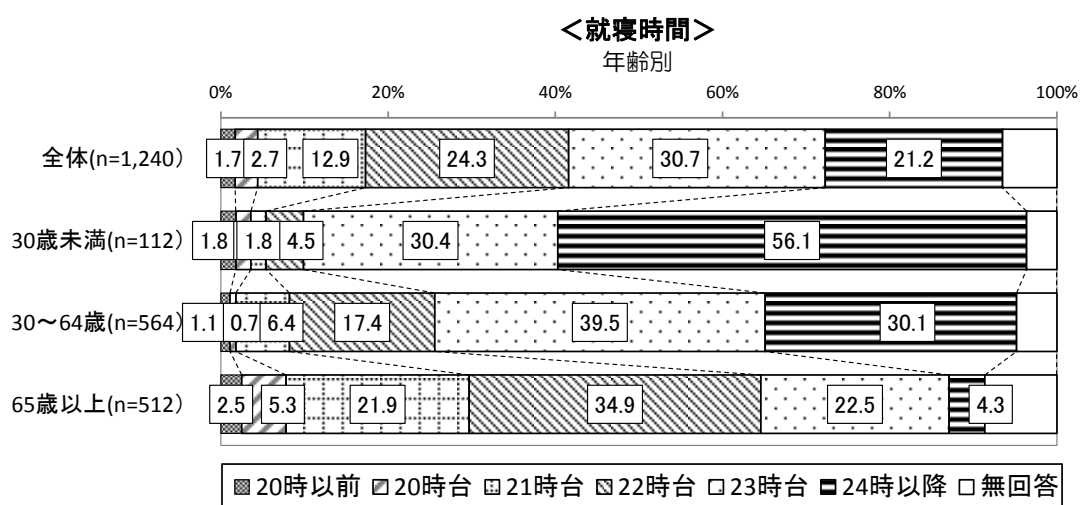
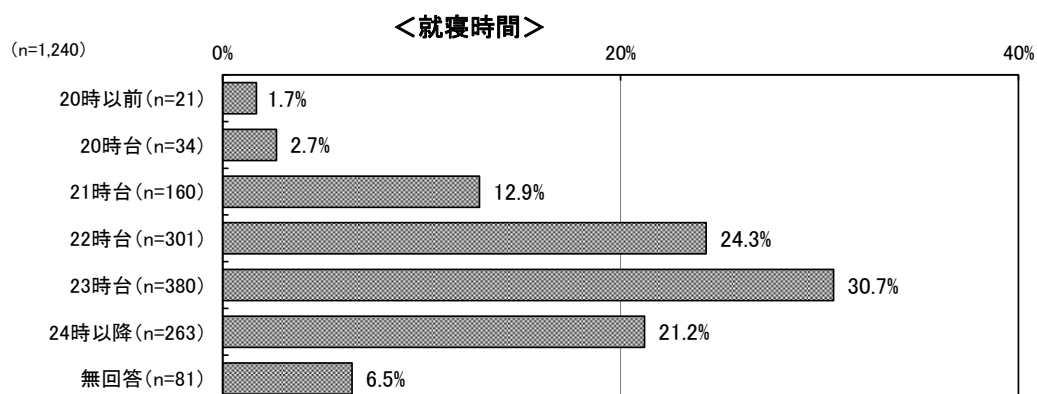
年齢別でみると、「30 歳未満」では「6 時台」に次いで「7 時台」への回答も多く 32.1%となっています。



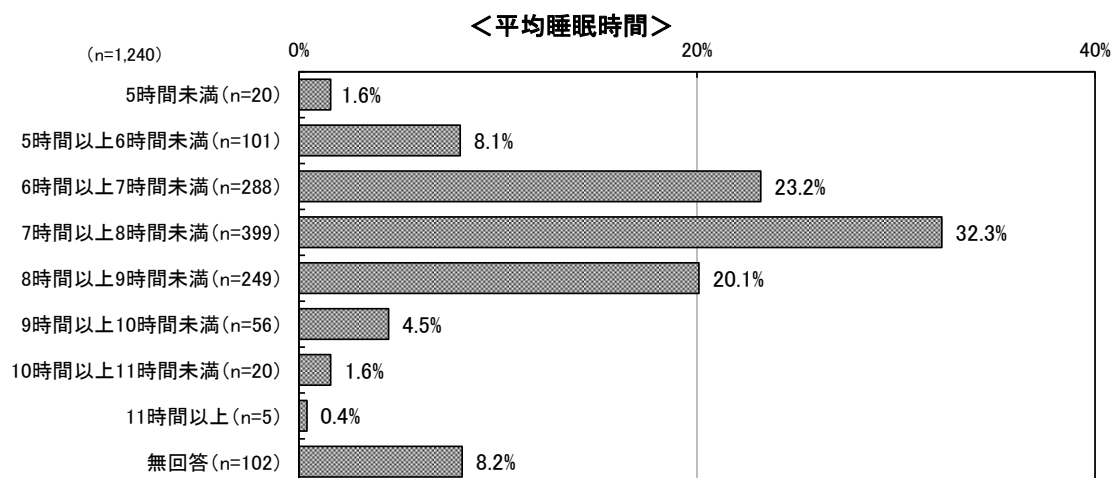


就寝時間については、「23 時台」が 30.7%で最も多く、次いで「22 時台」24.3%、「24 時以降」21.2%の順に多くなっています。

年齢別でみると、「30 歳未満」では、「24 時以降」が 56.1%で最も多く過半数を占めています。一方、「65 歳以上」では、「22 時台」が 34.9%で最も多くなっています。

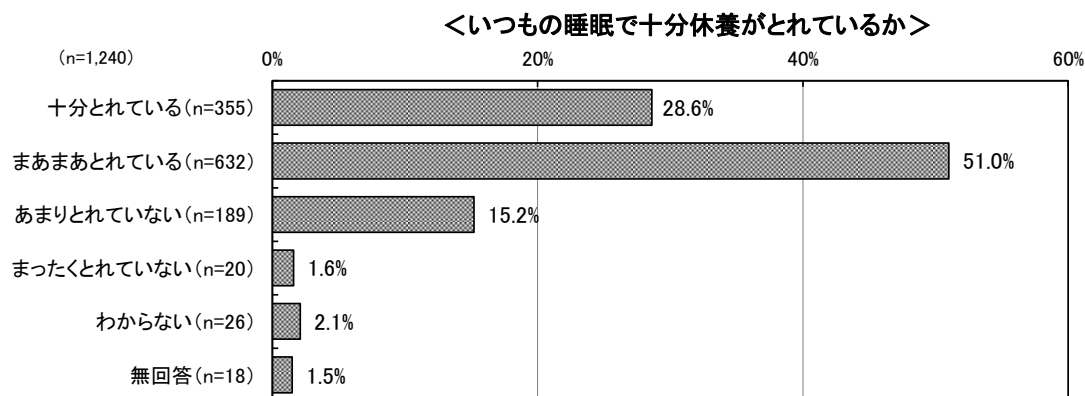


平均睡眠時間については、「7～8 時間未満」が 32.3%で最も多く、次いで「6～7 時間未満」23.2%、「8 時間以上 9 時間未満」20.1%の順に多くなっています。



(3) いつもの睡眠で十分休養がとれているか 【問 40】

いつもとっている睡眠で休養が十分かについては、「まあまあとれている」が 51.0%で最も多く、「十分とれている」28.6%と合わせると、約8割の 79.6%は休養がとれていると回答しています。一方、「あまりとれていない」は 15.2%、「まったくとれていない」とする人も 1.6%みられます。

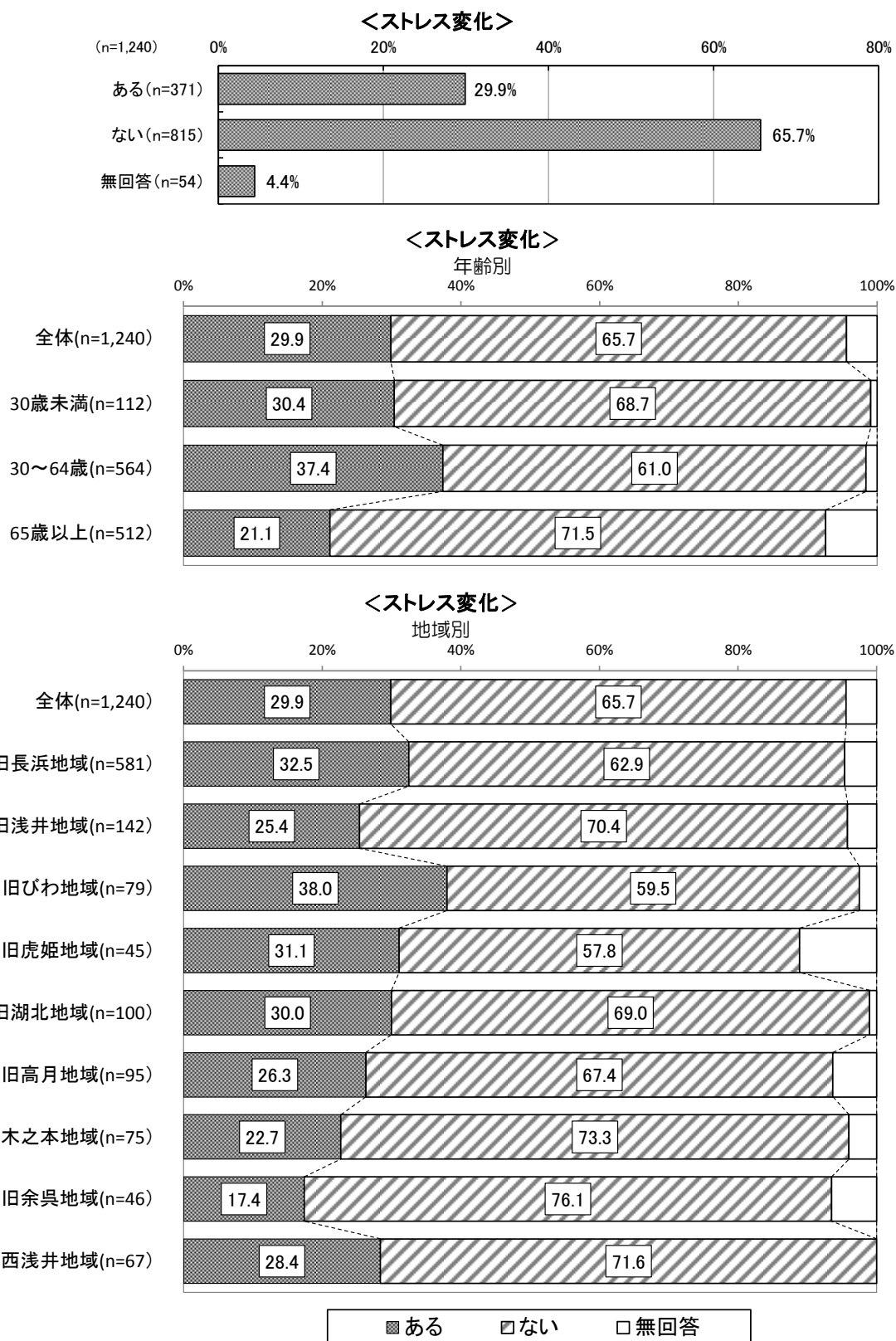


(4) ストレス変化 【問 41】

ストレスで体を壊したことがあるかについては、「ない」65.7%、「ある」29.9%となっています。

年齢別でみると、「30～64 歳」では「ある」が 37.4%と 4 割近くを占めています。一方、「65 歳以上」では「ない」が 71.5%となっています。

地域別でみると、「旧びわ地域」では「ある」が 38.0%で全体より 8.1 ポイント高く、逆に「旧木之本地域」「旧余呉地域」「旧西浅井地域」では「ない」が全体より 5 ポイント以上高くなっています。

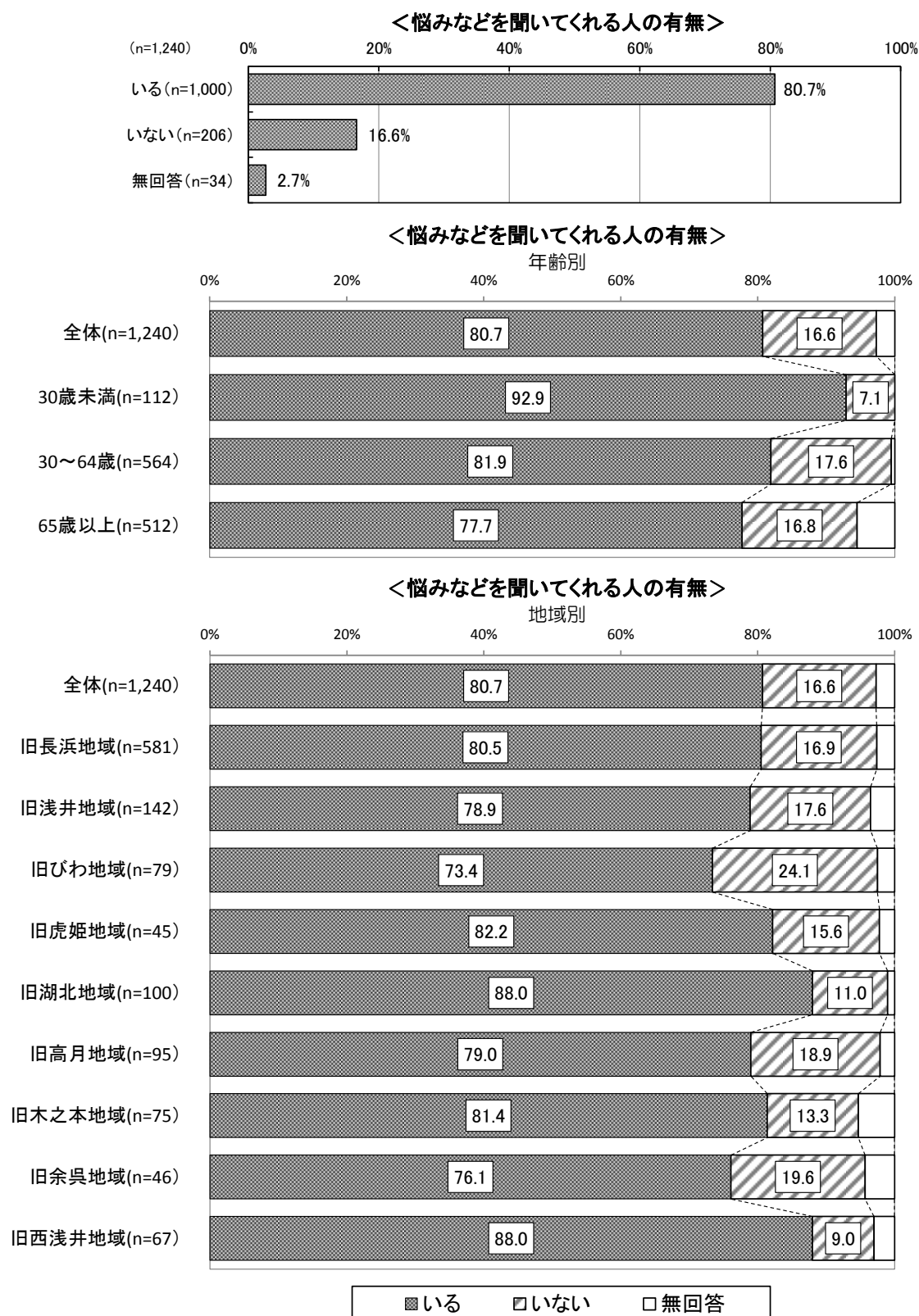


（５）悩みなどを聞いてくれる人の有無（周囲との関係） 【問 42】

不満や悩みなどを聞いてくれる人がいるかについては、「いる」が80.7%、「いない」が16.6%となっています。

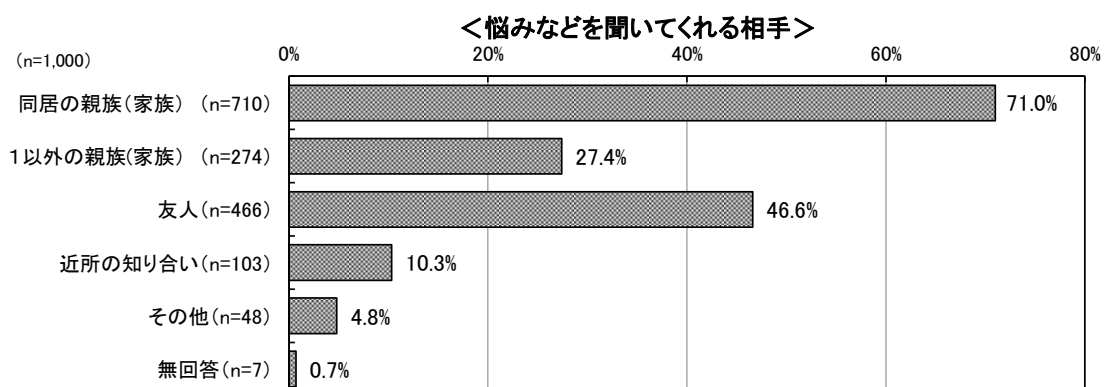
年齢別でみると、「30歳未満」では「いる」が92.9%で全体より12.2ポイント高くなっています。

地域別でみると、「旧びわ地域」では「いない」が全体より7.5ポイント高く、逆に「旧湖北地域」「旧西浅井地域」では「いる」が全体より7.3ポイント高くなっています。



（5-1）悩みなどを聞いてくれる相手 【問 42-1】

不満や悩みなどを聞いてくれる人がいる人に、その相手が誰かたずねたところ、「同居の親族」が71.0%で最も多く、次いで「友人」46.6%、「同居以外の親族」27.4%の順となっています。



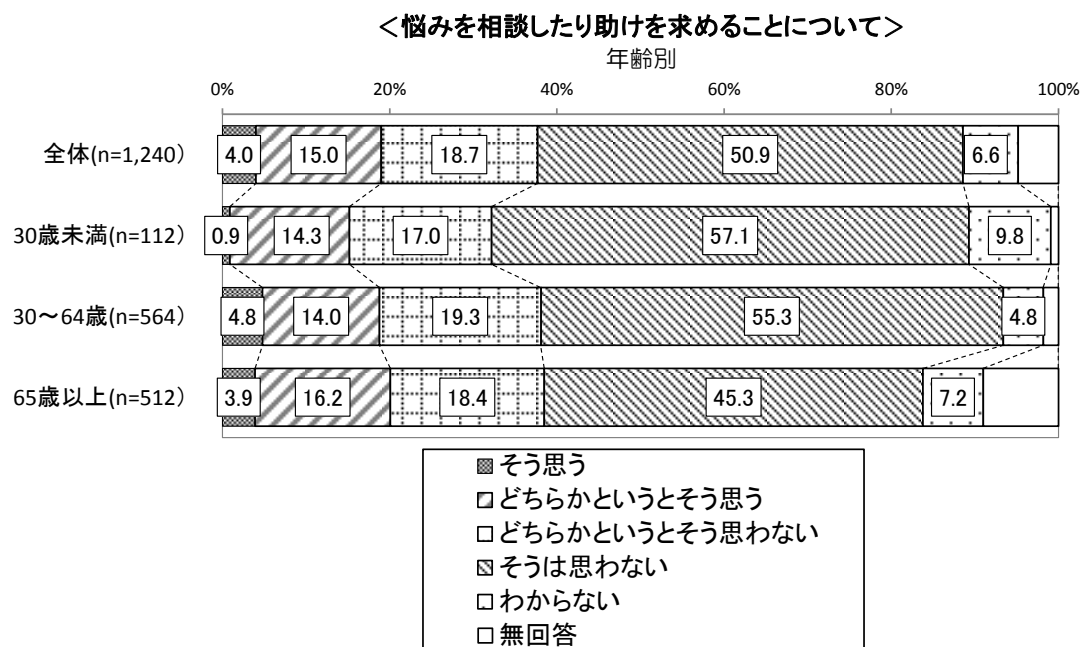
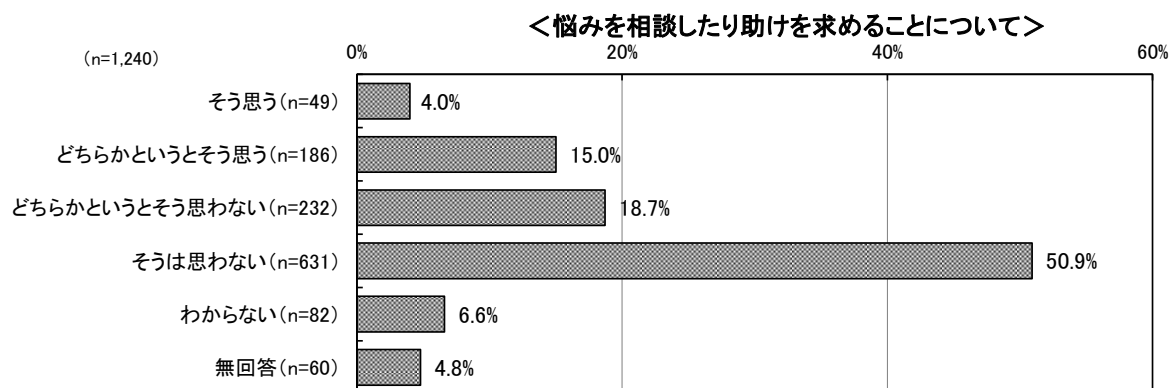
◆その他の記述回答 ＜悩みなどを聞いてくれる相手＞

- ・職場の同僚等（19）
- ・親族（5）
- ・婚約者、配偶者等（3）
- ・20年以上付合っている人
- ・教育団体
- ・ケアマネ、ヘルパーさん
- ・ケアマネージャー
- ・支援員の方
- ・仕事の仲間
- ・診療所先生
- ・相談
- ・デーサービスで
- ・ヘルパー
- ・牧師

（６）悩みを相談したり助けを求めることについて 【問 43】

悩みなどを誰かに相談したり助けを求めることを恥ずかしいと思うかについては、「そうは思わない」が50.9%で最も多く約半数を占めており、「どちらかというと思わない」18.7%と合わせると69.6%が恥ずかしいとは思わないと回答していることがわかります。一方、「どちらかというと思う」は15.0%、「そう思う」4.0%で、19.0%は恥ずかしいと思うと回答しています。

年齢別でみると、「30歳未満」では「そう思わない」が全体より6.2ポイント高く、逆に「65歳以上」では全体より5.6ポイント低くなっています。

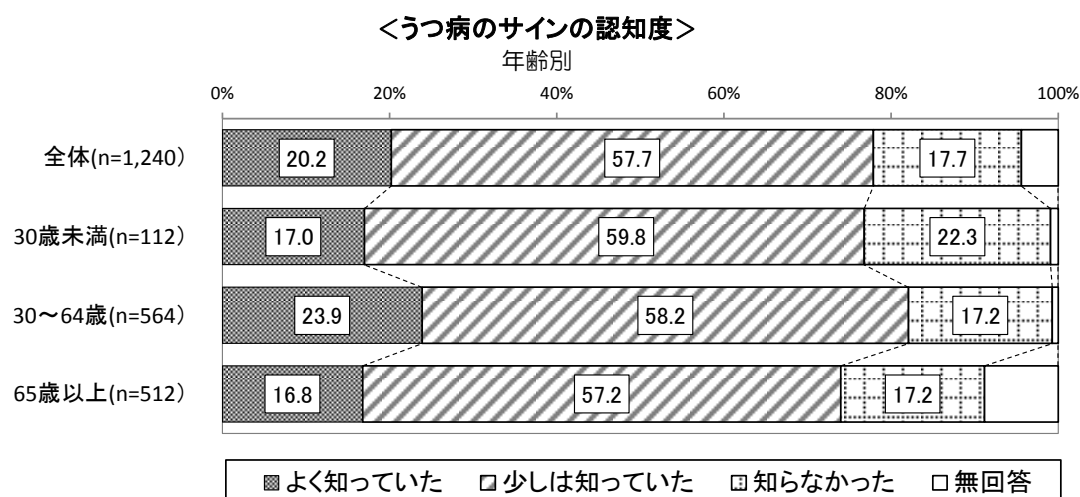
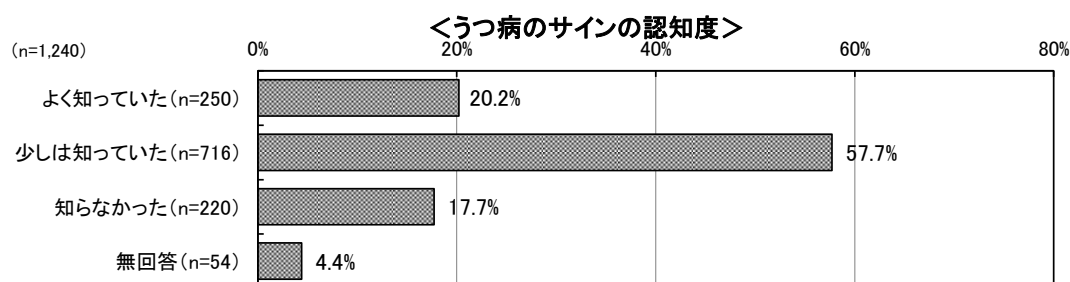


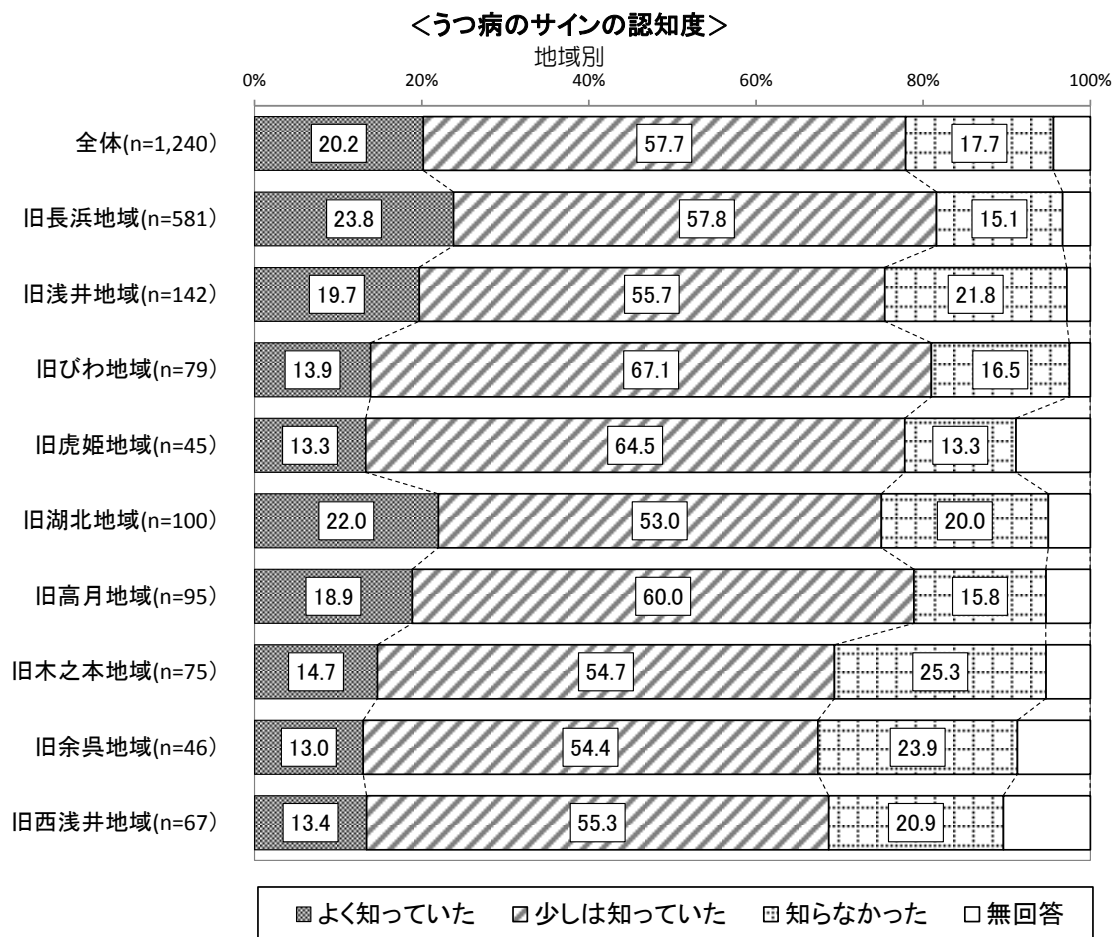
(7) うつ病のサインの認知度 【問 44】

うつ病のサインの認知度については、「少しは知っていた」が57.7%で過半数を占め、「よく知っていた」20.2%と合わせると、77.9%が知っていたと回答していることがわかります。一方、「知らなかった」は17.7%となっています。

年齢別でみると、「30～64 歳」では「よく知っていた」への回答が他の世代と比較してやや高く、23.9%となっています。

地域別でみると、「旧木之本地域」「旧余呉地域」では「知らない」への回答が全体より5ポイント以上高くなっています。



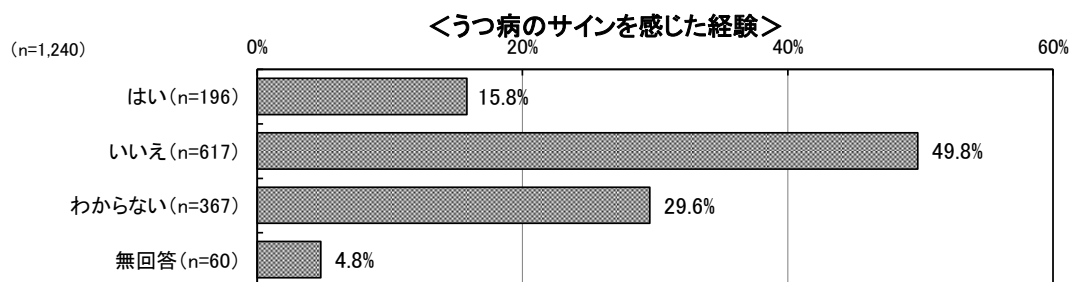


(8) うつ病のサインを感じた経験 【問 45】

自分自身のうつ病のサインを感じたことがあるかについては、「いいえ」が49.8%、「わからない」29.6%、「はい」15.8%となっています。

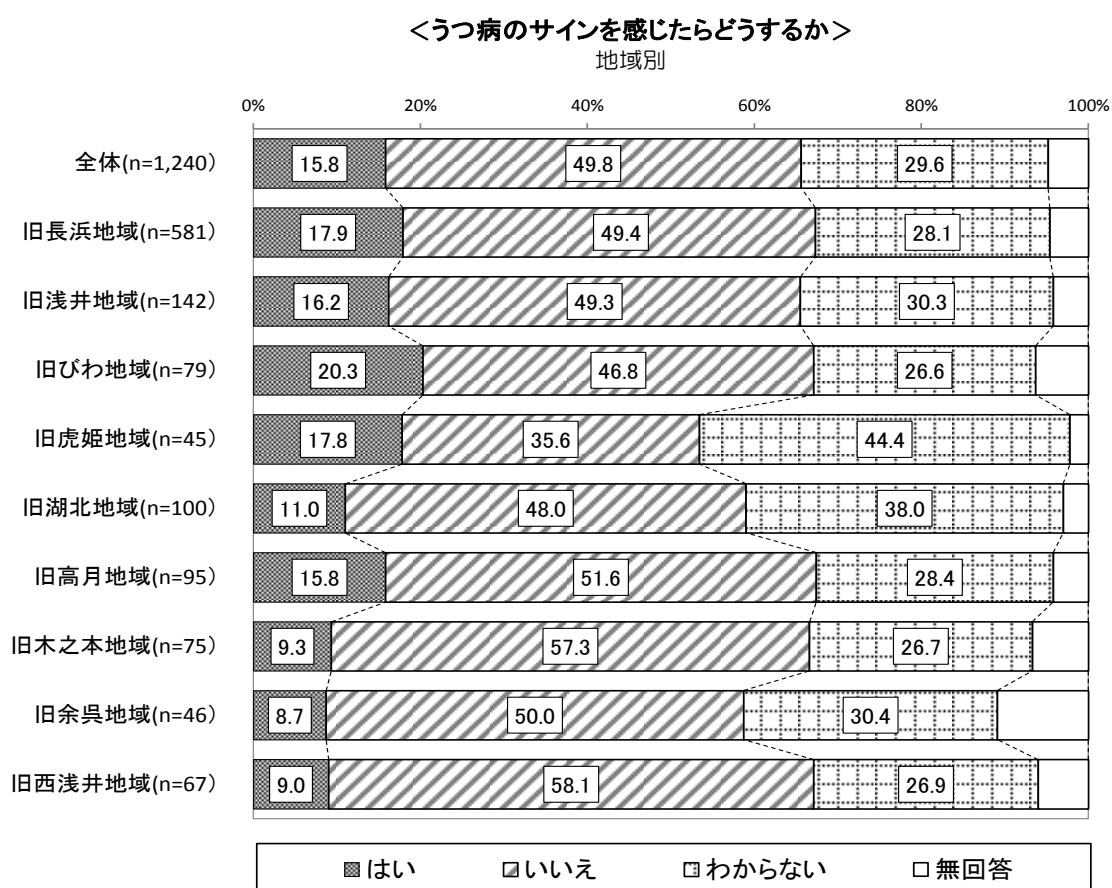
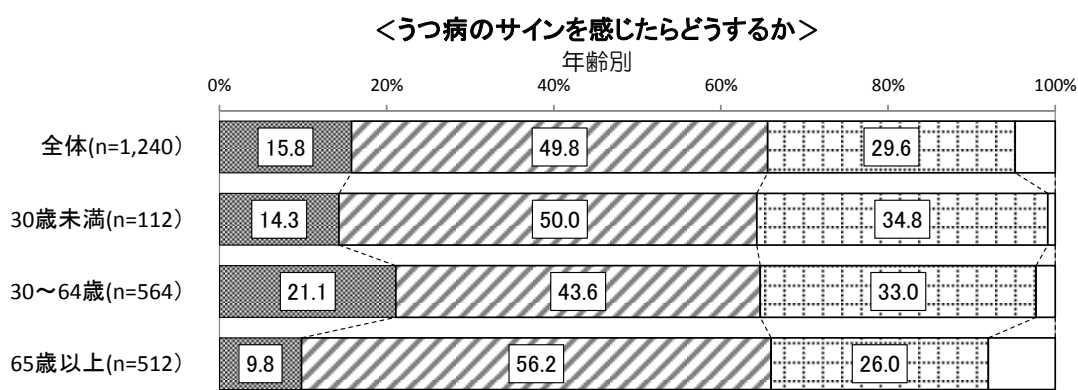
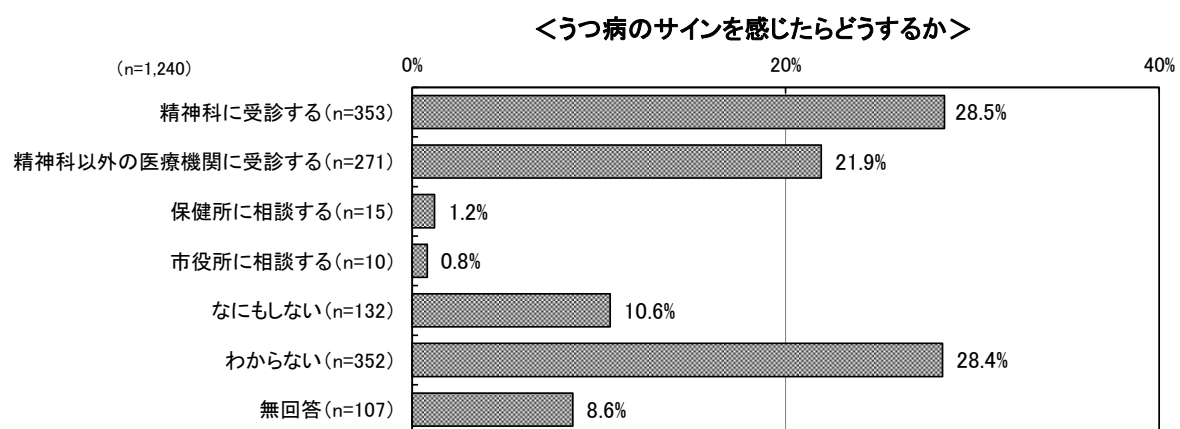
年齢別でみると、「30～64 歳」では「はい」が21.1%と全体より5.3ポイント高く、逆に「65 歳以上」では9.8%と全体より6ポイント低くなっています。

地域別でみると「旧びわ地域」では「はい」が全体より4.5ポイント高く、逆に「旧木之本地域」では「いいえ」が全体より7.5ポイント高く57.3%となっています。また、「旧虎姫地域」では「わからない」が全体より14.8ポイント高くなっています。



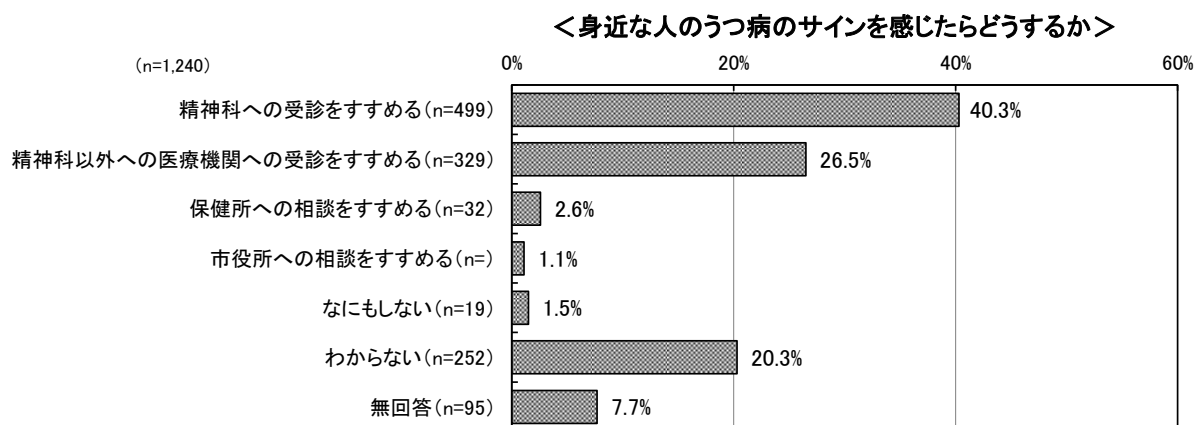
（９）うつ病のサインを感じたらどうするか 【問 46】

自分自身のうつ病のサインに気づいたとき、最初にどうするかについては、「精神科に受診する」が28.5%、「わからない」28.4%で多くなっています。「精神科以外の医療機関に受診する」という回答も21.9%、「なにもしない」10.6%という回答もみられます。



（10）身近な人のうつ病のサインを感じたらどうするか 【問 47】

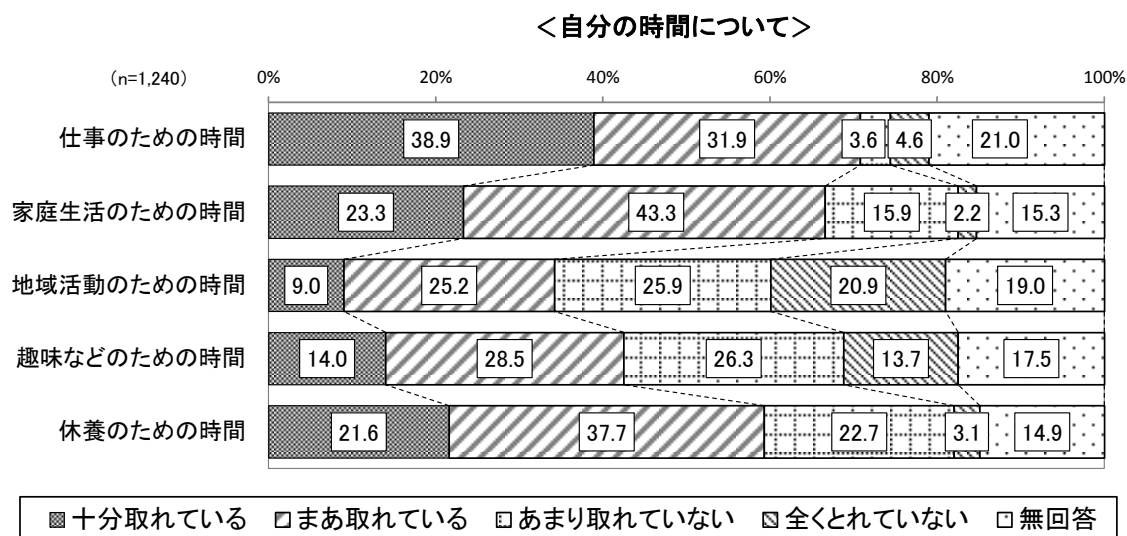
身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、最初にどうするかについては、「精神科への受診をすすめる」が40.3%で最も多く、次いで「精神科以外への医療機関への受診をすすめる」26.5%、「わからない」20.3%の順となっています。



（11）自分の時間について 【問 48】

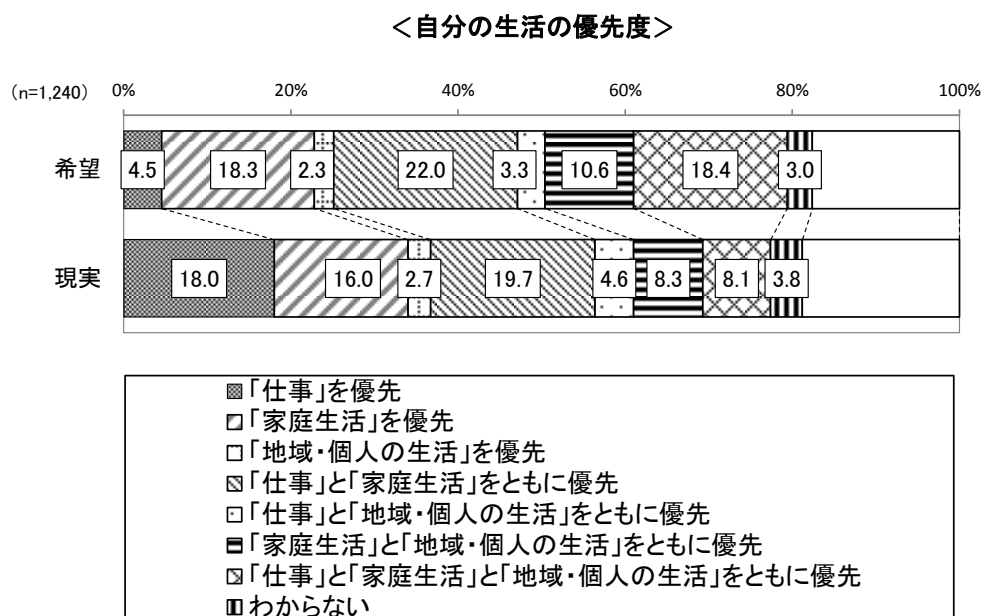
仕事や家庭生活など5項目に関して、自分の時間が十分とれているかについては、それぞれの最も多かった回答をみると、「仕事のための時間」では「十分とれている」が38.9%、「家庭生活のための時間」では「まあ取れている」43.3%、「地域活動のための時間」では「まあ取れている」「あまり取れていない」が3割近くでほぼ同率、「趣味などのための時間」では「まあ取れている」が28.5%、「休養のための時間」では「まあ取れている」37.7%となっています。

「十分とれている」「まあ取れている」を合計してみると、「仕事のための時間」「家庭生活のための時間」についてはそれぞれ約7割の人が取れていると回答しています。逆に、「地域活動のための時間」については取れている人の合計が3割にとどまっており、「あまり取れていない」「取れていない」がの合計が半数近くとなっています。



(11-1) 自分の生活の優先度 【問 48-1】

生活の中の優先度について、「希望」と「現実」をそれぞれたずねたところ、「希望」では「家庭生活を優先」「仕事と家庭生活をともに優先」「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」がそれぞれ約2割で多くなっていますが、「現実」では「仕事と家庭生活をともに優先」19.7%に次いで「仕事を優先」が18.0%と多くなっています。

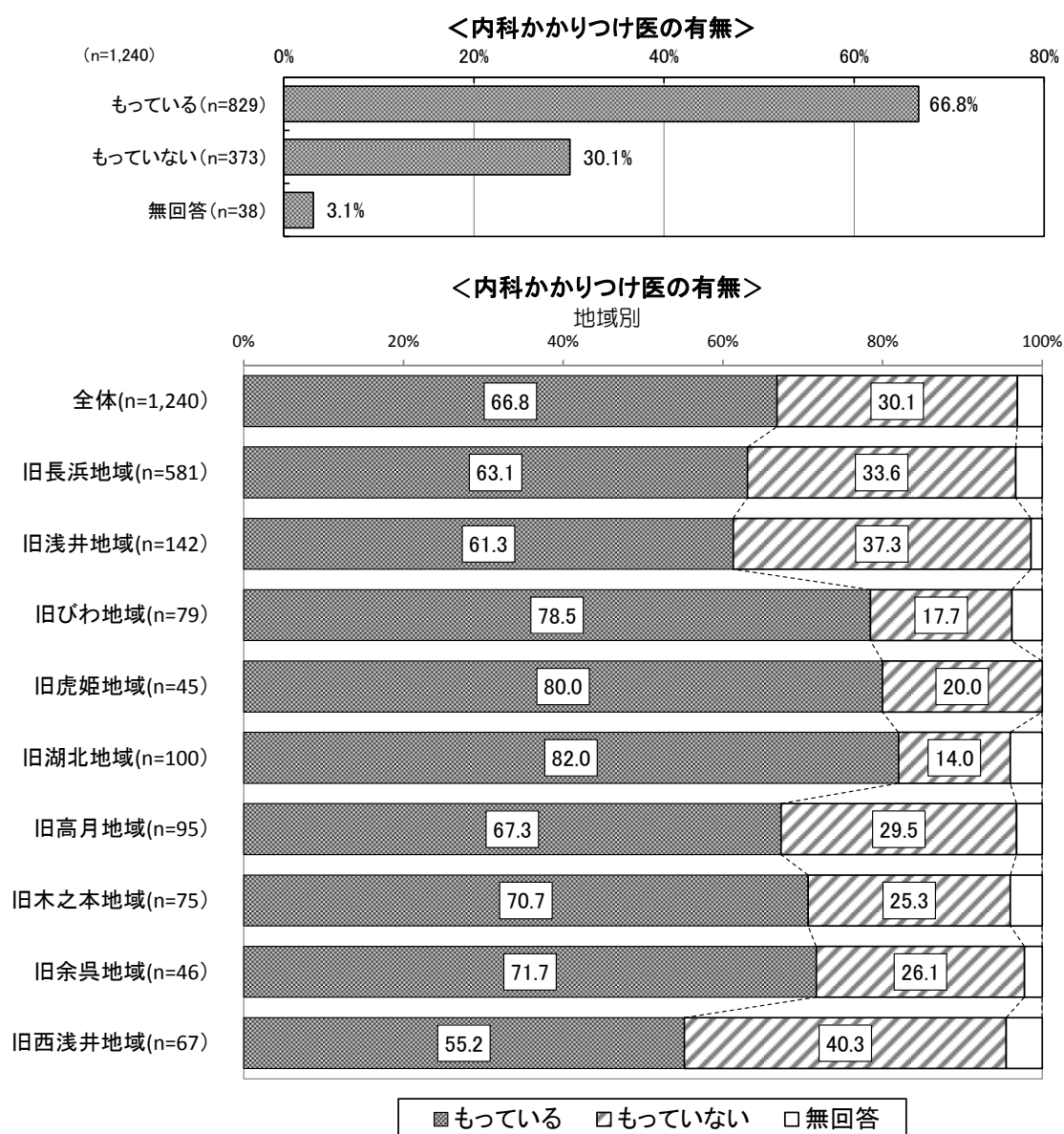


9. 地域医療について

(1) 内科かかりつけ医の有無 【問 49】

内科のかかりつけ医の有無については、「もっている」66.8%、「もっていない」30.1%となっています。

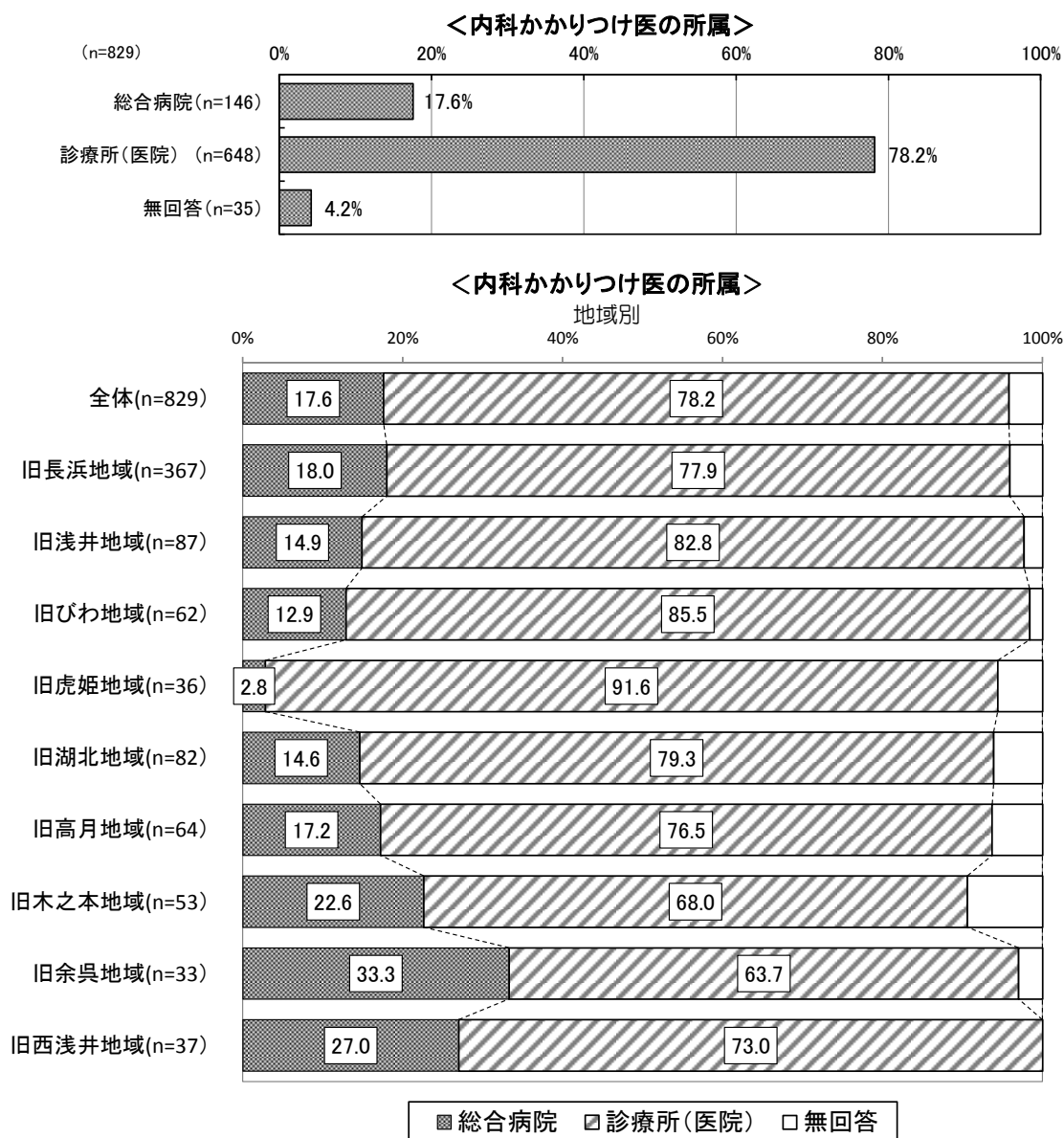
地域別でみると、「旧びわ地域」「旧虎姫地域」「旧湖北地域」では「もっている」が全体より10ポイント以上高く、逆に「旧西浅井地域」では「もっていない」が全体より約10ポイント低くなっています。



（１－１）内科かかりつけ医の所属 【問 49-1】

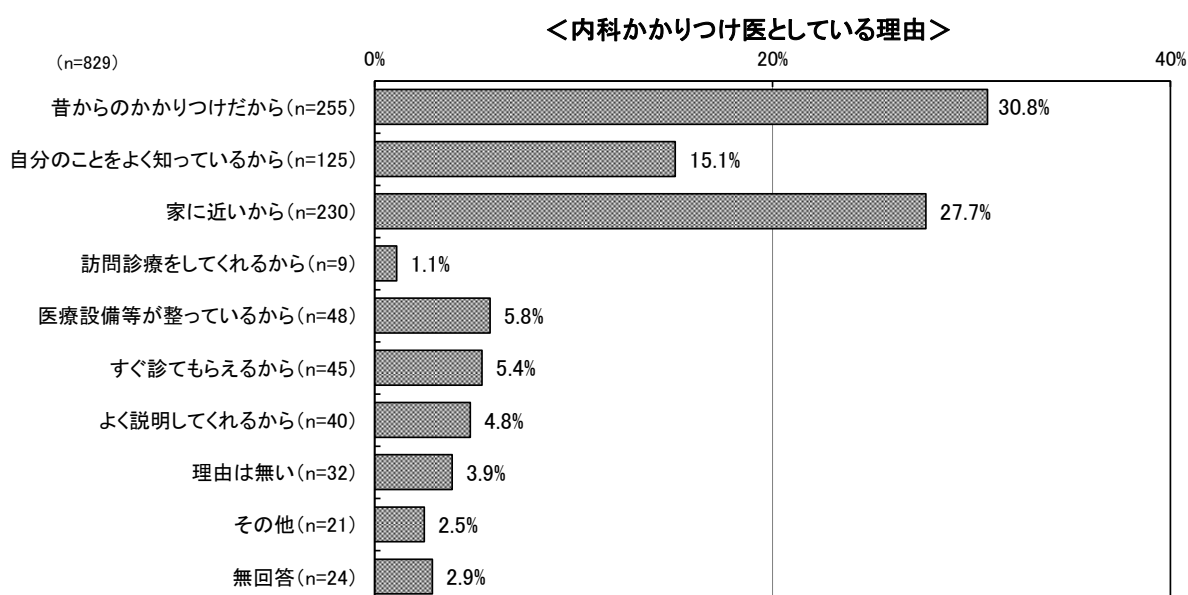
内科のかかりつけ医がいる人に、医師の所属をたずねたところ、「診療所」が78.2%、「総合病院」17.6%となっています。

地域別でみると、「旧びわ地域」「旧虎姫地域」では「診療所」への回答が全体より5ポイント以上高く、逆に「旧木之本地域」「旧余呉地域」「旧西浅井地域」では「総合病院」への回答が全体より5ポイント以上高くなっています。



（１-２）内科かかりつけ医としている理由 【問 49-2】

内科のかかりつけ医がいる人に、そこをかかりつけ医としている理由をたずねたところ、「昔からのかかりつけだから」が30.8%で最も多く、次いで「家に近いから」27.7%、「自分のことをよく知っているから」15.1%の順となっています。



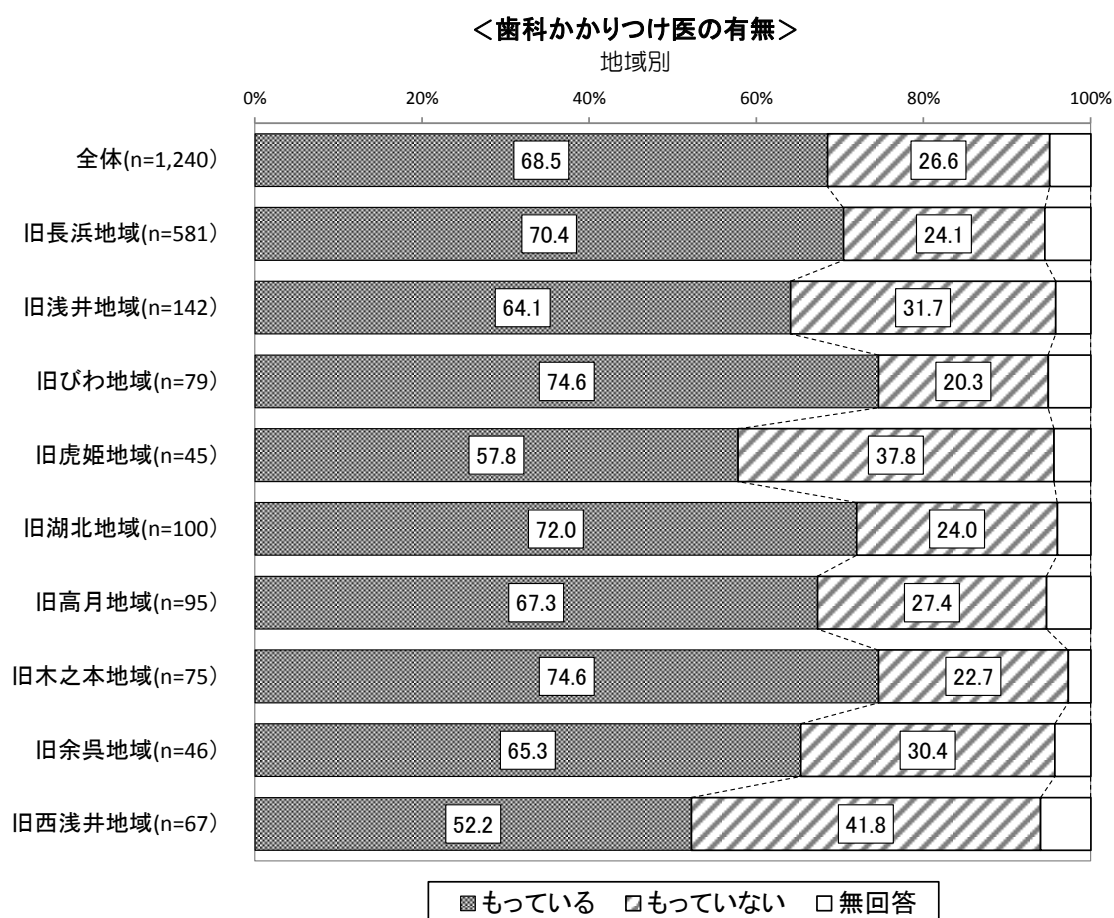
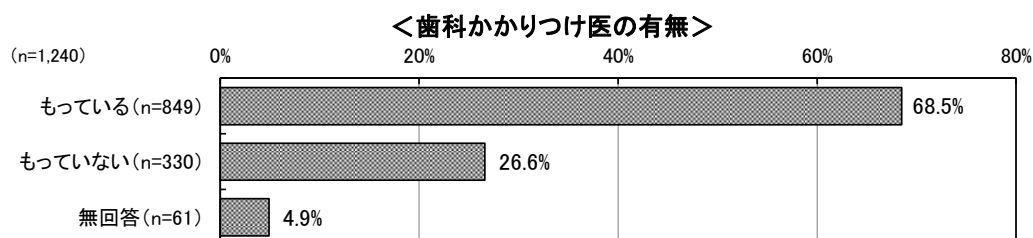
◆その他の記述回答 ＜内科かかりつけ医としている理由＞

- ・職場だから（２）
- ・中学、高校の同級生
- ・専門医だから。
- ・小児科のある内科だから、子どもをみてもらえる。
- ・受付時間が遅くまで開いている
- ・子供と一緒にだから。
- ・開業依頼、月、１回定期的に診察を受けています。
- ・夕方や土曜日に診療してもらえるから
- ・母の知り合い
- ・母の介護から、最期まで、お世話になりました。
- ・糖尿病で入院していた時期があり、退院後も通院している為
- ・月に一回診療 薬もらっている
- ・知人から紹介されて通い始めた
- ・先生が信頼できるいい人だから
- ・診療時間が長いから
- ・信仰
- ・循環器医の為
- ・主人と一緒に。主人の母が勤めていて安心。良く診て下さる。
- ・持病があるから
- ・子供のかかりつけ医で、信頼しているから
- ・現在も通院しているから
- ・気楽に話ができて信頼できるから。
- ・大きな病院から回される
- ・家の近くの病院からの紹介で
- ・医院でお薬をいただけるから。薬局へもらいにいくのは遠いし面倒だし別にお金がかかるから。
- ・１、２、７。親切で私の体のことを心から心配してくれる医師だから

（２） 歯科かかりつけ医の有無 【問 50】

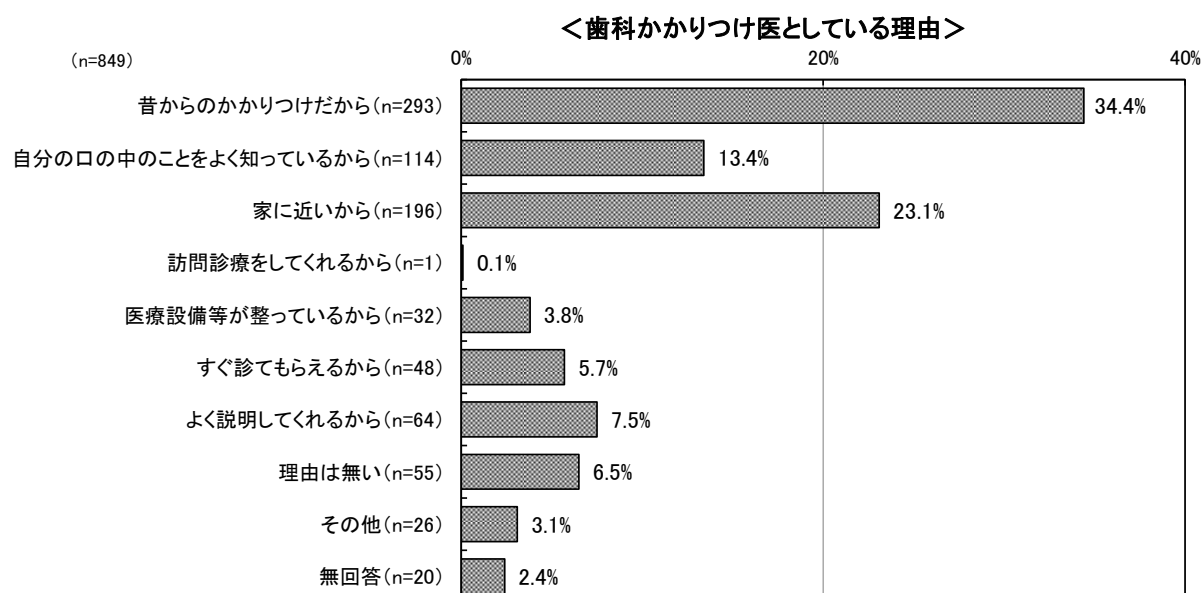
歯科のかかりつけ医の有無については、「もっている」68.5%、「もっていない」26.6%となっています。

地域別でみると、「もっていない」が多いのは、「旧西浅井地域」で全体より 15.2 ポイント高い 41.8%となっています。このほか「旧虎姫地域」で 37.8%、「旧浅井地域」で 31.7%と、「もっていない」が多くなっています。



（２-１） 歯科かかりつけ医としている理由 【問 50-1】

歯科のかかりつけ医がいる人に、そこをかかりつけ医としている理由をたずねたところ、「昔からのかかりつけだから」が 34.4%で最も多く、次いで「家に近いから」23.1%、「自分の口の中のことをよく知っているから」13.4%の順となっています。



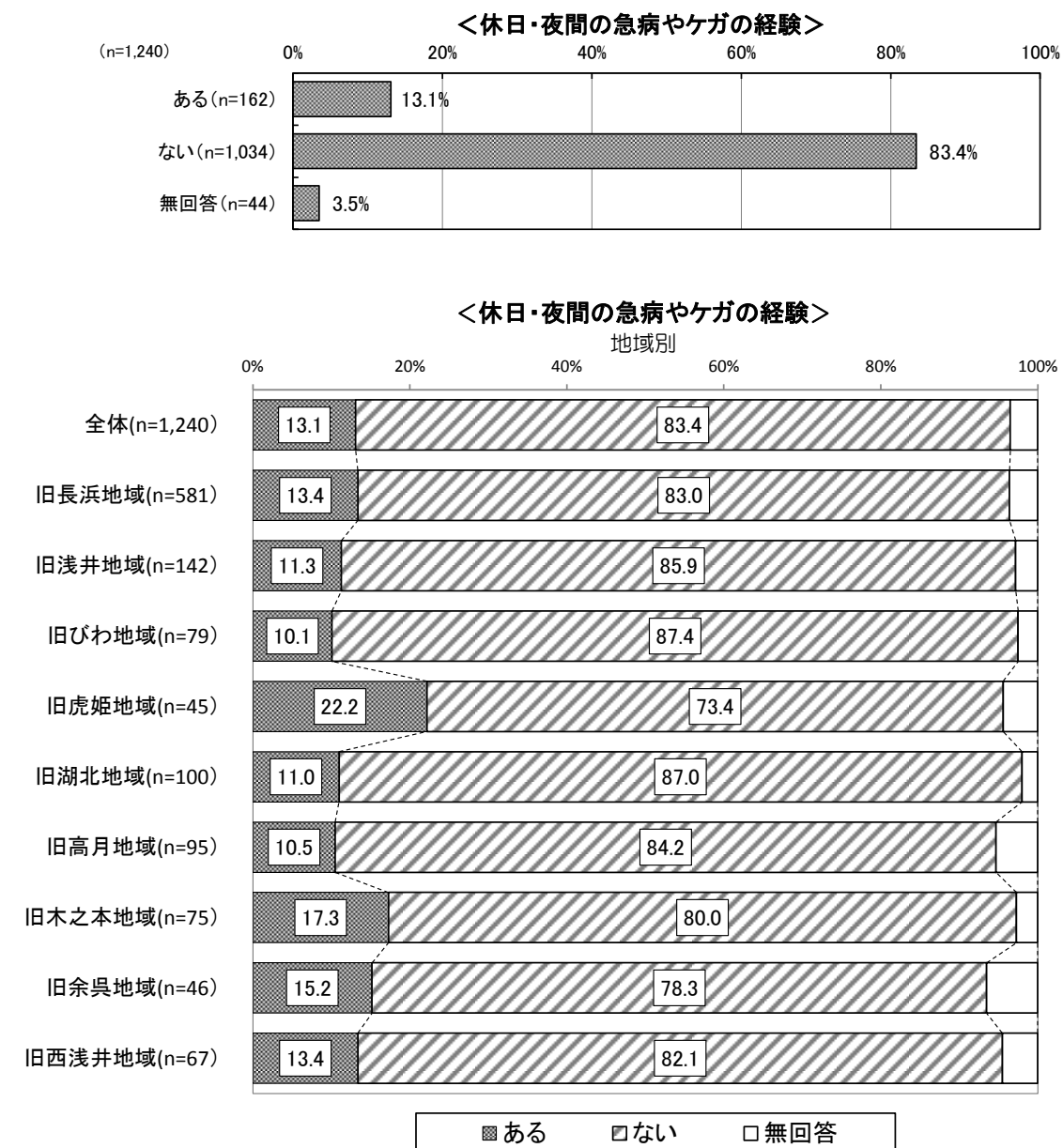
◆その他の記述回答 < 歯科かかりつけ医としている理由 >

- 30 数年間歯科医に診療していなくごく最近 1 本入れ歯を入れてもらった
- 会社に近いから
- かかりつけ医師よりの指示
- 家族の紹介
- 子供が定期的に通っているから
- 女性の歯科の先生は男性の（医長）歯科医よりも、良く診て下さり歯掃除して下さい、安心出来る方です。
- 親切でよくせつめいしてくれる
- 信頼しているから
- 先生が無駄な話をしない
- 治療の時痛くないから
- 友達の家が経営している歯科だから
- なかなか他にかわれない。1 からわかってもらうのに時間がかかりそうだし、めんどうだから。
- 母の知り合い
- 評判が良いから
- ムシ歯がない、なったことがない
- 友人だから
- よいとすすめられたから
- 予防歯科が充実しているため
- 開業以来、月、1 回定期的に診察を受けています。（辻・医院）
- 技術的に納得
- 歯科医として優秀だから
- 自分の勤務しているところだから
- 実家が近い。ブラッシング指導がすごい。小さいムシ歯まで発見してくれる。
- 上手であること。待ち時間が短いこと
- 職場だから
- 診察時間がながい
- 待ち時間がない。予約時間通りにみてくれる
- 予約時刻にすれない

（３）休日・夜間の急病やケガの経験（過去１年） 【問 51】

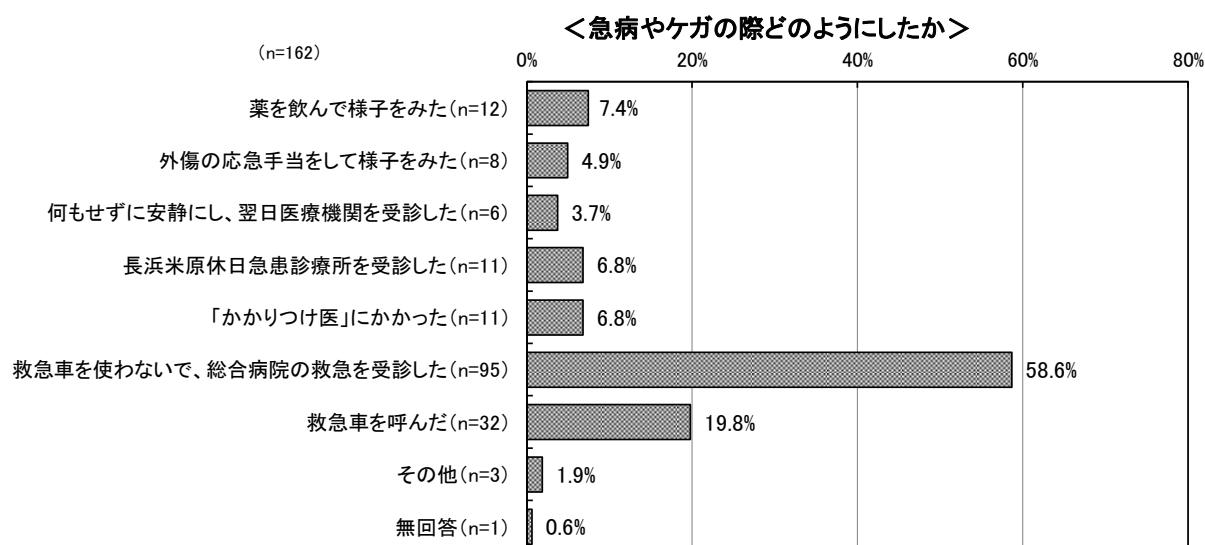
この１年間に休日や夜間の急病やケガの経験があるかについては、「ない」83.4%、「ある」13.1%となっています。

地域別でみると、「旧虎姫地域」で「ある」が22.2%と、全体より9.1ポイント高くなっています。



（3-1）急病やケガの際どのようにしたか 【問 51-1】

休日や夜間の急病やケガの経験がある人に、どのように対応したかたずねたところ、「救急車を使わないで、総合病院の救急を受診した」が58.6%で最も多く、次いで「救急車を呼んだ」19.8%となっています。



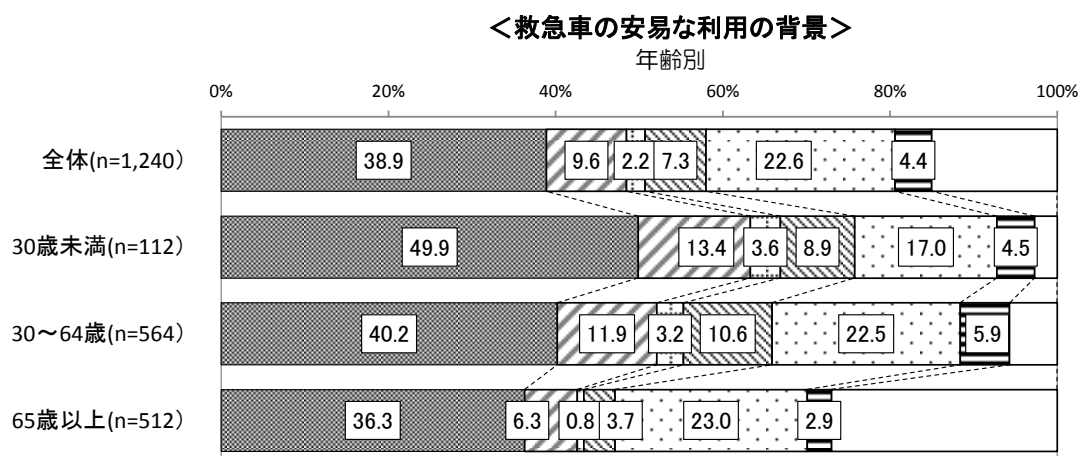
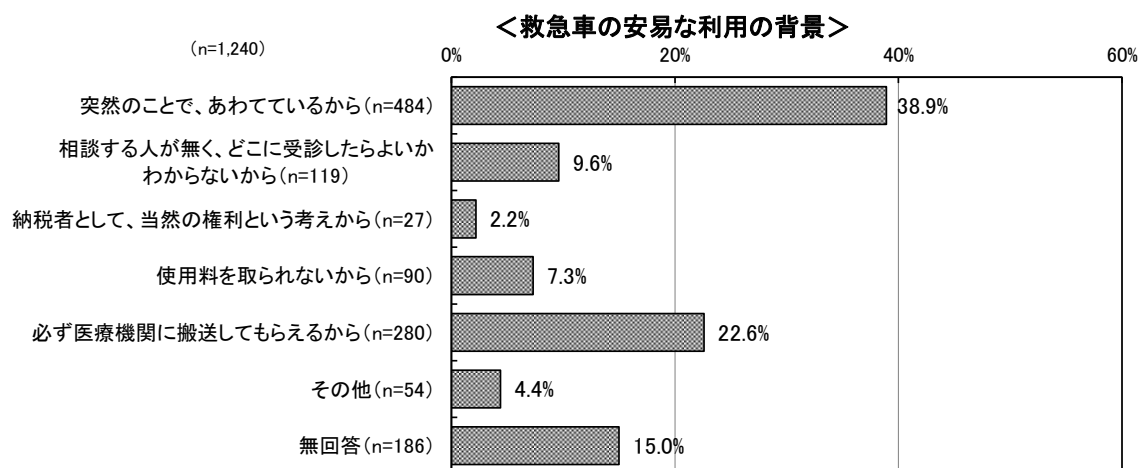
◆その他の記述回答 <急病やケガの再どのようにしたか>

- ・通院日まで、ガマンした
- ・別居息子に連れていてもらった
- ・夜間救急にかかった

（４）救急車の安易な利用の背景について 【問 52】

救急車を安易に利用してしまう背景について考えをたずねたところ、「突然のことで、あわてているから」が最も多く 38.9%、次いで「必ず医療機関に搬送してもらえるから」22.6%となっています。

年齢別でみると、「30 歳未満」では「突然のことで、あわてているから」への回答が 49.9%で全体より 11 ポイント高くなっています。



- 突然のことで、あわてているから
- ▨ 相談する人が無く、どこに受診したらよいかわからないから
- ▤ 納税者として、当然の権利という考えから
- ▦ 使用料を取られないから
- 必ず医療機関に搬送してもらえるから
- その他
- 無回答

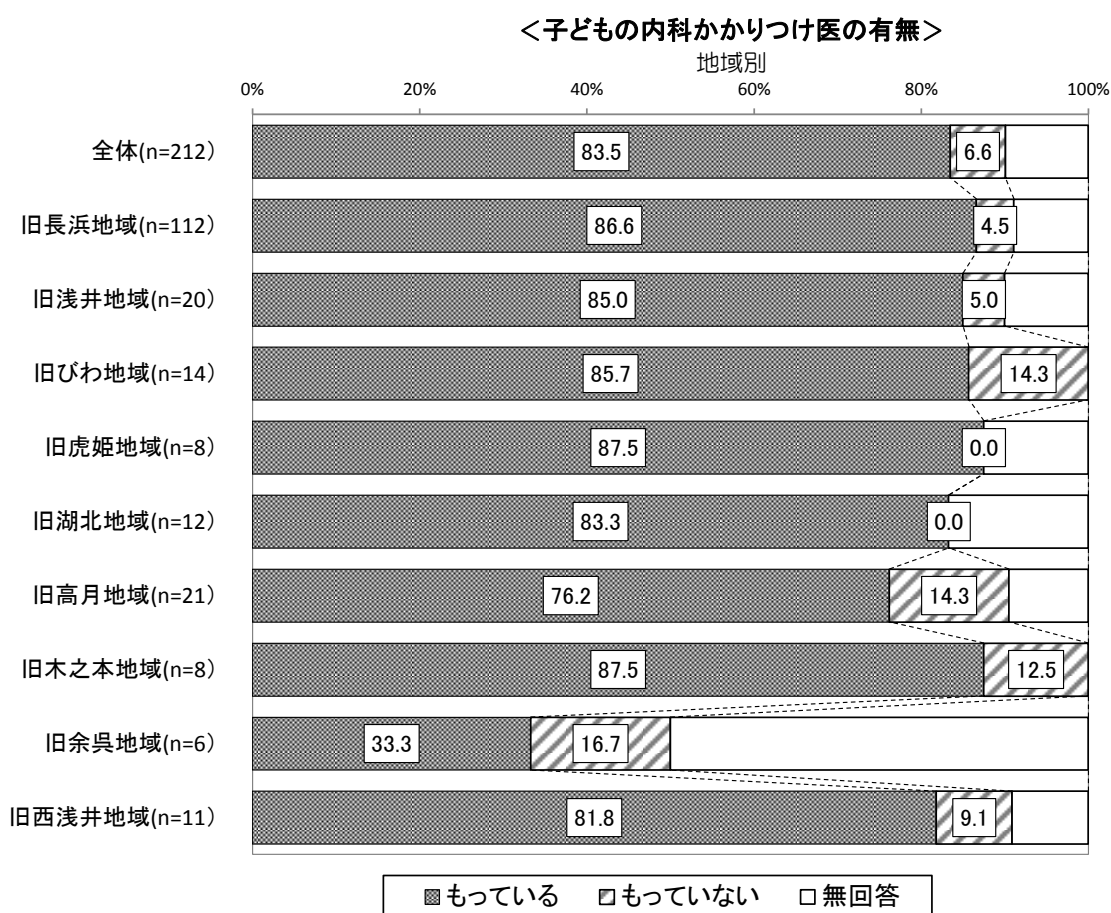
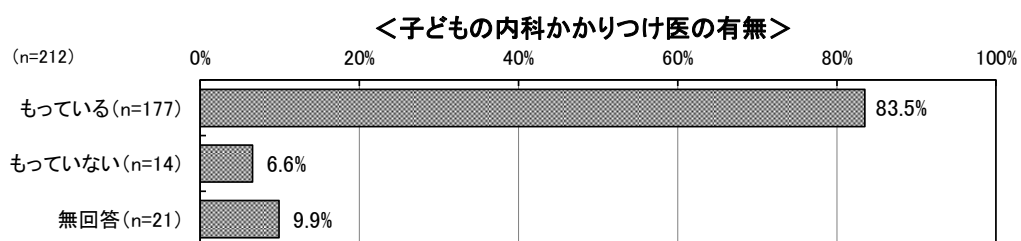
◆その他の記述回答 <救急車の安易な利用の背景>

- ・優先して看てもらえる、看てもらえると考えている（15）
- ・モラルの低下、わがまま等（8）
- ・車など移動手段がない（3）
- ・救急で走ってもらって、すぐに医療機関に着き、診察可能であるから。
- ・軽い病気でも来てくれるから、重い人にしか配車しないようには難しいかな？
- ・救急車が安心できる。手おくれになると恐い。
- ・救急車がなぜあるのか、かんがえてないから
- ・休日のため（日曜日）
- ・急病なら早く病院でみてもらった方が良く
- ・ぐずぐずしていると大病になると心配したから
- ・使用した事がないからわからない
- ・少々のことでがまんできなくなってるから。昔とちがって親やおじいさん、おばあさんが過保護すぎるから。少々のことでもすぐ呼んだりするのは。
- ・そういう風潮にってしまった。他いろいろ
- ・タクシー会社の TEL 番号をしらないから
- ・タクシーの代わりと、待ち時間無で診てもらえるから
- ・タクシー代わりぐらいに考えているんじゃないでしょうか
- ・病気したら救急車という教育を受けているからと思います
- ・病気に対して知識が少ないため、あわててしまい判断能力がないために安易に利用すると思う。
- ・地域での教育が必要、及び急病コールセンター等相談できるところがあればあわてない。
- ・普通でない状態。休日、時間外。
- ・身近に助けてくれる人がいないなど、隣近所のつながりが薄いなどが考えられる
- ・無知
- ・夜間、遠い地区の人で交通機関のない場合、他に方法がないと思う
- ・夜中のため
- ・夜おそいと診ていただく所がない
- ・わからない
- ・安易に利用する人の気持ちは理解できません。必要と思うから使うのではないのですか？
- ・安易に利用する人の気持はわからないが、個人で行けば2時以上待たされて、その間に重篤になる場合もあるので、病院側も考えて欲しい。ケースバイケースと思う。
- ・救急とはどのようなものをわかっていないから
- ・人により少しの病気ケガでもすぐに医師の診検を受けないと気がすまない人がいる
- ・利用したことがないから理由はわかりません
- ・老人の独居

(5) 子どもの内科かかりつけ医の有無 【問 53】

中学生以下の子どもがいる人に、小児科又は内科のかかりつけ医の有無をたずねたところ、「もっている」が83.5%、「もっていない」6.6%となっています。

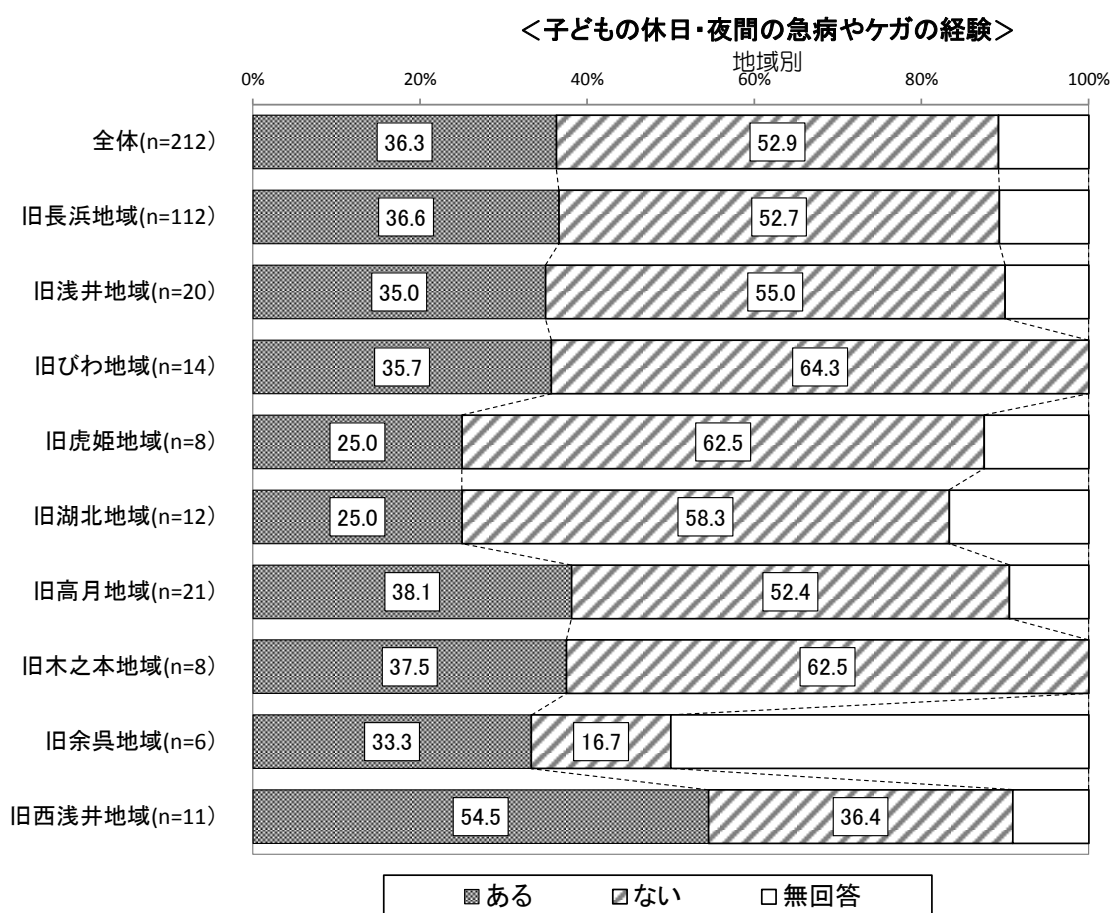
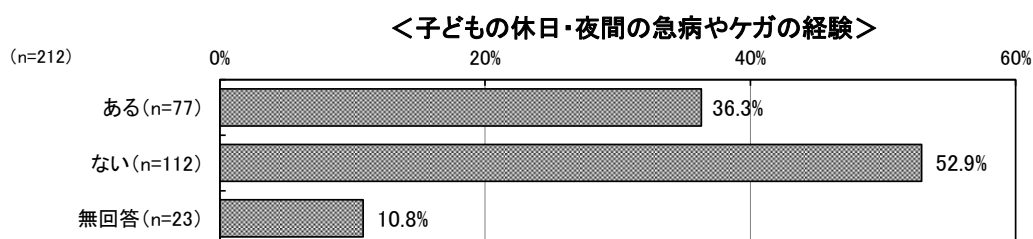
地域別でみると、「もっていない」への回答が全体より5ポイント以上高いのは、「旧余呉地域」「旧びわ地域」「旧高月地域」となっています。



（５-１）子どもの休日・夜間の急病やケガの経験（過去１年） 【問 53-1】

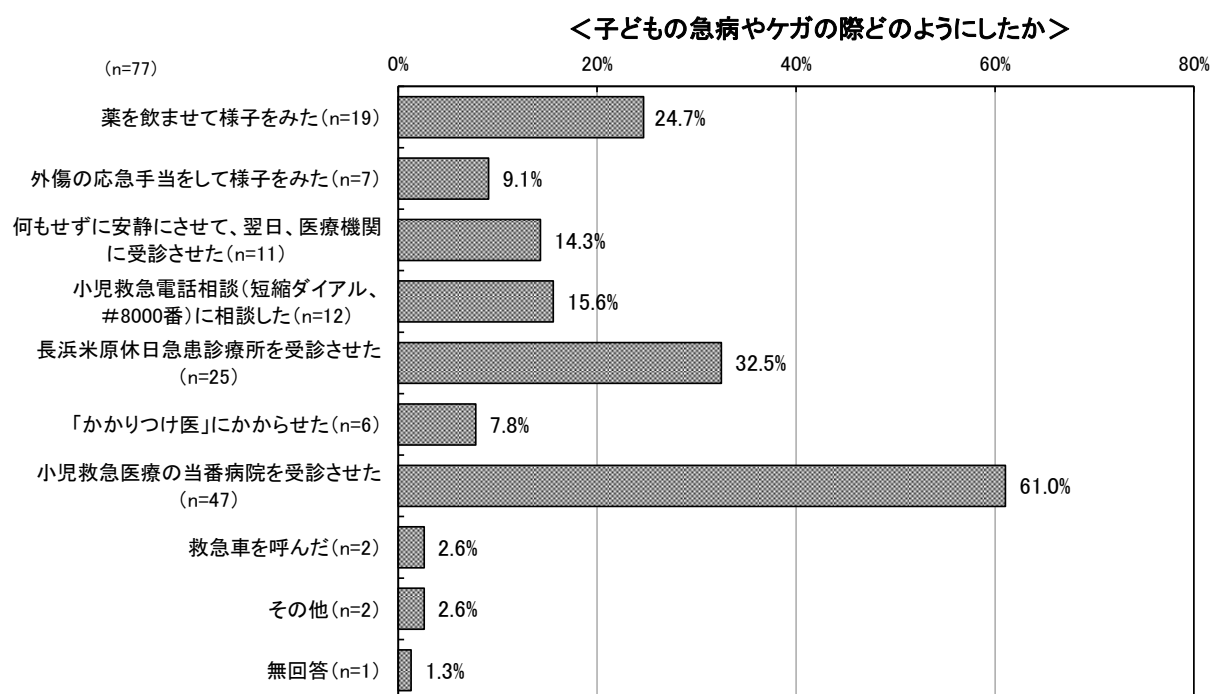
この１年間に休日や夜間、子どもの急病やケガの経験があるかについては、「ない」が52.9%、「ある」36.3%となっています。

地域別でみると、「ある」が全体より５ポイント以上高いのは「旧西浅井地域」で54.5%が経験があると回答しています。



（5-2）子どもの急病やケガの際どのようにしたか 【問 53-2】

休日や夜間、子どもの急病やケガの経験がある人に、どのように対応したかたずねたところ、「小児救急医療の当番病院を受診させた」が61.0%で最も多く、次いで「長浜米原休日急患診療所を受診させた」32.5%、「小児救急電話相談に相談した」15.6%、「何もせずに安静にさせて、翌日、医療機関を受診させた」14.3%の順となっています。

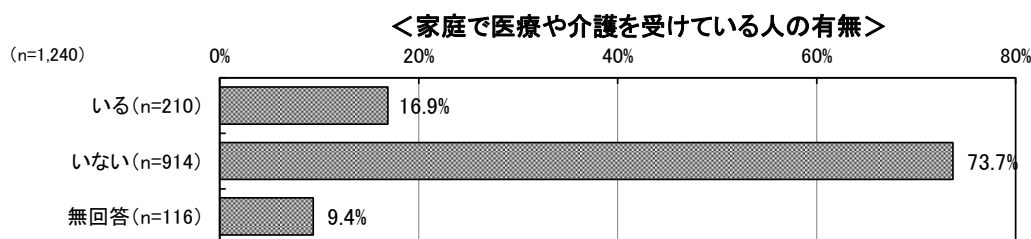


◆その他の記述回答 ＜子どもの急病やケガの際どのようにしたか＞

- ・ 病院に電話して、相談後、受診した。（#8000番が繋がらない時間だったため）
- ・ 仕事で家に居なかった

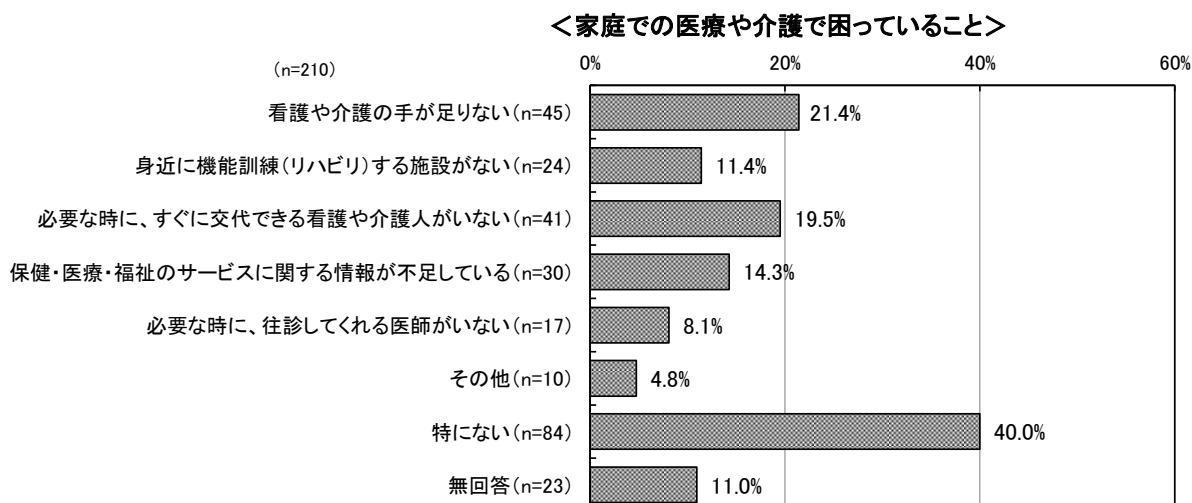
（６）家庭で医療や介護を受けている人の有無 【問 54】

自分の家庭で医療や介護を受けている人がいるかについては、「いない」が73.7%、「いる」16.9%となっています。



（６-１）家庭での医療や介護で困っていること 【問 54-1】

自分の家庭で医療や介護を受けている人がいるという人に、困っていることをたずねたところ、「特にない」が40.0%で最も多くなっています。次いで多いのは「看護や介護の手が足りない」21.4%、「必要な時に、すぐに交代できる看護や介護人がいない」19.5%、「保健・医療・福祉のサービスに関する情報が不足している」14.3%の順となっています。

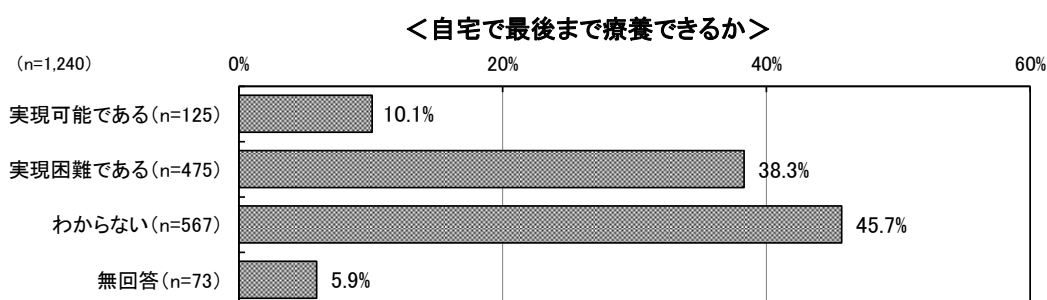


◆その他の記述回答 <家庭での医療や介護で困っていること>

- ・ 医院や病院へ送り迎えしてくれる人がいない（日中）
- ・ 医療器具を借りている
- ・ 介護保険が高すぎると母が愚痴っています
- ・ 高齢で病院に行く交通手段がなくて困る
- ・ ショートステイをできる施設がない
- ・ 自力で病院に行けない人への配慮がなさ過ぎる。乗り合いタクシーも、バス廃止にともなう安易な代替え策としか思われない。ただの会員制タクシーと同じ。
- ・ 訪問マッサージとかがない
- ・ 夜間が心配

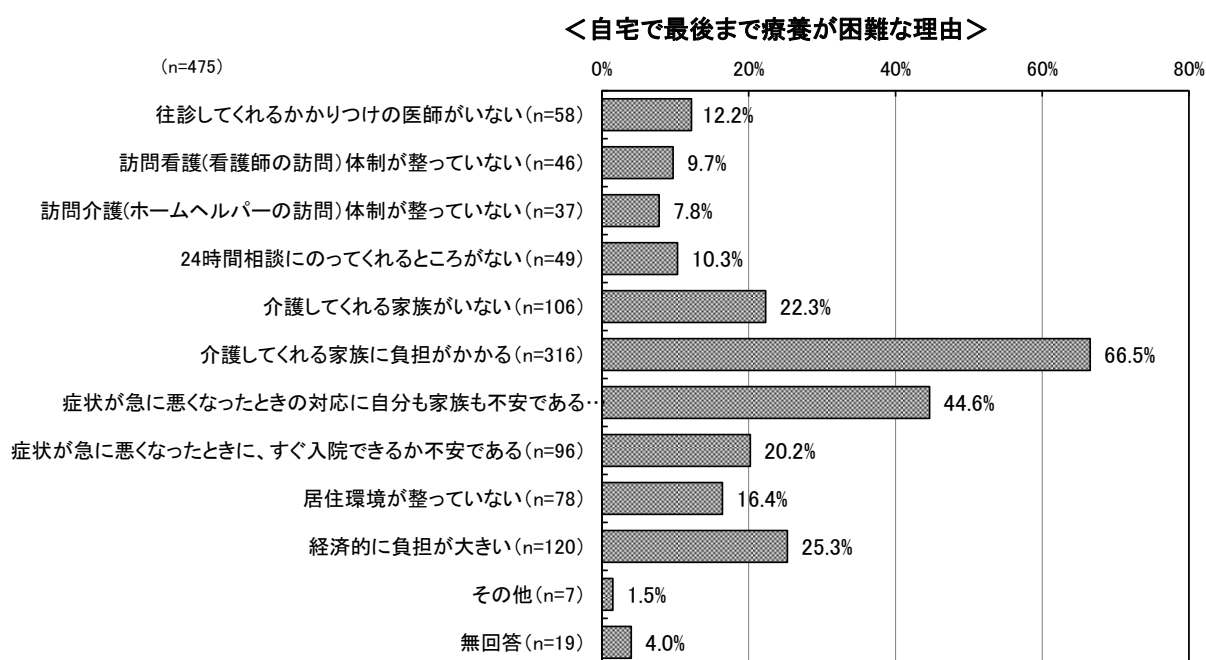
（７）自宅で最後まで療養できるか 【問 55】

自宅で最後まで療養できるかについては、「わからない」が 45.7%、「実現困難である」38.3%となっており、「実現可能である」は 10.1%にとどまっています。



（7-1）自宅で最後まで療養が困難な理由 【問 55-1】

自宅で最後まで療養が実現困難と考える人に、その理由をたずねたところ、「介護してくれる家族に負担がかかる」が 66.5%で最も多く、次いで「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」44.6%、「経済的に負担が大きい」25.3%、「介護してくれる家族がいない」22.3%、「症状が急に悪くなったときに、すぐ入院できるか不安である」の順となっています。

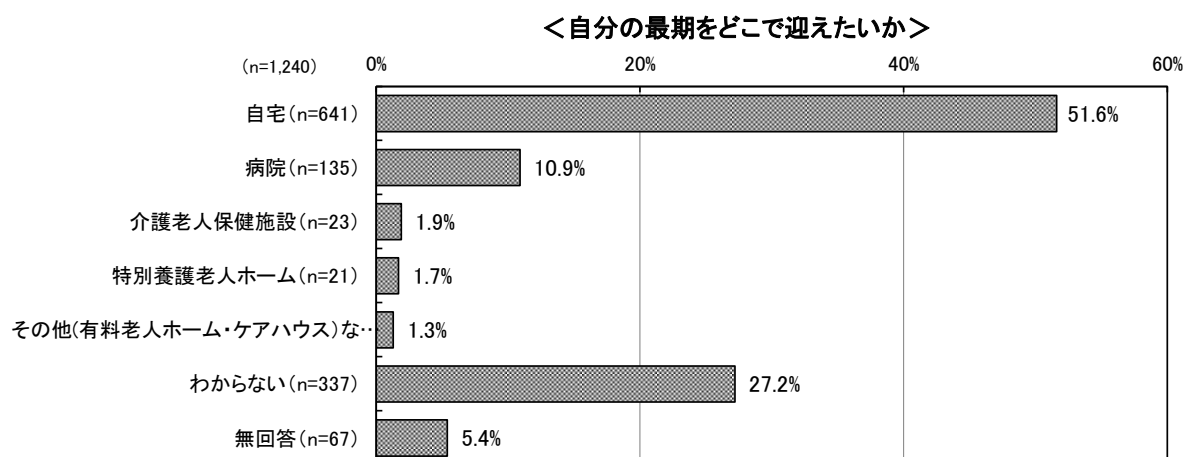


◆その他の記述回答 ＜自宅で最後まで療養が困難な理由＞

- ・仕事をしながらの療養は無理。（自分、家族）
- ・持病が複数あり自宅では無理だと思います。
- ・介護されないうちに各町村で体そうなどの指導に年に何度かきてもらいたいです。
- ・今は何もない。特に小さな村ですので。
- ・療養する人の症状によって１人でおいておけない場合 24H 目が離せないなど共倒れになった
- ・一人になった時に心細いので精神的に無理
- ・現在透析中の為
- ・田舎は無理
- ・夜間のホームヘルパーがいない

（８）自分の最期をどこで迎えたいか 【問 56】

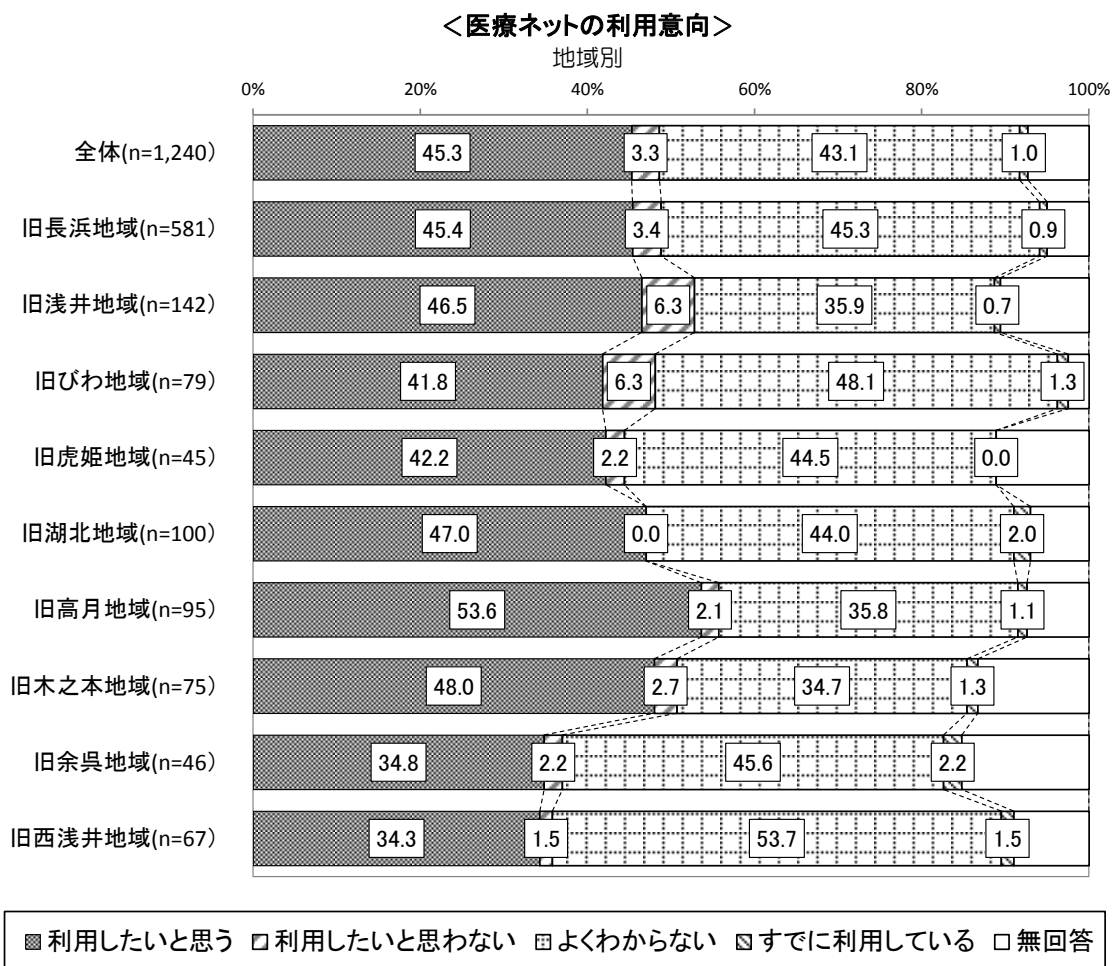
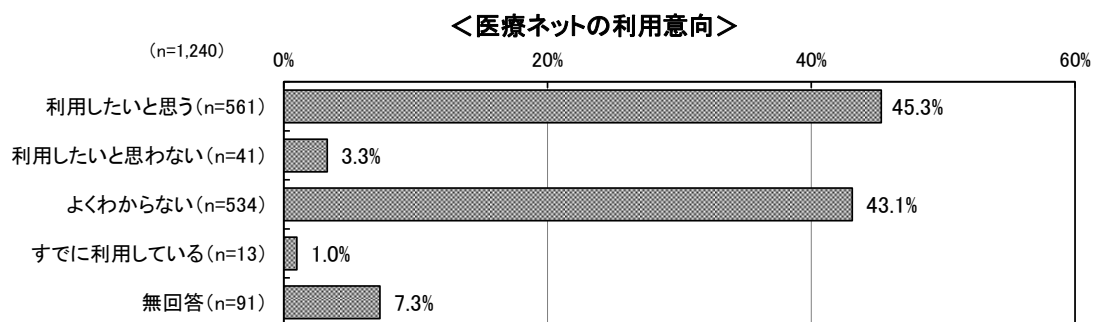
自分の人生の最期をどこで迎えたいかについては、「自宅」が 51.6%で最も多く、次いで「わからない」 27.2%、「病院」 10.9%となっています。



（９）医療ネットの利用意向 【問 57】

湖東・湖北医療ネットの利用意向については、「利用したいと思う」が 45.3%、「よくわからない」 43.1%、「利用したいと思わない」 3.3%となっています。

地域別でみると、「旧高月地域」では「利用したいと思う」が全体より 8.3 ポイント高く、逆に「旧余呉地域」「旧西浅井地域」では 10 ポイント以上低くなっています。

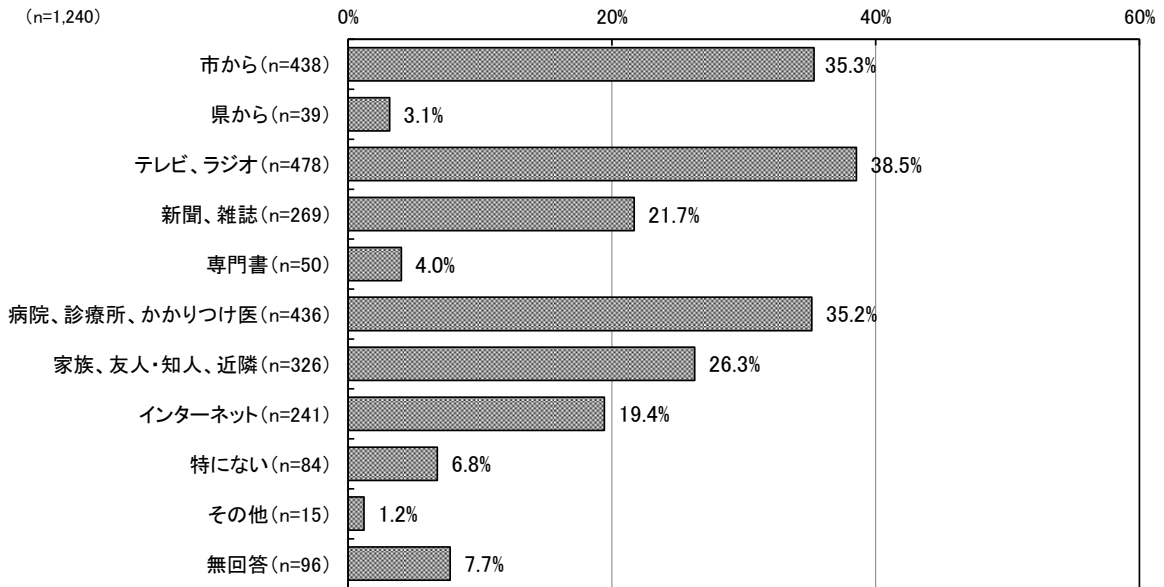


(10) 医療情報等の取得手段 【問 58】

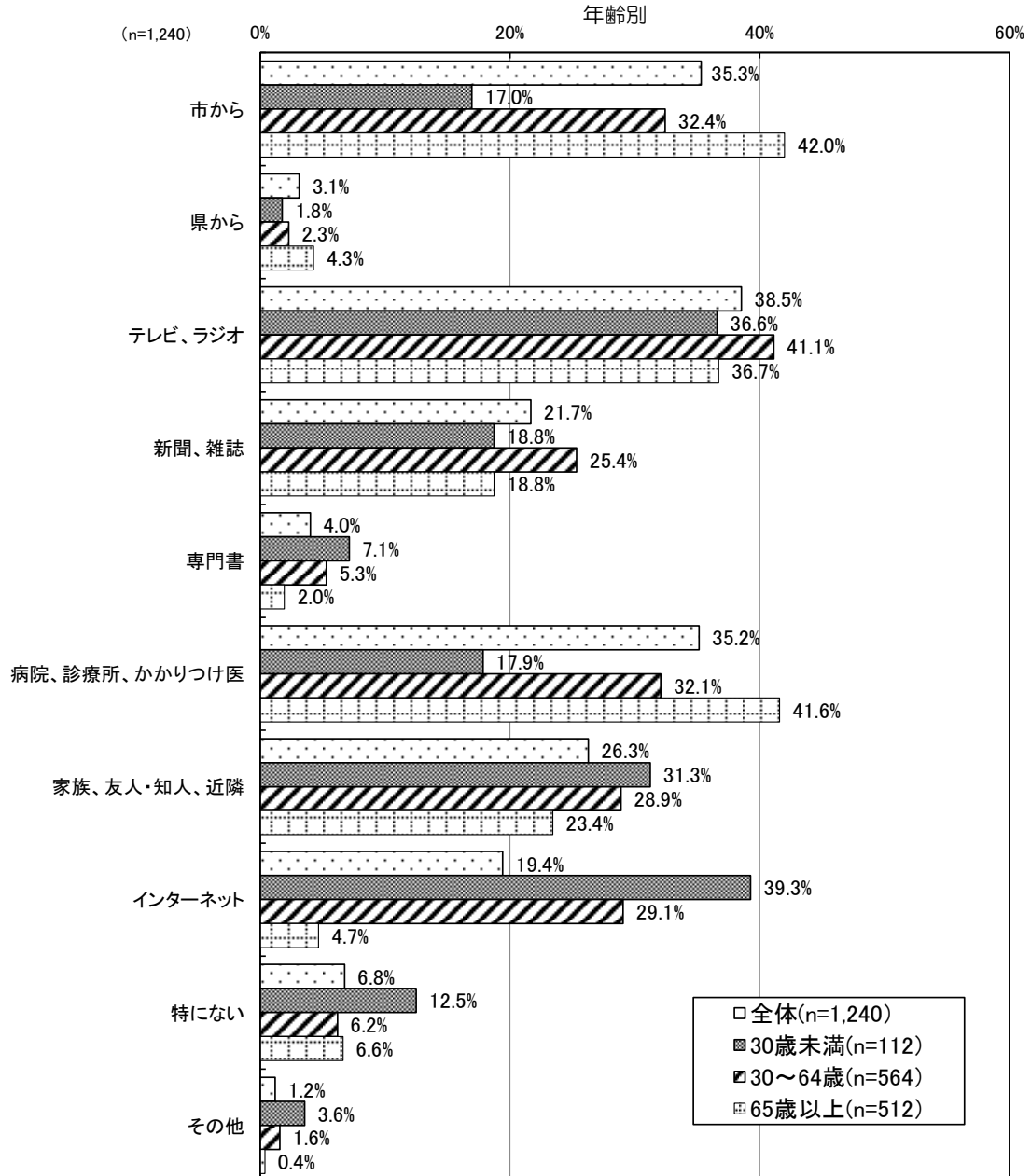
医療や病気に関する情報を主にどこから得るかについては、「テレビ、ラジオ」が38.5%で最も多く、「市から」35.3%、「病院、診療所、かかりつけ医」35.2%についても3割以上の回答がみられました。このほか「家族、友人・知人、近隣」26.3%、「新聞、雑誌」21.7%、「インターネット」19.4%への回答も比較的多くみられました。

年齢別でみると、「30歳未満」では「インターネット」への回答が最も多く39.3%となっています。また、「30～64歳」でも順位は4位ですが「インターネット」が29.1%で約3割を占めています。一方、「65歳以上」では、「市から」という回答が42.0%で最も多くなっています。

＜医療情報等の取得手段＞



＜医療情報等の取得手段＞



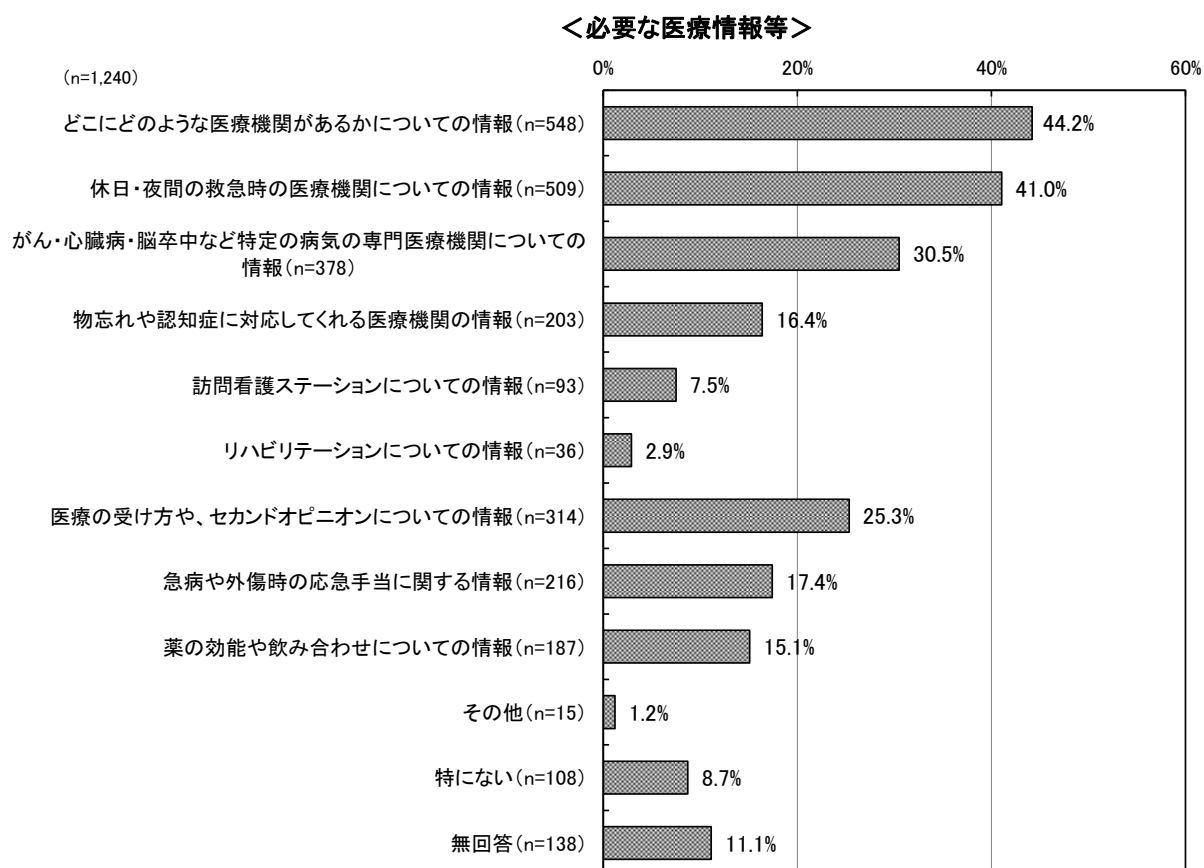
◆その他の記述回答 <医療情報等の取得手段>

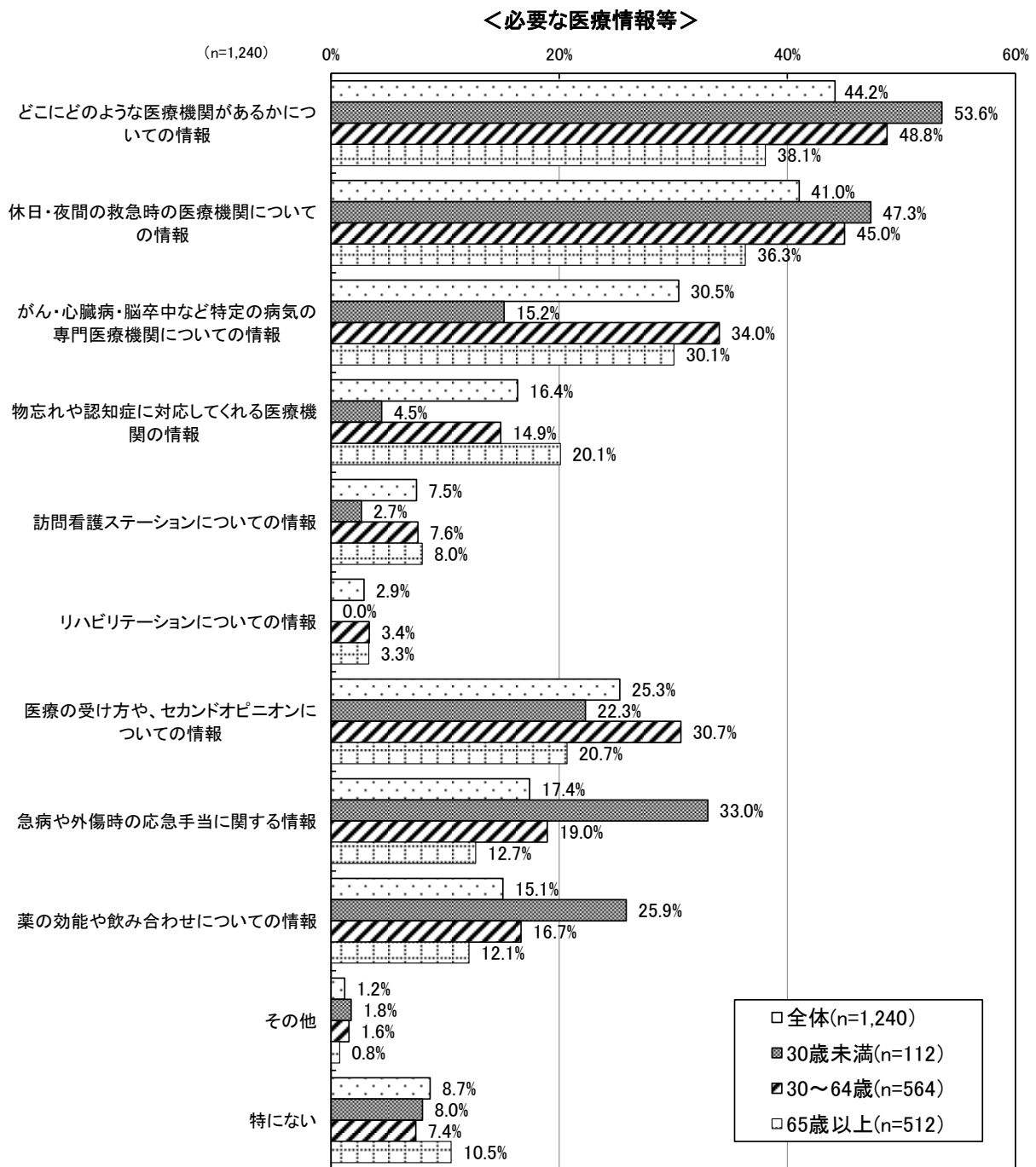
- 会社の健保のパンフレット
- 学校の講義
- 教科書
- セミナーで学習
- 専門学校授業
- 定期健診による
- 日常生活
- マンガ
- ミキ情報
- 医者の友達
- 仕事が医療関係
- 職場
- 職場（デイサービスセンターで介護の仕事をしているので）

（11）必要な医療情報等 【問 59】

医療や病気に関してどのような情報が必要かについては、「どこにどのような医療機関があるかについての情報」が 44.2%で最も多く、次いで「休日・夜間の救急時の医療機関についての情報」41.0%、「がん・心臓病・脳卒中など特定の病気の専門医療機関についての情報」30.5%、「医療の受け方や、セカンドオピニオンについての情報」25.3%の順となっています。

年齢別でみると、「30 歳未満」では、順位は3位ですが「急病や外傷時の応急手当に関する情報」への回答も 33.0%で比較的多くなっています。





◆その他の記述回答 <必要な医療情報等>

- ・どのくらい料金がかかるのか？病気によって、また個人で検診をうけるとどのくらいなのか。
- ・どの病気にはどんな治療があり長浜ではどの部分が選択できるのか？
- ・どのような病状は、どこに行けばよいのか
- ・何らかの症状が現われた場合にそれが何の病気である可能性があるわかる情報
- ・病気の予防の情報
- ・執刀医の成績
- ・医療機関・医師の質・評価など
- ・経済的な負担
- ・自分の持病の事
- ・痛みについての情報をさがしております。ペインクリニックに通院しておりますが痛みが取れません。
- ・必要になったらその内容について情報収集する

○医療を安定的に受けるために必要なこと 【問 60・自由記述】

① 病院施設の充実、人材確保、診療科目の充実

- ・医師不足の解消。・市民病院の人間ドッグでは、胃カメラが受けられない。
- ・医者の数が増えてほしい。・医者の数が少ないので外来してもすごく待ち時間が長い。・医者も 1 人で多くの仕事をしなければいけないので大変に思う。
- ・病院は医師が辞めたりして担当が代わったりしますが、継続的（地域に根ざす）医療をするには、医師の待遇等考えるべきではないか？・医院が総合病院の役割が出来るようにする。
- ・医師、医療機器の充実 地域格差の解消
- ・医師、看護師の確保
- ・医師、看護師の十分な確保。へき地医療の拡充。 長浜市北部の病院事業の拡充。
- ・湖北病院へ整形医の 2 名正職の確保。南北格差の解消。等々
- ・医師・看護師、その他の職員の、信頼性の確保
- ・医師の確保
- ・医師の確保が第一と思う。市民病院を利用しているが、脳外科、整形外科等の待ち時間は異常と思える。外来担当医の負担は想像を超える。
- ・自分の意思で体を動かさない人の外来受診は酷。往診対応の道をさぐるべきと思う。当日予約の数が少なく、待ち時間も長い為、本当に重症の場合、病院に見捨てられている感あり。”
- ・医師の確保が必要だと思います。
- ・医師の数が不足している現状を解消してほしい。そして専門医の数が相当不足している。
- ・医師の方はなるべく、その病院に永くいて欲しい。
- ・医師不足の解消
- ・医師不足の状況で長い時間診察を待つことが多いです。体調の悪い患者さんが長時間待たされる事に困っています。少しでも医師の数を増やして頂いてスムーズに受診で来る様に願っています。
- ・医師を増やしてほしい
- ・医大を卒業後は、医師の足りない所で 1～2 年働く制度を作る。たくさんの医大を卒業したたくさんの生徒をそうすれば医師のいない所がなくなるのではと思いますが
- ・一度救急で夜間に日赤病院に行った時、診て頂いた医師が大変つかれておられて自分も体調が悪くて行っているのに先生に気を遣ってしまいました。なるべく先生（医師）が増えて下さる事を望みます。
- ・医療機関（診療所）で受けられるよう 医師を頼む
- ・医療に携わる人（医師・看護師）の充実
- ・お医者さんや看護師さんの数を増やすこと。
- ・この地域では Dr も Ns も不足しているので早急にふやしてほしい
- ・湖北はわりと小児科医が多く充実していると聞きました。すぐに対応していただけるためにも全ての医師、看護師の確保をお願いしたい。（先生たちの負担を減らすためにも）
- ・湖北病院の医師の確保
- ・市民病院などの大きな医療機関には、どの科にも先生は常にいるべきだと思う。安心して受けられる一番の条件だと考えます。
- ・市民病院には、あらゆる年齢層の患者に対応できる診療科を備えていただきたい。産婦人科、小児科が減る傾向にあることを心配している。
- ・設備とスタッフを十分に配置して頂くこと

- ・専門の医者の確保をしていただけると安心すると思う（特に消化器の先生）
- ・総合病院（市病院・日赤）に各科の専門医師の充実・安定を熱望します。
- ・総合病院では、全科診察が受けられることを望みます。
- ・病院に開設していない科がある　すぐに診てもらえない科がある、2週間後しかダメといわれる　もっと医師を増やしてほしい
- ・病院を増やす
- ・もう少し専門の病院を増やしてほしいです。
- ・医師の数を増やす（レベルの高い医療を受けられるだけの技量を持った人材の育成を図る）。
- ・医師確保
- ・医師確保、医師の質の維持、地域（都会と田舎）{一定の水準}の差を少なくする
- ・医師不足で検査がしてもらえない　そういう事はない用にしてほしい
- ・人材の確保。（専門職を増やせるといい）
- ・設備、医師が不足して、できない様な事をなくす。
- ・総合診療科の設置
- ・地域の病院システム（総合医療）を十分確保{医師数・施設・予算}常にこの人口に必要な数を確保していく。　医師不足をきくが、どれだけの数がいり何人何科が不足がわからない。地域医療の全体像を提示しそれに向けてどうしていけばよいのかを示す必要あり。

②かかりつけ医を持つことなど

- ・「かかりつけ医」を持っていて、どんなことでも相談すること
- ・定期的な受診
- ・かかりつけ医をもつこと〃
- ・1人1人がかかりつけ医をもつこと。
- ・自分の体は自分で守る、自分の体を良く知っている、かかりつけの医院を持つ事。
- ・いつもかかっている病院へいく
- ・いつも見て頂いているお医者さん
- ・かかりつけ医に相談、指示を受ける
- ・かかりつけ医に普段からお願いしておく。
- ・かかりつけ医を決めています（内科）ここ13年ずっと定期的に足の悪い所（ひざ関節）に電気をあててもらい、定期的に検査もしてもらっています。自分の体のことをよく知っていてくださいますし安心です。大きい病院は待ち時間だけでつかれてしまいます。
- ・かかりつけ医をきめておく。
- ・医師との関係をよくしておく。
- ・かかりつけ医を持つこと（信頼できる）
- ・かかりつけの医に相談します
- ・かかりつけの医師に自分の身体を知ってもらう事
- ・かかりつけの医師のもとでの定期的な診断を受けること。必要に応じ相談をしていく
- ・かかりつけ医をみつける
- ・かかりつけ医を作る事。定期的に健診を受ける事。
- ・かかりつけ医を持ち、容易に総合病院を受診しない。健康管理に注意し、すぐに何でも病院受診という考えをやめる。看護師をしているが軽症でも総合病院を受診する人が多い
- ・かかりつけ医を持つ。

- かかりつけ医を必ず持つ事
- 現実問題、今不自由しているかというメタボではあります但し病院にかかっている事がないので大丈夫ですが、かかりつけの先生がいてくつださるのは大事かと思います。それとは別に昨年、主人が胃潰瘍で長浜病院へ入院したのですが、救急で診てもらい、次の日に病院へ行ったら当日の受付が5人までとかでことわられてしまい、別の病院へ行こうと主人にいいましたが、いったん長浜病院で診てもらったからと、その次の日に朝番で診察券を出し結局診てもらえましたが、即入院になりましたが、胃潰瘍で命に別条はなかったものの、あとで考えたら、おそろしいことで、そのような事態はどのように思われますか？
- 自分自身がかかりつけ医を持ちおかしいと思ったらすぐ相談する（私自身がそうしております納得いく検査等をして下さいます。）
- 主治医を持ち、何でも聞けること、相談できる事が必要でないでしょうか。
- 主治医を持つ（かかりつけ医をもつ）。専門分野のドクターを知る。
- 信頼できるかかりつけ医の確定
- やはりかかりつけの医師（親切ていねいやさしさのある医師・病院）だと思います。
- 地域のかかりつけ医を持つことの必要性を理解する。（総合病院との使い分け）自分が病気になった時（いざという時）どうしたいのかを家族とよく話し合っておく。
- 長い期間、同じ先生に診察してもらえることが大事だと思います。身体だけではなく、その人の生活環境や気持ちの面などからも汲みとってもらうことが必要になると思います。
- 普段から、かかりつけの医者を作っておくと良いと思う。

③医療費の軽減、経済負担軽減

- まず必需品をいつもバックにそろえておく。遠方や、高齢者のためには、交通費の割引をしてほしい。定期的に検診の必要な患者には、（長期の場合）割引券を発行してほしい。
- 高齢者の医療費無料
- 送迎環境を整える
- ガンなどもっともっとやすく治療が受けられるように”
- 医療費が高い。全く関係ないかも知れないがうちの課ではわからないと市役所の人の態度が悪い。
- 医療費なし
- 医療費の軽減
- 医療費ふたんの軽減！！ 薬代も高過ぎる。初診料っていないでしょ。
- 医療費を下げしてほしい。（医療費が高すぎて少し位の病気だったら我慢してしまう）
- 医療費をもうすこし安くしてほしい。
- がんの先進医療などは、保険きかないのですが治療が保険きくようになるとか治療が少しでも安くなって多くの人々が受けられる体制にしてほしい
- 現在、内科、眼科、皮膚科にお世話になっており、とにかくお金がかかることが不安です。（月に何万とかかる）病院に行く為に仕事をしている様なものです。
- 後期高齢者保険料（223,764 円）・介護保険料（91,440 円）共に高額料金を支払っている。自分の体が健康である事を喜ばねばならないが、医療費の支出は0等しい。もう少し何とか健康維持のため本人に還元できないか考えて欲しい。例えばガン健診・結核検診等の実施等（無料）がしてもらえないか。
- 高齢者は無料にて対応できるようにしてあげて下さい

- ・自己負担額の減（負担割合を一定額以下の所得者は1割以下にする。
- ・自己負担額の軽減
- ・収入に応じて税金を徴収する。（国税）。診療費、薬代、看護、入院費はすべて無料とする。住所地以外で医療を受ける場合（旅行先）でも無料とする。Qが多すぎてイヤになった。
- ・収入の割に、保険料等、高額の為、医者に行く機会が少なくなる。保険料（掛け金）を安くして欲しい。収入の無い固定資産も高い為、金銭的に余裕が無いのが実情。
- ・ゼイタクな商品や消費にゼイタク税を導入し、格差を縮め、医療費は全額、国の税金でまかなう。
- ・退職（65才）して、収入がなくなっても、健康保険3割負担は大きすぎる。医者にもかかれない。
- ・低所得で夫が亡くなり、市の援助も受けていなくて、保険税も高く医療費が高くて、持病の検査も薬代も高いので、そういう人達に少しでも安くしてもらえる様にしてほしい。
- ・病院に行きたくてもお金がかかるので行けない。病院の初診料3000円は高いと思うので、もう少し安くしてほしい。子供は無料ですが、働き盛りの中年の方も考えてほしい。
- ・前みたいに病院で薬を購入できるようにしてほしい。”
- ・保険料をおさえる
- ・安い費用で診てもらう
- ・医療費がもう少し安ければ、安心して受診できる反面、安いから大した病気でもないのに受診する人が増えそう。高くても信用できるDrがいれば安心かも…。
- ・医療費を安くする。
- ・医療費を下げる
- ・医療費を高くしないでほしい。初診料をなくしてほしい。
- ・検診等もっと受診したいと思うのですが金銭的に高いものでなかなか行けません。

④日頃からの健康づくり、自己管理

- ・ほっといても、すぐ治るようなケガや症状ぐらいで、すぐ病院には行かない。病気にならない様、1人1人が、健康管理をしっかりする。無料もしくは、低料金で運動できる場（ジム等）があれば良いと思う。
- ・薬に過度に頼らない。自己治癒力、免疫の活性化
- ・健康になれる体力作り（皆で参加できるラジオ体操など）
- ・心・体を強くしていく、誰とでも話し、笑顔で充分な一日を過ごす事。食事にも気をつかい、無理しない腹八分目で、くよくよしない事。月一回定健を受診する事。
- ・子宮ガン検診は2年に1回は受けるようにしている。早くみつけれられるから。
- ・自己管理
- ・自分の健康状態を、日頃からしっかりと把握しておく事
- ・生活リズムをみなおしてだめなところをなおすところからしたいです。
- ・日常の生活習慣を気をつけて、健康な体をつくる心がけが必要だと思う。そうすることによって、医療の混み具合は、解消され、安心して受診できそう。
- ・年1回の検診は必ず受けています。胃・腸の検診は特にとはいっていません。おかしいなと感じれば医療機関に受診したいです。
- ・不要な薬を飲まない。
- ・毎日、無理な仕事をせずマイペースで日々を送る事、若い者に迷惑をかけない様に心がけ。

- まず、ふだんから自分や家族の健康を大切に考え、その上で、必要な時に適切な受診ができるよう考えておく。自分自身のリスク管理。
- まず本人が「意識」しない限り、どんな手厚い待遇や地域のシステムも水泡に帰してしまっているような気がします。”当事者”になって初めてあたふたして”不満”を安易に口にするケースが多い。もう少し自己責任に元凶を転化してもいいのではないのでしょうか？
- まず日頃の健康管理が重要でなるべく医療を受ける機会を少なくする努力が必要。次に居住近くの医療施設にかかりつけを設けることが重要である。
- むやみに医療に頼ったり薬を多用することのない生活や考え方を進めていくが肝要と考えます。
- やたらに病院にかからない
- 定期検査を続けること。糖尿病です。
- 日常の自分の体調管理に気をつける。
- 年一回以上検査。医療病院の電話表を作る。ながはま広報をよむ
- 半年か一年間の間に検診に行く事。
- 普段から情報を得るようにする。病気になってから、ではなく 病気でなくても。

⑤医師・看護師等の対応・資質の向上等

- 医者がもっと話しながら安心する様な診察（手術ばかりと薬ばかりではだめ）。医者が患者にふれ顔をながめて安心させる。
- 安心して信頼できる開業医さんがいる事
- いかなる場合でもすぐにたいしょしてもらえるような、ていねいに診さつしたあと説明したり、いろんな事してくれる
- 医師や看護師さんは病人にとっては心のささえ、やさしく接して下さい
- 医師を人としての付き合いや会話ができることが安心につながる
- いつでも心のこもった医院があれば良いと思います。
- 親ががんの手術を受け入院中、親が認知症のため異常行動をおこし迷惑をかけたが、認知症に無知な看護師が多く、腹の立つことが多かったのでよく教育してほしい。（長浜病院） がん等難病で、長浜近辺の病院では、お手上げの場合、遠くてもよいので、よい病院、すぐれた医師を紹介してほしい。
- かかりつけ医の質の向上に医療行政も力を入れることが望まれる。患者の不安、心配に対して、最新の研究結果に基づいた説明、判断を自信を持ってしていただきたい。患者の信頼を得られる開業医、医療人としての自覚と責任感の厚い、常に患者サイドに立って診察してもらえる意思の養成・地域医療作成の確立に力を入れることが重要と考える。
- 患者の身になって真剣に考えて下さる方が、大勢いて欲しいです。（事務的じゃなく）
- 患者は知らない事が多いので、なるべくわかりやすく、そして出来れば笑顔で接していただきたいです。“これ位分かんのか” 的では、やはり質問する事が、ためられます。お忙しいドクター迄にはむづかしいでしょうが、それもやはり、安心感の一つです。願わくばどんな人でも同じ様な治療がしていただけたらうれしいです。
- 自分で手に余るのに自分の我を張って理に合わない言い訳をしながら医療行為をする医師が多分におられる点を見直して頂きたい 医療ミスを認めない医師がおられることは事実です 私自身が2回体験したから申し上げておきます
- 総合病院医師のモラルのなさ（自分の知識見識から自己啓発していない）(ex)整形なら数人の医師がいるのに相談することすらできない。日赤の坂本にアキレタ（訴訟も考えたことがあります）

ました)

- どちらの病院でもいいのですが、お話できて相談しやすい先生がほしいと思う！むずかしい顔をした先生がまだまだ多いから。
- 日赤病院はいいけど、市民病院の救急は受付から医師全てのスタッフにやる気の無さを感じられる。何年間も。
- 病院等くわしくたずねたら説明してほしい。待ち時間長いためくわしい話がきけない。
- 安心できる医者がほしい。
- 医師、看護師等の患者が安心できるような対応
- 医師の技術の向上と、市民病院のはじめ、開業医共々医業より算術で患者の事等考えていないようだ 医者もピン・キリでヤブが多い。
- 質の良い Dr を !!
- 日赤病院に勤めておられた方に人の病気を人に話しその近くの人が聞き人の病気をおもしろがってわらう人がいました。(看護婦さんの自覚づけを徹底してほしいです) 看護婦さんにこのような人がおられるの情けないです。

⑥待ち時間の短縮、スムーズな診療等

- 待ち時間の改善・人間ドッグの充実
- 2ヶ月に一度の診断をしてもらい、薬を出してもらっていますが、予約しても、30分～1時間は、待たなければなりません。勤労者には、なやみです。
- 医者へ行っても待ち時間が長いので、なんとか解消できないか？(電話予約制 or ネットでの予約など)
- 今はどこに行ってもすごく時間がかかります。早く医療が受けられるようにお願いしたいです。待つ時間の間につかれてしまいます。
- 大きな病院や有名な病院ほど混んでいて待ち時間が長いのが苦になる。全ての医院が完全に予約制になり(初診でも急診でも)電話やインターネットで受け付けられ待ち時間が短くなればもっと利用したい。
- 最近病院受診しようとしてもいっばいで予約も出来ず、地域のお医者さんへ行くように言われたり、拒否を何回となくされて、診てもらえないことがある。せめて受診できる体制を！
- 診察予約時間より遅れ、待ち時間が長すぎる為体調がすぐれない時大変つらい。
- 時々病院に行くのですが予約を入れてあっても、2時間以上は、待たされる時があります。体が悪くて行くのですから、早く出来るだけ診察してほしいです。
- 病院や医院で予約制であっても、待ち時間が長く体力が劣り年と共に新札までに疲れてしまいます。それから又会計や処方箋などで時間がかかります。お医者さんが多いと助かります。
- 待ち時間の少ない予約制度
- 待ち時間は長いのに診察は短いとか、駐車場が狭いとかは、改善してもらいたいです。それには、患者側も安易に病院や救急を、利用しないように、気を付けるべきです。
- 待っている時間
- 医療がすぐに受けられるようにする。
- 待ち時間が長い。
- 待ち時間を短くする
- 当日の予約が取れない
- 例えば、長浜赤十字病院などに初診でかかりたい。しかも、今日中に診てもらいたいという場

合、当日の予約は特に高齢の方などはとてとりにくいと思う。(何度も電話をくり返したりなどしなくてはならないので) 病院のシステム上仕方がないと言われたこともあるが、もう少し受診しやすくなれば良いと思う。

⑦情報提供、広報の充実

- 病院での初診が受診しやすいように、広報とかで知らせて欲しい。
- 職場の検診がどこの病院でも、全ての部門で受けられるようにして欲しい。
- 医療機関マップの配布や、クチコミなどを記載し、情報を広める。
- 医療専門のパンフレットなどを市や県から出してほしい
- 広報を見ない人にも、もっと広く医療の情報を伝える。
- 公民館や町民館で、医師の方や医療関係の方の講演や相談教室
- 市の健診もっと場所等日時が判かりやすくしてほしい。
- 市の広報等で、専門のお医者さんのお話等を、読んでいます。自分がもしその病気になったら、この生成がいいな~と思う事があります。先生方のお話や情報を、広報等で知らせて欲しいです。出来るだけ近くの病院を、利用したいです。
- 情報公開のスピード
- パンフやホームペ、広報紙をちゃんと見る機会がありませんので、外出先でも見れるようにメールマガジンとして送って下さると助かります。送られてくると必ず見るので。他のは自発的に見るコトがありませんので。
- 民間放送または、新聞やリラシでよく知ってもらうようにする。
- 行政が冊子にして、家庭へ配布する。
- 高令化が進みインターネットなど普及しても高令にはついていけない。使えない人などをどう対処していけばいいのかなあ、と思います。
- 市によるサービスで年令によって毎月一回半年に一回個々に知らせる。
- 定期的に広報に出して下されば良いと思う
- 病院等からのチラシによる各家庭への情報提供

⑧病院へのアクセス、近くに医療機関があること

- 家に近い診療所
- 交通の便利なこと。長浜市交通権威は悪いと思います。自家用車が無いと不便。老人や1人暮らしにとっては問題が多いと思います。
- 近くにあるとよい
- 近くに総合の医療機関が必要
- 近くに定期バスにのれる様お願いしたいです。
- 近くに病院があること
- 近くに病院がなく、通院が困難であり車での移動手段がなくなれば通院不可能になります。長浜市と合併してからは行政サービス(通院手段がとざされた事)が悪くなっていくようで、不安に感じています。びわ支所より長浜方面はバス運行あり。不公平を感じています。高見町や湖北町の運行バスのようにしてほしいです。

- ・一人暮らしで自転車にもものれない障害者なので、バスで長浜まで行けると良いと思います。(回数が多いから)
- ・もっとバス等を増やして、みんなが交通費を掛けない様に、医療を受けられたら良いと思う。
- ・近くに医療機関があること
- ・近くの診療所や病院をなくせないようにしてほしいです。

⑨その他

- ・かかりつけ医と総合病院との十分な連携が取れていること。
- ・地域の病院、それぞれが結びつけを強める
- ・私達がではなく、病院、医療機関同志が連携しあってほしい。
- ・救急診療の体制を充実してほしい 眼科がなく困ったことがある
- ・救急体制の強化。病院の医師不足の解消→診療報酬の引き上げ→開業医の診療報酬の引き下げ。
- ・急病の時かかりつけ医師があっても訪問して頂けないので年を取ると不安です 夜間や休日の場合は心配です 急病の場合個人の病院でも時間外特別診していただけると安心ですが今は無理ですね 今は元気ですが2人とも80近いと不安です 自立の努力はしていますが
- ・先日急な腹痛で友人が救急車で総合病院に運ばれました。ですが実際は専門医が居ないという理由で処置いただけなかったと聞きました。救急に不安を感じた。長浜は病院が多く、住みやすい町であると言われたこともあるのに。
- ・長浜市在の大病院の24時間応急手当の専門性のUPをより大事にしてほしい。24時間専門医に診てもらえるように願っています。
- ・私は今のところ内科的な疾患で入院した事はありませんが今後、歳と共にお世話にならなければ、ならないと思いますが近場の湖北病院で急患の受け入れ体制の充実を希望します。
- ・症状によってどの科で受診すればよいか相談できる窓口(受付)がほしい。
- ・診療所に相談して月1回往診受診
- ・正確な診療、治療方法についての情報等、病院に限らずたしかであれば、インターネットや支援相談員でもよいので、身近で、得たい時にすぐ相談でき情報が手に入るようになれば良い。そして、できればそこから病院にアクセスでき、診察等予約できるとうれしい。
- ・近くの病院でも24時間・電話相談できればいいと思う
- ・悪くなった時、電話で、相談できる専門(医療機関の情報など)の窓口があるといい
- ・相談できる窓口が必要
- ・往診の充実
- ・患者から病院に出向くより、連絡出来たら、医療機関から、(かかりつけ医)出向いてもらえる体制が必要と思う。昔はそうでした、町医者がいて地域ネットワークがあった。
- ・公的、私的の訪問診療の充実
- ・高齢となった私は足も悪く今後受診に支障をきたす事受け合いです 往診医療の充実を願います。
- ・市の生活病検診の充実をお願いします。(診断項目の増(心電図、眼底、血液検査の項目の増等)
- ・市、県、国による無料の健診の機会を増やし、早めの対応が必要。
- ・「安心して医療を受けられる」と言う事は、あまりにも複雑で無理と思う。家庭でと思うと介護者の負担になるし、施設でとなると、介護施設の不足もあり、介護者の力不足・認識不足技術不足等もあるし、経済的な事等がか絡み合い、不安をいつも思います。(娘や息子の家族)の負担を考えると、出さればひっそりと、死んでいきたいとおもいます。(そうなる様、祈っています)

- ・救急車をむやみに使用しないこと。相談相手を持つこと。
- ・紹介状がなくても、行きたい所へ行ければ良いと思う。検査が終れば又本へ戻らなくてもそこで治療が出来れば良い。
- ・三ヶ月が過ぎれば又、外に変らなくてもよいようにしてほしい。”
- ・かかりつけ医をもつこと。どこからでも医療機関に行ける交通網を整えること。訪問医療を充実させること
- ・PCではなく携帯電話でもわかる受診待ち時間や、夜間の担当DR名（診療科名）の一覧があると良い。介護施設の申し込みが、一ヶ所で出来るといいなあ。
- ・アンケートも必要でしょうが高齢者に対する態度がどうかと思います。年に1回敬老の日に民生委員が覗かれるだけです。又、長浜市が合併後、福祉が疎そかにしています。先日88才になった方に尋ねたら祝に手拭を1枚、ごてごて書いてるのをもらったそうです。あまり失礼ではありませんか。御一考を御願います。
- ・今はどこでもインターネットを使ってカルテを作成しておられるから、本人の同意があれば、先生が自由に見て頂き、検査の手間をはぶけたら、早く治療にかかっていただけではないでしょうか？
- ・医療機関により、治療費が異なっている様に思います。公平・公正な治療費になる様、検討して下さい。
- ・医療の情報の共有を行う。無料での診察。
- ・インターネットや電話などで医療機関とつながることができるようにする。訪問看護ステーションをもっと増やす。医療機関を定年退職した人で地域に1か所相談窓口を作る。
- ・お陰様で今のところまあまあ元気で動いていますが年令が多くなって来て、医療に関していろいろ知っておく様心掛けたいと考えます。
- ・開業医で診てもらって、そこで駄目ならその先生に紹介状を書いてもらおうと思う。今は元気なのであまり深くは考えていない。
- ・かかりつけ医となる個人医院の質の向上と病院との連携
- ・各自自治体で一か所医療制度充実機関を備え担当者を置く
- ・体の具合が急病出た時早めに安定した所に受診出来るようにしてほしいと思う。
- ・患者のことを親身になって考えてくれる医師の養成（DATAだけに頼らず） 総合内科医者の養成、増員
- ・基本的に病気などかかっていないので、どんなのがあったらいいのか想像できない。
- ・強力なリーダーシップのある病院の医師が、管理者、院長になれるようにすること。現状では有能なスタッフがだんだんと少なくなってきている。疲弊状態がつづいている。責任がとれる人がトップになるべきである。
- ・くも膜下をして、市民病院脳外科に通院しておりますから、外の病気になった時も市民病院に診て頂くほうが良いと思います。
- ・健康であればそれでいい
- ・健康保険証もしくは特別なカードか何かでICチップに人々の病気、血液型、等のデータを入れこんで何処に運搬されても、そのデータでその人の病気が事前にわかり、安心して医療が受けられるのではないのでしょうか
- ・健康保険の滞納に気をつける。
- ・現状で不満はない
- ・検診だけでなく予防医学や、健康増進の情報を学習できることに力をそそぐ必要があると思います。
- ・国民皆保険が重要
- ・個人情報を地域の医療機関が共有するネットワークと受診体制を確立する。

- 個人の自由なので、家族、友人及び情報によって判断します。
- 骨密度を測ってくれる所。各町のホケンセンターで行ってほしい。(最近測ったことがないです)
- 医者に行く程でないとき、たづねる所があるとうれしいです。
- 何か相談できる所。やはり各町のホケンセンターでしてほしいですね。”
- 子供の受診料無料化を 中学校までにひきあげてもらおうとか、仕事を休まなくてもいいように外来を 17:00 以降もしてもらえるようにするとか
- コンビニ受診をしないこと
- 昨年主人が2年7ヵ月病院で2ヵ所、施設1ヵ所に入所して亡くなりましたが、できれば近くの1ヵ所で入院出来たらいいのにと思いました。
- システムと必要性を市民が広く知ることが大切と考えます。
- 市民病院及日赤等、基本的な病院の円滑な対応と設備の充実と優秀な医師の確保
- 週1回日曜日も診察できるようにしてもらえたら
- 常識ある、医療の受け方ができる文化ができる様啓蒙しつつける事が重要と考えます。
- 市長長浜病院で長年お世話になっています ありがとうございます
- 市長長浜病院で門前払いをくらった。困ったもんだ。もっと医療の充実につとめてほしい。
- 診療所が続いて存続する様に
- 診療所の拡充
- 診療を色々な場所で受けた時の薬が不具合の場合があり、時に考えることがある。
- ストレス社会の勤務状況の中、労働条件等職場の環境を働く側の法整備の充実が必要。会社にも負担にならない労働環境必需。
- 積極的に医療に関する情報を取る。 ” かかりつけ医” の重要性。
- 設問が細かすぎるので判断や想定がし難い
- 選挙に行く(医療・福祉関係に力を入れている方への投票)
- 総合病院と個人の医院の支払い金額が違いすぎる。あまりにも個人の医院が高いので、行きたくないです。
- 総合病院の充実。個人病院でも、すぐに解答が出せる設備の充実。
- 総合病院の充実。土、日でも診察可に
- 総合病院の充実。予約もなかなかとれない。先生は早く帰ることばかり考えている。先生が開業されてない(なくなってしまう)科がある。都会ではないのでこの先も無理かもしれません。
- 総合病院の待ち時間が長いと症状が悪化し、不満がつくる。医者によって見立てがずいぶん違う。一人一人が病気にならない様、健康に気をつけて生活する事が大切で、長患いせずに命を全うできるようにしたい。
- それは望むべきことであるがコストが無制限にかかっては意義が薄れる。結局はコストパフォーマンスを考えざるを得ない。
- 近くにある湖北病院を充実してもらいたい。環境抜群・駐車スペース十分、もったいないと思います。
- 近くの病院の医師。施設、設備の充実。
- 貯金
- 貯金
- 治療中心ではなく、科学的根拠に基づいた予防中心の社会を目指すことと、正しい情報を安定して得られる仕組みづくり。
- 通常の病気には薬はジェネリック品を
- 常に新しい情報を入手しておく
- 常に患者に生きる期待と自信を感じさせるような治療をお願いしたい。

- ・常に情報を得るためには高齢になっても家に閉じこもらないで近所づきあいなどをする
 - ・問57を前にテレビで見て、とても良い事だと思ったので、それがきちんと出来れば、患者にとっても良い事だと思います。救急での患者を外傷と感染とで、待合の場所を分けてほしいです。
 - ・問い合わせのアンケートは年齢から見て複雑すぎて理解できない所がある それより病院（日赤や市民病院）が時間的に簡単に受診出来るように考えて欲しい
 - ・土日、祝日に診療機関を開ける。これにより定期健診などは相当の受診率UPになる。
 - ・土日営業の医院を増やす
 - ・土日祝に受診出来るようになる事
 - ・長浜市に合併してから、医療のみならず南部優性の事ばかりなので、北部もしっかりしてほしいです。
 - ・長浜市民病院と長浜赤十字病院の合併。急性期病院は2つも必要ない。一つは療養型でいい。
 - ・長浜には病院があり十分であるが、その病院での診療案内（どこにかかれば良いか）を充実させ、さらに医師は病院で治療していくか、開業医を紹介するか、本人の納得いく説明の上、治療していく事。そのために湖北にもっと専門医増える様、努力してほしい。その為に医療職の給料アップと、住環境を整える事も大切。高度医療はそんなに必要でないが、長浜には医療設備はまあまあ揃っていると思うし、長浜日赤にも救急部門が年末には、充実すると聞いている。
 - ・なるようにしかならない。
 - ・何とか安心して日を送り、救急の時にすぐ手当の受けられる様にしたい。
 - ・日赤も開業医も近いので安心してます。なほ子本人は知的と精神のしょうがい者です。母がかわりに書きました。よろしくお願いします。
 - ・病院には、もっと雇用を増やして、色んなことに対する専門医を24時間おいておく。
 - ・病院の待ち時間をへらす。高齢化社会をなんとかする。
 - ・病院も遠く誰にもお金もなく、尋ねる人もいません。つらい思いでいます。
 - ・病気についてよくなる話悪くなる話をいつも教えていただけること
 - ・病気やけがの状態によって、受けられる病院を把握して、新しい情報を知るようにしている。
 - ・訪問看護サービスが受けられるように医療機関を整備してほしい
 - ・ホームドクターとそれに対する公助
 - ・保険証を忘れてきても、診察を受ける事ができる。
 - ・身近にかかりつけ医があっても相談でき、場合によってはより専門的な医療機関を紹介してもらえるような仕組みが整っていると安心するかもしれない。
 - ・昔あった様な老人の不必要な診療をなくす。現在行われている病院と医院の住み分けで、診てもらうべき人が、診てもらうべき所で診療が受けられる制度の維持。
 - ・息子と2人暮らしなので、いろんな事が気になります。
 - ・もっと福祉を充実する。町全体がしっかりとサポートする。
 - ・夜でも休日でも診てもらえるのでよくなっていると思う
 - ・老人ホームを増やす、福祉士を増やす様にぜひ早くしていただきたいと思います。
 - ・老人らしく今後の生活の中でいろいろな情報を取り入れて充実した日々を送りたいと思います。
- す。 ・感謝の念を忘れずに
- ・私は他県より長浜市に転居して年数も浅く、個人医療機関は全くわかりません。従って最初診察（紹介状）した病院以外はほとんど受診して居りませんので、現在も将来も今受診を受けている病院以外は考えておりません。
 - ・私はパート勤務をしているが、ここ2～3年血液検査をうける機会もなく、心配になる時がある。広報等から情報を得て、生活習慣病検診などをうけたいと思うが、実際医療機関に問い合わせないと分からない所もあり、あとまわしになってしまう。若い主婦でも健診がうけられる

ように、子宮癌健診のクーポンみたいに、毎年クーポンを配布してほしい。それをクリニックなどにもっていけば 1000 円でうけられるなど、スムーズにできたらうれしい。クーポンも今年受けていないと翌年は配布しないなんてことしないで、有効期間はあってもいいので対象者全員に毎年必ず配布してほしい。

- 私は目下癌のため、3ヶ月の入院治療（市立長浜病院・京都桂病院）の後自宅治療の段階ですので質問の答えはその事を踏まえてお読み下さい。保険で一割の支払い、民間保険にも入って居りますので費用は0円です。有りがたく思っております。
- 安定的に医療を受ける基本を見直す必要を感じている。年令的、家族的、社会的にも、健康な生活が必要とされ、未然防止、完全に心体的回復が得られるには、絶対必要であるが、胃ろう等機械的に生かされる医療行為が、真に必要な人の権利を医療（費用、人員他全てに）対し阻害要因になっている。自己判断も不可能な患者を、責任回避から機械的に生かす現況が、必要悪である。完治する為の医療が基本で有り、完治のない者への対応は、治癒可能な人までも阻害していることへ改めるべきと考える（医療従事者の苦勞：膨大な費用の増加抑制に、負担する側からも未来に向け改めるべきと考える。）
- 以前は日曜休日当番医院が近くにあり、遠く行かずに受診できましたが、現在は大病院迄行かなければなりません。救急車を依頼する程のものかどうか解らない時等…老人だけの家族の場合は夜又休日は本当に不安です。
- 医師、看護師などの育成。特に総合病院の各科の医師。
- 医者にかからないようにする。薬代をもっと安くする。
- 医者の教育の平準化。病院によるサービスの一定化。セカンドオピニオンの強化。
- 医療、介護、看護の予算（ハード、ソフト両面の施設や人的充実を図ること）納税者に還元する予算の確保
- 医療に関していつも安心していただける事が必要と思う。
- 医療費の滞納がなくなるようなシステムが必要。オランダのような税金システムになればよいと考える。
- 往診していただけるかかりつけの医師が必要だと考えます。
- 家庭（家族がいても）があっても仕事でいないことが多く一人の時に具合が悪くなった時に解りやすく自分でできる方法(病院で見てもらえる方法)
- 開業医でなく病院での診察をを希望します
- 患者情報を医療側が共有して、どの医院、病院へ行っても継続して、同じ治療方針を取ることができれば、一箇所に集中することがなく医院、病院の負担を散らすことができるので、一人に対して密度の濃い治療が受けられるのではないのでしょうか。 医療機関までの交通機関の充実。
- 旧市、町の保健所の部落への訪問。指導相談事を年3回聞く事
- 近くで、いたみ、えらさ、やわらせてもらえる。検査、検査はいややと思う 足がないと不安(車)
- 九二才九ヶ月高令です。家族は長男、嫁と同居しておりますので急病外傷時お世話になります。
- 現在、甲状腺ガン、大腸がん検診、心りょう内科で受診中であり、今後の終活をどうすればいいか心配です。
- 湖北病院の診療内容、ドクターを充実させてほしい。長浜市民病院、日赤は距離が遠いので、やはり大変。とくに冬。北の地方のことをもうすこし考えてほしい。
- 高齢者の負担をもっと増やすべきだと思います。終末期医療を廃止すべきだと思います。
- 今後の若い人達の健康が心配です。老人にも治療等も必用ですがこれからの小供達の健康に関する事をもっと手厚く若い人達の医療をもっと考えてやってほしいです。
- 子供の医療費を無料にする。いつでも送迎してくれる（無料で）所があればいい。

- 市の健診をもっと充実。血液検査だけではわからない。脳や身体の MR や CT も受けてい！！
- 市民病院の医師の質を上げてもらい、医師人数を増員してもらい、待ち時間の短縮を実現してもらいたいです。今、一番信用できる病院は、県内では、成人病センター、滋賀医大という事は、誰もが言います。川島信也市長の頃は、こんな事なかったはず。彦根、大津はもちろん、県外からも長浜病院に来ている人も居た。その頃のように改革して欲しい。
- 市立病院の充実（常勤医師の確保、専門医の充実）市立病院は非常勤医が多すぎる
- 自宅に近い診療所等で定期的に検診を受け数値が悪ければ大きな総合病院を紹介してもらう。
- 少しでも不調を感じたらすぐ医者に行く（かかりつけ医）
- 常に社会とのかかわりを持つように心がける。☆私は病院勤務者なのでこのアンケートは記入できましたが、一般向けではないなと思います。本音（こんなめんどくさいアンケートは回答率が低いと～思う。）
- 情報の共有化
- 診療所を閉鎖しないでほしいです。
- 昔のように、かかりつけ医が在宅診療してくれると安心です。
- 総合病院は、日祭日でも平日と同じように、受診できるとよい（学生や勤労者のため）
- 総合病院は設備が充実している。安心して受診できるが一日仕事である。近かくの個人医院は、時間がかからないが設備不十分。紹介状で総合病院で受診することになり、結果的には待ち時間多く、一日仕事となる。患者を平均化出来ないものか？無理かも？
- 大きな病院が長い時間開いていること。土日祝にも開いていること
- 長浜市は充実していると思います
- 日曜日にも対応してほしい。仕事を休まずにしたいから
- 病院での待ち時間の解消。新規外来の受付規制解除。医師の増員。
- 病院の昼休み（12:00～16:00 ごろ）に、＃8000 番がつなるがるようにしてほしい。
- 夜間、休日診療のできる開業医を増やすべき。総合病院の救急へは重症者の受け入れは当然であるが、軽症患者のコンビニ受診は止めるようにもっと行政からアピールすべきだと思う。病院勤務医の疲へいはとても大きい。回答の封筒には両面テープくらい貼る配慮が当然だと思う。アンケートに協力してもらうなら。
- 老人の医療費を削減。セカンドオピニオンの言い出しやすい環境。
- 老人はまず足も？とか大切です。電話した時はさがしてきて下さい。両耳まんせいちゅじえんです。78 才九年生れです。男性。近くに協力してもらえる電話番号がしりたい。私は耳が 5 才のときからわるいです。自動車を運転することはできません。

付. 調査票

「健康ながはま21」アンケートの協力について(お願い)

皆さまには、日ごろから市政に対し格別のご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

このたび、長浜市では、「健康で輝ける長浜」の実現をめざし、「健康ながはま21」の改訂に取り組んでいます。今回の改訂では、平成24年度の国県の健康増進計画の改定をうけて長浜市の「健康ながはま21」(第3期)計画を改訂するものです。

このアンケートは、長浜市にお住まいの方々の健康や食事、医療に対するご意見をお聞かせいただき、「健康ながはま21」の改訂にあたっての貴重な資料とさせていただきます。

アンケートにあたりましては、16歳以上の市民から無作為に対象者を選ばせていただきました。

また、本アンケートを「健康ながはま21」の改訂以外に使用することはありませんので、アンケートの趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成25年9月

長浜市長 藤井 勇治

《アンケートにあたってのお願い》

■ご記入にあたって

- 1 このアンケートにお名前を記入する必要はありません。
- 2 ご記入は原則としてご本人にお願いします。ご本人が記入できない場合は、ご家族の方が代筆いただくなど、ご本人の意思を尊重して代わってご回答ください。
- 3 お答えはあてはまる番号を○で囲んでください。「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
なお、答えたくない質問に対しては無理にお答えいただかなくても結構です。
- 4 質問によっては、回答数やお答えいただく方が限られているものがありますので、断り書きにご注意ください。
- 5 このアンケートは、平成25年9月1日現在の状況でお答えください。

■アンケートの返送について

ご記入いただいたアンケートは、平成25年10月16日(水)までに同封の返信用封筒(切手不要)にてお送りください。

■お問い合わせについて

長浜市役所 健康推進課

電話:65-7779

FAX:65-1711

メール:kenkou@city.nagahama.lg.jp



「健康ながはま２１」アンケート		
１ あなたの家族や生活状況、人との交流についておたずねします		
問１ 性別 １．男性 ２．女性		
問２ お住まいの地域 １．旧長浜地域 ２．旧浅井地域 ３．旧びわ地域 ４．旧虎姫地域 ５．旧湖北地域 ６．旧高月地域 ７．旧木之本地域 ８．旧余呉地域 ９．旧西浅井地域		
問３ 年齢（ ）歳		
問４ 職業 １．高校生 ２．大学生（専門学校・短大・大学院含む） ３．勤務者（夜勤あり） ４．勤務者（夜勤なし） ５．自営業 ６．主婦 ７．無職		
問５ 身長・体重 身長（ ）cm 体重（ ）kg		
問６ 現在、ご家族と同居していますか。 １．一人暮らしである ２．家族と同居している 問６－１ 問６で「２．家族と同居している」とお答えの方にお聞きます。同居されている家族をすべて選んでください。また、同居家族の人数（自分を含む）を記入してください。 １．配偶者(夫妻) ２．父親(義父) ３．母親(義母) ４．祖父(義祖父) ５．祖母(義祖母) ６．子ども ７．子どもの配偶者 ８．孫 ９．孫の配偶者 １０．兄弟姉妹 １１．その他（ ） 自分を含む（ ）人		
問７ 子どもを持つ保護者の方にお聞きます。どのような学齢(学年)のお子さまがいらっしゃいますか。(複数回答可) １．３歳未満 ２．３歳以上小学校入学前 ３．小学生 ４．中学生 ５．中学生までの子どもはいない		
問８ あなたと地域のつながりは強い方だと思いますか。 １．そう思う ２．どちらかと言えばそう思う ３．どちらとも言えない ４．どちらかと言えばそう思わない ５．そう思わない		

2 食事についておたずねします

問9 あなたは食事を楽しみだと感じますか。

1. はい 2. いいえ

問10 あなたは朝ごはんを食べますか。

1. 毎日食べる 2. だいたい食べる 3. 時々食べる 4. 食べない

問10-1 問10で「1. 2. 3.」を選ばれた方はどのような朝ごはんが多いですか。

1. ごはんだけ 2. パンだけ
3. ごはんと汁物 4. パンと汁物(牛乳を含む)
5. ごはんと汁物とおかず 6. パンと汁物(牛乳を含む)とおかず
7. ごはんとおかず 8. パンとおかず
9. その他()

問11 食事バランスガイドを見たことがありますか。

1. ある 2. ない

問11-1 食事バランスガイドを参考にしてメニューを考えたり選んだりしていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. ほぼ毎食参考になっている 2. 毎日1食は参考になっている
3. 時々参考になっている 4. ほとんど参考にしない



問12 塩分の取り過ぎに気をつけていますか。

1. はい 2. いいえ

問13 出来上がったおかずや漬け物に調味料をかけますか。

1. はい 2. いいえ

問14 あなたの家庭では、旬の食材を取り入れるようにしていますか。

1. はい 2. いいえ

問15 次の郷土食ア～ウについて、知っているもの、作ることができるもの、後世に伝えたいものを選んでください。あてはまるものすべてに○をしてください。(複数回答可)

- ア. えび豆 イ. 子鮎(いさざ)のあめだき ウ. 鯖そうめん
1. 知っているもの (ア ・ イ ・ ウ)
2. 作ることができるもの (ア ・ イ ・ ウ)
3. 後世に伝えたいもの (ア ・ イ ・ ウ)

問16 あなたの家庭では、地元で生産した農産物を優先的に買うようにしていますか。

1. はい 2. いいえ

問17 環境こだわり農産物認証マークを知っていますか。

1. 見たことがない。 2. 見たことはあるが、意味は知らない。
3. 見たことがあり、意味も知っている。



問18 あなたはこの1年間に市場や直売所で開催されているイベントに参加したことがありますか？

1. はい 2. いいえ

問19 今よりやせたいと思いますか。

1. はい 2. いいえ

3 運動についておたずねします

問20 徒歩10分で行けるところへ出かけるとしたら、主にどのような方法で行くことが多いですか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 徒歩 2. 自転車 3. 自動車やバイク(バスやタクシーを含む)

問21 日ごろ、自分の健康づくりのために意識的に体を動かすなどの運動を実行していますか。あてはまるものを1つ選んでください。(学校の授業等で行っているものは除きます。)

1. 継続して実行している
2. 時々している
3. 以前はしていたが現在はしていない
4. まったくしていない

問22 運動についておたずねします。あなたは次の活動を行っておられますか。行っている活動全てに○をしてください。(複数回答可)

- | | | |
|----------------|---------------|------------|
| 1. ウォーキング | 2. 体操(家で中・軽度) | 3. 太極拳 |
| 4. ランニング | 5. ダンス | 6. 水泳 |
| 7. ボウリング | 8. グラウンドゴルフ | 9. 卓球 |
| 10. バレー・ビーチバレー | 11. 野球・ソフトボール | 12. 部活動 |
| 13. その他() | | 14. 行っていない |

問22-1 問22で「1 4 以外」を選ばれた方にお尋ねします。あなたは、運動を週何時間程度行っておられますか。(複数の運動を行っている方は、合わせた時間をご記入ください。

週()時間 1時間未満の場合は、30分=0.5時間に換算してお答えください。

4 喫煙についておたずねします

問23 たばこを吸いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 毎日吸う
2. 時々吸う
3. 以前は吸っていたが今は吸わない
4. 吸わない

問23-1 問23で「1. 2」を選択した方におたずねします。喫煙に対する気持ちや行動にあてはまるもの1つ選んでください。

1. 子どもや妊婦には吸わせたくないの、子どもや妊婦の前では吸わないようにしている
2. 子どもや妊婦には吸わせたくないが、特に何もしていない
3. 子どもや妊婦のことは気にしていない

問23-2 問23で「3. 4」を選択した方におたずねします。今後どのようにしたいと思っていますか。最もあてはまるものを一つ選んでください。

1. 今後も吸いたくない
2. 特に考えていない

問24 たばこを吸うことの害について知っているものすべてに○をしてください。

1. 動脈硬化を起こしやすい
2. 心筋梗塞を起こしやすい
3. 脳梗塞を起こしやすい
4. 未成年が吸うとよりニコチン依存症になりやすい
5. 肺がんになる可能性が高くなる
6. 認知症になる可能性が高くなる
7. 寿命が短くなる
8. 肺の機能が衰え、呼吸がしにくくなる可能性がある
9. うつ病になりやすい
10. 高血圧になりやすい
11. 糖尿病になりやすい
12. 胃潰瘍になりやすい
13. メタボリックシンドロームになりやすい
14. 妊娠しにくい
15. 妊婦が吸うと、低体重の赤ちゃんが生まれたり、早産になりやすい。

5 飲酒についておたずねします

問25 アルコール類（酒類）を飲みますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 毎日飲む
2. 週に5～6回飲む
3. 週に3～4回飲む
4. 週に1～2回飲む
5. 時々飲む
6. 以前は飲んでいたがやめた
7. 飲まない

問25-1 問25で「1～4」を選択された方におたずねします。一日あたり平均するとおおよそどれくらい飲みますか。最も近いものを1つ選んでください。

1. 1合未満
2. 1合
3. 2合
4. 3合
5. 4合
6. 5合以上

（薄めて飲む場合は原液の量でお答えください）

※主な酒類の換算の目安

お酒の種類	ビール (中瓶1本500ml)	清酒 (1合180ml)	ウイスキー・ブランデー (ダブル60ml)	焼酎(35度) (1合180ml)	ワイン (1杯120ml)
アルコール度数	5%	15%	43%	35%	12%
純アルコール量	20g	22g	20g	50g	12g

問26 あなたは、「適正な飲酒量」について知っていますか？

※「適正な飲酒量」とは、生活習慣病の発症や悪化に影響を及ぼさない飲酒量のこと、1人あたりの純アルコール摂取量が男性なら40g以下、女性なら20g以下をいいます。

1. はい
2. いいえ

問27 お酒を飲みすぎて翌日の仕事や学校等に遅刻する・集中できないなど影響をおよぼしたことが最近1ヵ月のうち2回以上ありますか。

1. ある
2. ない

問28 あなたの住む地域はおこないや祭りなどの行事のときに、未成年に飲酒を勧める習慣がありますか。

1. ある
2. ない

問28-1 問28で「1. ある」とお答えの方にお聞きします。そのことについて、どのように思いますか。

1. 以前からの風習のため、何とも思わない
2. 未成年の飲酒は違法だと知っているが、行事のときは仕方ない
3. 未成年の飲酒は違法だ
4. その他

6 歯科についておたずねします

問29 あなたは現在、何本の歯がありますか(差し歯も含む) () 本
※永久歯は、第三大臼歯（親知らず）を含むと全部で32本です。

問30 食生活において、噛むことに満足していますか。

1. はい
2. いいえ

問31 定期的に歯科健診等の予防のため、歯科医院を受診していますか。

1. はい
2. いいえ

問32 歯磨きの時に歯ぐきから血が出ることはありますか。

1. はい
2. いいえ

7 健康管理についておたずねします

問33 過去3年間に家族、友人、近所の人に健診を勧めたり、誘ったことがありますか。

1. ある 2. ない

問34 認知症になる可能性が高くなる病気や生活習慣にどのようなものがあるか知っていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 高血圧
2. 糖尿病
3. 高脂血症
4. 心疾患
5. 肥満
6. 喫煙
7. 運動不足
8. 飲酒
9. その他

問35 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）とは、「内臓脂肪が蓄積することによって、血圧や血糖が高くなったり、血中の脂質異常を起こしたりして、食事や運動などの生活習慣を改善しなければ、心筋梗塞や脳卒中などが起こりやすくなる状態」のことです。あなたは、この内容を知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 内容を知っている
2. 言葉を聞いたことはあるが内容は知らない
3. 知らない（今回の調査ではじめて聞いた場合を含む）

問36 20歳以上の人にお聞きします。あなたは、下記のア～エの健（検）診について、どこで受ける機会がありますか。1つ選んで○をつけてください。（それぞれ1つずつ）

1. 市の健（検）診 2. 職場・学校の健（検）診 3. その他 4. ない

- ア. 特定健診等（内科検診等） (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
イ. 胃がん検診 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
ウ. 大腸がん検診 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
エ. 肺がん検診 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)

問36－1 問36の健（検）診について、過去1年間に受けたものすべてに○をしてください。

1. 特定健診等 2. 胃がん検診 3. 大腸がん検診 4. 肺がん検診

問37 20歳以上の女性の方にお聞きします。あなたは、下記のア・イの検診について、どこで受ける機会がありますか。1つ選んで○をつけてください。（それぞれ1つずつ）

1. 市の検診 2. 職場・学校の検診 3. その他 4. ない

- ア. 子宮がん検診 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
イ. 乳がん検診 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)

問37－1 問37の検診について、過去2年間に受けたものすべてに○をしてください。

1. 子宮がん検診 2. 乳がん検診

8 心と休養についておたずねします

問38 自分の健康づくりのために実行していることがありますか。あてはまるものすべてをえらんでください。

1. 運動している
2. 趣味や気晴らしの時間をつくっている
3. 休養をとっている
4. 食事の量や質に注意している
5. 睡眠を十分とっている
6. 定期的に健診を受けている
7. 規則正しい生活をしている
8. たばこを控える、あるいはやめている
9. アルコールを控える、あるいはやめている
10. その他
11. 特にない

問39 起床時間と就寝時間を教えてください

1. 起床時間（ ）時（ ）分頃
2. 就寝時間（ ）時（ ）分頃
3. 平均睡眠時間（ ）時間

問40 いつもとっている睡眠で休養が十分とれていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 十分とれている
2. まあまあとれている
3. あまりとれていない
4. まったくとれていない
5. わからない

問41 ストレスで体を壊したことはありますか。

1. ある
2. ない

問42 あなたの周囲の人たちとの関係についてお聞きします。あなたの不満や悩みやつらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人はいますか。

1. いる
2. いない

問42-1 「1. いる」と回答された方におたずねします。それは誰ですか。（複数回答可）

1. 同居の親族（家族）
2. 1以外の親族(家族)
3. 友人
4. 近所の知り合い
5. その他（ ）

問43 悩みを抱えた時やストレスを感じた時に、誰かに相談したり、助けを求めたりすることは恥ずかしいことだと思いますか。あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。

1. そう思う
2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない
4. そうは思わない
5. わからない

問44 下記の症状が2週間以上続くことが「うつ病のサイン」であることを、あなたは知っていましたか。

【うつ病のサイン】

・自覚症状：眠れない、憂うつ、気分が重い（沈む）、悲しい、イライラする、集中力がない、好きなこともやりたくない、細かい事が気になる、決断が下せない、悪いことをしたように感じて自分を責める、死にたくなる

・周囲が気づく症状：表情が暗い、涙もろい、反応がおそい、落ち着きがない、飲酒量が増える

・身体症状：疲労・倦怠感、食欲不振、頭痛、下痢、便秘、性欲減退、喉の渇き、めまい

1. よく知っていた
2. 少しは知っていた
3. 知らなかった

問45 あなたは自分自身の「うつ病のサイン」を感じたことはありますか
1. はい 2. いいえ 3. わからない

問46 もし仮に、あなたが自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、あなたは最初にどうしますか。
1. 精神科に受診する 2. 精神科以外の医療機関に受診する
3. 保健所に相談する 4. 市役所に相談する
5. なにもしない 6. わからない

問47 もし仮に、身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき、あなたは最初にどうしますか。
1. 精神科への受診をすすめる 2. 精神科以外への医療機関への受診をすすめる
3. 保健所への相談をすすめる 4. 市役所への相談をすすめる
5. なにもしない 6. わからない

問48 下記のア～オの項目の時間について、あなたの認識に最も近いものを1～4の中から1つ選んで○をつけてください。（それぞれ1つずつ）

1. 十分取れている 2. まあ取れている 3. あまり取れていない 4. 全くとれていない

ア. 仕事のための時間 (1 . 2 . 3 . 4)
イ. 家庭生活のための時間 (1 . 2 . 3 . 4)
ウ. 地域活動のための時間 (1 . 2 . 3 . 4)
エ. 学習・趣味・スポーツなどのための時間 (1 . 2 . 3 . 4)
オ. 休養のための時間 (1 . 2 . 3 . 4)

問48-1 生活の中での優先度について、下記のアとイの場合において、それぞれ1つ選んでください。（現在仕事をされていない方は、あなたのお考えをお答えください）

1. 「仕事」を優先 2. 「家庭生活」を優先
3. 「地域・個人の生活」を優先 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 8. わからない

ア. あなたの希望に最も近いもの
(1 . 2 . 3 . 4 . 5 . 6 . 7 . 8)
イ. あなたの現実（現状）に最も近いもの
(1 . 2 . 3 . 4 . 5 . 6 . 7 . 8)

問56 あなたは、人生の最期(看取り)をどこで迎えたいですか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。

1. 自宅
2. 病院
3. 介護老人保健施設
4. 特別養護老人ホーム
5. その他(有料老人ホーム・ケアハウス) など
6. わからない

問57 平成25年6月より、市立長浜病院と長浜赤十字病院、彦根市立病院が情報提供病院として構成する「湖東・湖北医療ネット」がスタートし、病院を受診された患者さんの診療情報を患者さんの同意を得て、これに参加している地域の診療所等医療機関が病院の持つ情報（各種検査結果、CTやエックス線写真など）を閲覧・共有できることになりました。あなたは、この医療ネットを利用したいとお考えですか。

1. 利用したいと思う
2. 利用したいと思わない
3. よくわからない
4. すでに利用している

問58 あなたは、医療や病気に関する情報を主に何から得ていますか。得ている情報の多いものを3つまで選んでください。

1. 市から（広報「ながはま」、パンフレット、ホームページなど）
2. 県から（広報紙、パンフレット、ホームページなど）
3. テレビ、ラジオ
4. 新聞、雑誌
5. 専門書
6. 病院、診療所、かかりつけ医
7. 家族、友人・知人、近隣
8. インターネット
9. 特にない
10. その他（ ）

問59 あなたにとって、医療や病気に関して、どのような情報が必要ですか。必要と思われるものを、3つまで選んでください。

1. どこにどのような医療機関があるかについての情報
2. 休日・夜間の救急時の医療機関についての情報
3. がん・心臓病・脳卒中など特定の病気の専門医療機関についての情報
4. 物忘れや認知症に対応してくれる医療機関の情報
5. 訪問看護ステーションについての情報
6. リハビリテーションについての情報
7. 医療の受け方や、セカンドオピニオン（一人の医師による診断や治療方針に対して、別の医師による診断や治療方針に対して、別の医師の意見を聞くこと）についての情報
8. 急病や外傷時の応急手当に関する情報
9. その他（ ）
10. 特にない

問60 あなたは、医療を安定的に受ける（いつでもどこでも安心して医療が受けられる）ためにどのようなことをすれば良いと考えますか。自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。